

タイトル	マルクス「1861-63年草稿」ノート第XX-XXIII冊「追補」の分析：「厚いノートDickes Heft」および「サブノートBeihefte」との関連において
著者	森下，宏美
引用	季刊北海学園大学経済論集，58(1)：1-67
発行日	2010-06-30

《論説》

# マルクス「1861-63年草稿」 ノート第XX-XXIII冊「追補」の分析

—「厚いノート Dickes Heft」および  
「サブノート Beihefte」との関連において—

森 下 宏 美

## 目 次

1. 本稿の課題と方法
2. 「引用ノート Citatenheft」の分析
  - 2-1. 構成上の特徴
  - 2-2. 作成過程の特徴
3. HeftXX-XXIII「追補」の分析
  - 3-1. 構成上の特徴
  - 3-2. 作成過程の特徴
    - 3-2-1. 「厚いノート Dickes Heft」について
    - 3-2-2. 「サブノート Beihefte」について
    - 3-2-3. 作成過程の特徴
4. 引用関係の分析
5. 結論

資料1 「厚いノート Dickes Heft」抜粋文献一覧

資料2 「サブノート Beihefte」抜粋文献一覧

資料3 「1861-63年草稿」HeftXXI-XXIIIの内容目次

資料4 「1861-63年草稿」HeftXX-XXIII「追補」の構成

資料5 引用関係

資料6 引用比較

## 1. 本稿の課題と方法

本稿は、マルクスが作成した2種類の抜粋ノートおよび「1861-63年草稿」ノート第XX-XXIII冊「追補」部分の分析から得られた、『資本論』形成史に関する知見の報告である。

2種類の抜粋ノートとは、マルクスがそれぞれ「厚いノート」および「サブノート」と呼んだところのものである。これらのノートの詳細については、3-2-1.および3-2-2.で述べることとするが、これらはいずれも未公開のものであり、「厚いノート」に関する情報については、先行研究、とりわけ佐武弘彰氏と大野節夫氏の研究に多くを負った。「サブノート」に関しては、これを収録する新メガ第IV部門第17巻(MEGA<sup>®</sup> IV/17<sup>1</sup>)の編集作業に携わる者としての立場から筆者が入手したフォトコピーと解読タイプ原稿、および日本学術振興会科学研究費補助金によ

る研究プロジェクト<sup>2</sup>を通じて入手した「サブノート」のデジタル画像を利用した。

MEGA<sup>®</sup> 第IV部門は、マルクスが作成した約200冊に及ぶ抜粋ノート類を収録する独立した部門であり、順次公刊が進められている。本稿では、MEGA<sup>®</sup> IV/17の編集作業を通じて得られた「サブノート」に関する情報を、すでに公刊されている「1861-63年草稿」<sup>3</sup>等の諸資料および先行研究の成果と結びつけながら、抜粋ノートを用いた『資本論』形成史研究のひとつの試みを提示したい。

1861年8月、マルクスは、『経済学批判。第1分冊』—「第1章 商品」「第2章 貨幣または単純流通」—の続篇たる『第2分冊』—「第3章 資本一般」—の執筆に着手する。その作業は1863年7月まで続き、「1861-63年草稿」と呼ばれる計23冊のノートが作成された。本稿が取り扱うのは、そのうちのノート第XX-XXIII冊（以下、HeftXX-XXIIIと表記する。）である。

1861年8月に「第3章 資本一般」の執筆を開始したマルクスは、1862年3月に、HeftVの途中で「3 相対的剰余価値」の執筆を中断し、残りのページを空白にしたまま、HeftVIで「5 剰余価値に関する諸学説」の項を書き始めた。そうしてHeftXVIIIまでを書いたマルクスは、1863年1月に、HeftVで中断した「3 相対的剰余価値」の執筆に戻り、HeftVを書き終えたあとHeftXIXへと進み、以下HeftXXIIIまでを作成していった。HeftXX-XXIIIの作成時期は、Heft XX=1863年3-5月、Heft XXI=1863年5月、Heft XXII=1863年5月、Heft XXIII=1863年6-7月と推定されている<sup>4</sup>。その内容は以下に示すとおりである。

#### HeftXX-XXIIIの内容

(HeftV S.211)	[3 相対的剰余価値 γ 機械。自然諸力と科学との応用（蒸気、電気、機械的諸作用因と化学的諸作用因）（続き）]
(HeftV S.219)	⋮
(HeftXIX S.1159)	⋮
	分業と機械制作業場。道具と機械
(HeftXIX S.1241)	⋮
HeftXX S.1242	⋮
	機械による労働の代替

<sup>1</sup> 新メガ第IV部門第17巻は、Karl Marx-Friedrich Engels Gesamtausgabe Vierte Abteilung Band 17, Karl Marx: Exzerpte und Notizen Mai bis Juni 1863として出版される予定である。なお以下では、新メガをMEGA<sup>®</sup>と略記し、MEGA<sup>®</sup> IV/17などと表記する。

<sup>2</sup> 本稿は、日本学術振興会科学研究補助金〔基盤研究（B）19330042「マルクス抜粋ノートの編集とその活用による『資本論』形成史研究の新段階の開拓」（研究代表者：平子友長／2007年度～2009年度）〕による研究成果の一部である。

<sup>3</sup> MEGA<sup>®</sup> II/3, Karl Marx Zur Kritik der Politischen Ökonomie (Manuskript 1861-1863), Dietz Verlag, 1982, 邦訳：資本論草稿集編集委員会訳『マルクス資本論草稿集4～9 経済学批判（1861-1863年草稿）I～VI』大月書店、1980-94年。以下、『資本論草稿集4～9』と略記する。

<sup>4</sup> MEGA<sup>®</sup> II/3 Apparat, S.2399, 『資本論草稿集4』pp.53\*-4\*

		蓄積
		h 相対的および絶対的剰余価値
		賃金と剰余価値との関係
		労働の価値または価格という、労働能力の価値の転化した形態
		剰余価値と可変資本との、あるいは剰余労働と必要労働との関係の
		派生的諸定式
	S.1291a	⋮
		追補
HeftXX	S.1294a	⋮
HeftXXI	S.1300	⋮
		間奏。ヒュームとJ・マッシー
	S.1301	⋮
		i 資本のもとへの労働の形態的包摂と実質的包摂。過渡諸形態
		k 資本の生産性、生産的および不生産的労働
	S.1331	⋮
		追補
HeftXXI	S.1345	⋮
HeftXXII	S.1346	⋮
		歴史的〔追補〕。ペティ
	S.1352	⋮
	S.1353	4 剰余価値の資本への再転化
		$\alpha$ 剰余価値の資本への再転化
		$\beta$ いわゆる本源的蓄積
	S.1397	⋮
		追補
HeftXXII	S.1406	⋮
HeftXXIII	S.1407	⋮
	S.1460	⋮
	S.1461	いわゆる本源的蓄積
		利子計算
HeftXXIII	S.1471	⋮

HeftXX-XXIIIの内容は、およそ以上のようなものであるが、そのうち本稿が分析対象とするのは、草稿の途中に置かれている3つの「追補」部分である。HeftXX S.1291aからHeftXXI S.1301に書かれている「追補／間奏。ヒュームとJ・マッシー」(約6ページ分)、HeftXX S.1331からHeftXXII S.1352に書かれている「追補／歴史的〔追補〕。ペティ」(約22ページ分)、HeftXXII S.1397からHeftXXIII S.1460に書かれている「追補」(約65ページ分)の3つがそれである。これらの「追補」部分(計約93ページ)には多数の著作からの抜粋が書かれているが、それはいかなる目的のために書かれたのであろうか。このことについて、ひとつの解釈を提示することが、本稿の課題である。



あらかじめ結論を言えば、筆者は、HeftXX-XXIII「追補」部分は『資本論』の草稿を執筆するための《引用ノート》としての役割を果たした、との解釈を提示したいと考えている。「《引用ノート》としての役割」とは、次のような意味である。マルクスは、「第3章 資本一般」の執筆にあたり、そのための準備資料として、それまでに作成した多数の経済学抜粋ノートを通覧し、それらから一定のタイトルのもとに転記し整理したノートを作成している。これが「第3章 資本一般」執筆のための「引用ノート」である。本稿における筆者の推測は、マルクスが『資本論』の草稿を執筆した際、「第3章 資本一般」の執筆過程で「引用ノート」が果たしたのと同様の役割を、HeftXX-XXIII「追補」部分が果たしたのではないか、ということである。

このような解釈を提示するにあたり、本稿では以下の手順で分析を進めてゆく。

第1に、「引用ノート」の構成上および作成過程の特徴を析出し、同じ特徴がHeftXX-XXIII「追補」部分にも認められることを示す。

第2に、HeftXX-XXIII「追補」部分の抜粋と、『資本論』第1巻初版（以下、『資本論』初版と略記）での引用とを比較し、「厚いノート」・「サブノート」→HeftXX-XXIII「追補」部分→『資本論』初版という引用関係を推測させる事例が数多く存在することを示す。

## 2. 「引用ノート Citatenheft」の分析

そこでまずはじめに、「第3章 資本一般」の準備資料として作成された「引用ノート Citatenheft」の構成上および作成過程の特徴を明らかにしたい。

「引用ノート」の成り立ちとその役割について、MEGA<sup>®</sup> II/3の編集者は次のように解説している。多少長くなるが引用しておこう。

「マルクスは彼の主著のために、多年にわたって、きわめて広範囲に及ぶ文献研究を行なった。そのさい抜き書きを行なうのが通例であった。こうして年月とともに、数十冊の抜粋ノートが生まれたが、マルクスはこれらのノートをたえず繰り返して仕事の資料として利用した。とくに興味をそそるのは、たとえば『完成した貨幣制度』、『貨幣制度、信用制度、恐慌』、『参照事項』、のような、テーマ別に作られたノートである。これらのノートでは、以前すでに引用されたものが、ある特定の視点や項目のもとにまとめられ、また一部には簡潔な論評がつけられている。マルクスはこのように大量の材料を整え、それからそれを自分の草稿のなかで使いこなしたのである。本草稿の場合にも、マルクスはこのような仕方、あらかじめ自分の『引用ノート』によってその準備をしていた。彼はいつでもノートの右ページに表題を書き、そのもとに、既存の抜粋ノート、とくに、50年代の24冊のノートから、資本一般についての章のためのものとしていたもろもろの引用を採り入れた。『資本。I 資本の生産過程』という大見出しのもとに、マルクスは次の諸項目を設けた、—『A 貨幣の資本への転化。B 自由な労働。奴隷労働、賃労働。C 資本形成と国家。D 労働の生産性。E 固定資本による利潤への影響。価値規定に影響する、期間、等々。F 労働日による価値の度量と労働の価値による度量。G 利潤と労賃とは単なる分配量。H 利潤（剰余価値）。I 労賃。J 資本の蓄積。（利潤率）K 資本。M 機械。N 固定資本。流動資本。O 農業。P 労働の生産性の増大。[Q] 一般的利潤率』。

はじめ『引用ノート』は、6枚の全紙からなっていた。これでも足りなくなると、マルクスは新しい全紙を、一部は新しい表題ないしその下位の表題 — たとえば『資本の一般的形態』、『資

本の再生産』、『剰余価値と利潤』、『資本』、『一般的利潤率』のような——を書いて、付け加えた。このようにしていくつもの段階を経てしだいに、全紙23枚もある、マルクスによって1-92のページ番号が付けられた、一冊の大部のノートができあがった。

(中略)

『引用ノート』は、1861-63年の草稿の仕事にとって、とくにはじめの5冊のノートの仕事をするさいの、きわめて重要な基礎であった。マルクスはこの『引用ノート』を、それ以前に作成した数十冊の抜粋ノートの内容を見るための手引としたのである。アムステルダムの社会史国際研究所に保管されているこのノートの状態を見ただけでも、マルクスがこのノートをどんなに頻繁に利用したかがわかる。このノートに収められているほとんどすべての引用が草稿に採り入れられた。そしてそのあと、使用じるしがつけられた。<sup>5</sup>

「引用ノート」がいつ作成されたのかについて、上の解説は何も述べていない。作成時期については、1859年秋-61年夏とする説(大野・佐武)<sup>6</sup>、1859年-60年5-8月とする説(フォッケ)<sup>7</sup>、1859年2月-60年1月とする説(ミシケーヴィチ)<sup>8</sup>など諸説あり、確定していない。本稿では、「引用ノート」の作成時期については立ち入った考察は行わず、主として、ノートの構成と作成過程に焦点をあて、「引用ノート」の特徴をつかむことにしたい。

## 2-1. 構成上の特徴

先の解説にもあったとおり、「引用ノート」にはいくつかの項目が立てられ、それらの項目のもとにマルクスは、既存のノートから多くの引用を取り入れている。「引用ノート」の構成上の大きな特徴はこの点にある。「引用ノート」の中に立てられている項目について、大野氏と佐武氏は、以下のように、さらに詳細な情報を提供している。

### 「引用ノート」中の項目

- S.1 a) Bildung d. Verhältnissen v. Capital u. Lohnarbeit  
Losreissung d. Arbeiters v. d. Erde
- S.2 a<sup>1</sup>) Arbeitslohn u. Productivität d. Arbeit, Fallen d. Profitrate.
- S.3 Capital
  - I) Productionsprozeß des Capitals
  - A) Verwandlung v. Geld in Capital
 Capital, Geld, Waare. Allgemeine Beg.
- A) Stock
- B) Freie Arbeit. Sklavenarbeit. Lohnarbeit
- S.4 C) Capitalbildung und Staat

<sup>5</sup> MEGA<sup>®</sup> II/3 Apparat. S.2399-401, 『資本論草稿集4』pp.54\*-7\*

<sup>6</sup> 大野・佐武1984

<sup>7</sup> Focke 1978

<sup>8</sup> 大村・八柳1981

- S.5 D) Productivität d. Arbeit
- S.6 E) Einfluss d. Profits durch capital fixe, Zeitlange etc. auf d. Werthbestimmung
- S.7 F) Maas d. Werths durch Arbeit od. durch Werth d. Arbeit
- S.8 G) Profit u. Arbeitslohn blosse Rationen
- S.11 G<sup>1)</sup> D. Sparen u. Hoard. Entsagungstheorien (Diensttheorie.)
- S.12       Productionskosten (Surplusvalue)
- S.13       Capital (Geld Capital, Waren Capital, Industrielles Capital)
- S.15       Productivität d. Arbeit
- S.17 H) Profit (Surplus value)
- S.19 J) Arbeitslohn
- S.20 J<sup>1)</sup> Accumulation d. Capitals (Profitrate)
- S.21 K) Capital
- S.23 M) Maschinerei
- S.29       Entwicklung der großen Industrien
- S.30 N) Capital fixe, Capital circulant
- S.31       Production u. Distribution
- S.32 O) Agricultur
- S.33 O<sup>1)</sup> Trennung d. Arbeiters von der Productionsbedingungen. Average Minimum d. Salairs. Zwangsarbeit
- S.35 O<sup>2)</sup> Schranken d. capitalistischen Production.
- S.36       Allgemeine Form d. Capitals. G-W-G
- S.37       Reproduction of Capital
- S.39       Surplusvalue u. Profit
- S.41       Productive u. unproductive Arbeit
- S.43       Circulation d. Capitals
- Dormant Capital od. Labour
- S.45       Value bestimmt by quantity of labour od. by value of labour
- Arbeitslohn
- S.47       Surplus Value
- S.49       Capital Fixe, Capital Circulant
- S.51       Maschinenien
- S.53       Profit of enterprise (wages of accumulated labour etc.)
- S.54       Agricultur, Brodptflanzen
- S.55       Capital u. Lohnarbeit
- S.59       Durchschnittsarbeitslohn
- S.60       Wachstum v. Productivkraft (u. Capital) u. Persons employed
- S.61       Surplusvalue, Lehre d. Physiokraten
- S.63       D. verschiedene Bestandtheile d. Capitals (Capital Constant u. Approvisionnement)
- S.65       Capital bei d. Physiokraten

S.67	Profit u. Austausch
S.68	Maschinerei
S.69	Surplusarbeit
S.70	Profit u. Arbeitslohn blosse Rationen
S.71	Profit u. Arbeitslohn blosse Rationen
S.72	Economical Changes Changes of Capital
S.73	P) Vermehrung d. Productivkraft d. Arbeit
S.74	General rate of Profit
S.76	Profit (Profit of enterprise)
S.77	Capital
S.81	Spar-Hoard u. Saving Theory
S.83	General Rate of Profit. (u. Accumulation)
S.86	Capital u. Productivität d. Arbeit
S.91	Productionszeit. Circulationszeit. (Einfluss v. time auf value) <sup>9</sup>

上記の一覧から、MEGA<sup>®</sup> II-3の編集者による解説では簡単にしか触れられていなかった「新しい表題」や「下位の表題」をも含めた、「引用ノート」の構成の全体像をつかむことができる。さらに、解説の中では、「B 自由な労働。」から「P 労働の生産性の増大。」までのタイトルは、「A 貨幣の資本への転化。A) Verwandlung v. Geld in Capital」に続くものとされていたが、正確には、「A 資材 A) Stock」に続くものであることが分る<sup>10</sup>。なお、ここでは、「引用ノート」の項目をページ順に示したが、ページ付けは書かれた順序を意味しないことに留意されたい<sup>11</sup>。

それでは、これらの項目の構成にはどのような意味があるのだろうか。佐武氏は、これらの構成のうちになんらかのプラン性・体系性を見て取ることができるのは、1ページのa) Bildung d. Verhältnissen v. Capital u. Lohnarbeit/Losreissung d. Arbeiters v. d. Erdeから、5ページのD) Productivität d. Arbeitまでであり、6ページのE) Einfluss d. Profits durch capital fixe, Zeitlänge etc. auf d. Werthbestimmung以降は、抜粋ノートの諸学説の内容に即した項目立てが行われていると見ている<sup>12</sup>。そしてそこには、プラン性・体系性とは別の、マルクスの問題意識が表われている。先の一覧から分かるように、そこにはしばしば同一ないし類似の項目が存在する。たとえば、5ページと15ページには「Productivität d. Arbeit」という同じ項目が、また、86ページには「Capital u. Productivität d. Arbeit」という類似の項目が立てられている。同様のことは、7, 45ページ, 8, 70, 71ページ, 19, 45, 59ページ, 21, 65, 77ページ, 23, 51, 68ページ, 47, 61ページなどにも見られる。こうしたところに、諸文献からの抜粋を整理するにあたってのマルクスの問題意識・視点を見て取ることができるであろう<sup>13</sup>。

<sup>9</sup> 大野・佐武1984：pp.44-5。

<sup>10</sup> 大野・佐武1984：p.26

<sup>11</sup> 詳細については、大野・佐武1984を参照されたい。

<sup>12</sup> 佐武1983b：p.169

<sup>13</sup> 大野・佐武1984：p.43

このような項目の構成に関して、とくに注目したいのは、E)以降に見られるような、抜粋ノートの諸学説の内容に即した項目立てが大部分を占めていることである。この点を、「引用ノート」の構成上の特徴ととらえておこう。

## 2-2. 作成過程の特徴

次に、「引用ノート」の作成過程について見てみよう。大野氏と佐武氏によれば、「引用ノート」の作成過程はおおよそ以下のようなものである<sup>14</sup>。

1859年秋頃にマルクスは、「A) Stock」の項目のもとに、「ロンドン・ノート」第Ⅶ冊の1ページから、E. G. ウェイクフィールド編 A. スミス『国富論』第2巻 (An inquiry into the nature and causes of the wealth of nations. With a commentary, by the author of “England and America” Vol.2. London 1835) 387ページでのウェイクフィールドの注を転記した。それに始まってマルクスは、「ロンドン・ノート」第Ⅶ冊からページ順に転記を行い、続いて第Ⅸ-ⅩⅣ冊、第ⅩⅥ-ⅩⅦ冊までのノートからこの順に転記している。次に「ロンドン・ノート」第Ⅰ冊、第Ⅳ-Ⅶ冊に見出される抜粋を転記したのち、第ⅩⅩ-ⅩⅩⅡ冊から転記している。「ロンドン・ノート」からの転記を終えたマルクスは、次に「ブリュッセル・ノート」、「マンチェスター・ノート」、「パリ・ノート」へと進み、その後、1861年夏までに、「厚いノート」の既抜粋部分からの転記を行い、そこで「引用ノート」の作成を終えたと思われる。

「引用ノート」の作成過程に関する上記の説明から分かることは、マルクスは、「ロンドン・ノート」、「ブリュッセル・ノート」、「マンチェスター・ノート」、「パリ・ノート」、「厚いノート」と順にページを繰りながら「引用ノート」への転記を行っていったということである。この点を、「引用ノート」の作成上の特徴ととらえておこう。

## 3. HeftXX-XXIII「追補」の分析

次に、2. で確認した「引用ノート」の特徴と同じ特徴を、HeftXX-XXIII「追補」部分にも認めることができるかどうかについて、検討してみよう。

### 3-1. 構成上の特徴

たとえば、HeftXX S.1291a-HeftXXI S.1301の「追補/問奏。ヒュームとJ・マッシー」(約6ページ分)は、「われわれはさらに先にすすむ前に、なお2, 3の、これまでに展開された第1篇全体にかかわる引用文を掲げ、詳述しておこう。」という叙述で始まり、続いて「ホッブズによれば、科学は技術の母であるが、科学を实地に移す労働はそうではない。Nach Hobbes ist die Wissenschaft, nicht die ausführende Arbeit die Mutter der Künste.」というマルクスの叙述のあとに、モウルズワース編『Th. ホッブズの英文著作集』第3巻所収『リヴァイアサン』75ページからの引用が書かれている。マルクスの叙述の中の「科学 Wissenschaft」、「科学を实地に移す労働 ausführende Arbeit」の下線は、マルクス自身が強調のためインクで引いたものである。抜粋のあとにマルクスは、簡単な注釈を書いたのち、段落を変えて、「労働能力。

<sup>14</sup> 大野・佐武 1984: pp.25-42

Arbeitsvermögen:」と、やはりインクによる下線で強調した書き込みを行い、そのあとにすぐ続けて、ホップズの同書 76 ページおよび 233 ページから引用している。さらにマルクスは、次の段落に、「生産的労働と不生産的労働。Productive und unproductive Arbeit.」と書き、ホップズの同書 333 ページから引用している<sup>15</sup>。

ここで注目したいのは、引用の前に置かれている、インクの下線によって強調されたマルクスの書き込みである。筆者は、これらの書き込みは、「引用ノート」中に立てられた諸項目と同じ性格のもの、つまり、数多くの抜粋を整理するための項目、そして、のちにそれらの抜粋を利用するさいの見出しとしての性格を持つものではないかと考えている。その観点から、3つの「追補」部分について、抜粋のための項目・見出しとして役立ったのではないかと推測されるすべてのマルクスの書き込みと、それらの項目・見出しのもとに引用されている諸文献のページを調査した。その結果が資料4である。

取り出した項目は 339 項目であり、そのうち 284 項目は、Heft XXII S.1397-Heft XXIII S.1460 の「追補」(約 65 ページ分)に属するものである。取り出した項目は、例えば、「労働能力」、「生産的労働と不生産的労働」、「単純協業」、「土地の自然生産性」などのような理論上の概念であったり、「ロック」、「ヒュームとマッシー。」などの人名であったり、あるいは「(J. マッシー)『自然的利子率を支配する諸原因に関する一論。この問題に関するサー・W・ベティとロック氏の意見の検討を含む』、ロンドン、1750年。」などの書名であったりと、種々のタイプのものが混在している。今後それらの分類が必要と思われるが、本稿では、それらを区別せず一括して取り扱った。また、これらの項目のほとんどは、マルクスがインクの下線で強調している本文中の書き込みであるが、その他に、欄外での書き込みなども含まれている。それについても、本稿では区別していない。

これらの項目を一瞥して分かることは、そこになんらかのプラン性・体系性を認めることは難しいということであり、「引用ノート」のE)以降の項目と同じように、諸学説の内容に即した項目が次々と立てられていったと推測されることである。しかもそこには、同一ないし類似の項目が随所に現れており、この点でも「引用ノート」との構成上の共通点を見て取ることができる。

### 3-2. 作成過程の特徴

次に、Heft XX-XXIII 「追補」部分がどのように作成されていったのかについて見てみよう。資料4から分かるように、「追補」部分の引用のほとんどは、「厚いノート」と「サブノート」に抜粋されている諸文献からのものである。そこで、「追補」部分の作成過程の分析に入る前に、「厚いノート」と「サブノート」について、その概要を説明しておこう。

#### 3-2-1. 「厚いノート Dickes Heft」について

「厚いノート Dickes Heft」とは、「1857-58年草稿」として書かれた7冊のノートのうちの7冊目のノートのことである。マルクスは、このノートの1~64ページに草稿の最終部分を書き、残りのページを抜粋ノートとして利用している。このノートの厚さは約1.5センチあり、マルクスは、このノートの抜粋部分への参照指示を与える場合、しばしばこれを「厚いノート

<sup>15</sup> MEGA<sup>2</sup> II/3-6 S.2117-8, 『資本論草稿集 9』 pp.353-4

Dickes Heft」と呼んでいる<sup>16</sup>。1859 年 2 月 28 日に始まった「厚いノート」への抜粋作業は、いくつかの中断を経て 1863 年 5 月まで継続した。

マルクスは、草稿の最終ページである 64 ページのあと、2 葉（1 葉 = 2 ページの欠落と 1 葉のページ付けのない白紙）をおいて<sup>17</sup> 63 ページと記入し<sup>18</sup>、ここに「1859 年 2 月 28 日起筆」と書き入れている<sup>19</sup>。以下、63 から 277 までのページ付けがなされ<sup>20</sup>、そのほとんどが、各種文献資料からの抜粋に充てられている。資料 1 は、「厚いノート」に抜粋された諸文献を、ノートのページとともに示した一覧表である<sup>21</sup>。佐武氏と大野氏によれば、抜粋文献は 114 点にのぼり、そのうちの 76 点については、ノート 227 ページにマルクスが作成した内容目次にそのタイトルが記載されている<sup>22</sup>。

それらの文献からの抜粋は、1859 年 2 月 28 日に始まり、いくつかの中断を含みながら、1863 年 5 月まで続いたと考えられている。佐武氏と大野氏は、「厚いノート」における抜粋作業を次の 3 つ段階に区分している<sup>23</sup>。

第 1 段階 1859 年 2 月 28 日-60 年後半 (63-182 ページ)

(1) 1859 年 2 月 28 日-5 月 11 日以前 (63-104 ページ)

※ 105-6 ページは空白である。

(2) 1859 年夏-秋 (107-45 ページ)

※ 146 ページは空白のままであり、それに続く 2 ページ分にはページ付けがなく、同じく空白のままである。さらに 2 ページ分が欠落している。

<sup>16</sup> その例のいくつかを、本稿の分析対象である HeftXX-XXIII の中に求めてみると、以下のとおりである。(Siehe p.245 das Dicke Heft) 「(厚いノート, 245 ページを見ること)」MEGA<sup>®</sup> II/3-6, S.2294, 『資本論草稿集 9』p.609

(Gegen die Physiokraten S.95. Dickes Heft.) (Unten) 「(重農学派に対する反論は厚いノートの 95 ページ。)(下段。)」MEGA<sup>®</sup> II/3-6, S.2366, 『資本論草稿集 9』p.734

(S.96 Dickes Heft unten) 「(厚いノート, 96 ページ下段。)」MEGA<sup>®</sup> II/3-6, S.2366, 『資本論草稿集 9』p.734

(S.98 Dickes Heft.) 「(厚いノート, 98 ページ。)」MEGA<sup>®</sup> II/3-6, S.2366, 『資本論草稿集 9』p.734

<sup>17</sup> 佐武・大野 1984 : p.121

<sup>18</sup> 64 ページ以降のページに何故 63 というページ付けが新たになされたのかについて、ミシケーヴィチは次のように推測している。1857-58 年草稿ノート第 7 冊は、63 ページに普通の鉛筆で抹消された「価値」章冒頭の草案を、64 ページにこれまた普通の鉛筆で抹消された若干の引用文とを含んでいるが、マルクスは、抹消したこれらの部分をあたかも存在しなかったものようにみなし、新たに 63 ページから番号をつけ始めたのではないか、というものである。しかし、ミシケーヴィチ自身も言うように、たんなる誤記の可能性もある(大村・八柳 1981 pp.297-8)。新たに付された「63」というページ付けに関して、MEGA<sup>®</sup> II/3 の編集者はこれを「63a」と指示している。しかし、「a」の文字は、後年マルクス以外の人物によって鉛筆で書き添えられたものであることが確認されている(MEGA<sup>®</sup> II/3 Apparat, S.2339-400, 『資本論草稿集 4』p.55\*, 大村・八柳 1981 p.297, 佐武・大野 1984 p.122)。

<sup>19</sup> MEGA<sup>®</sup> II/3 Apparat, S.2339-400, 『資本論草稿集 4』p.55\*, 佐武・大野 1984 p.121

<sup>20</sup> MEGA<sup>®</sup> II/3 Apparat, S.2339-400, 『資本論草稿集 4』p.55\*, 佐武・大野 1984 p.122

<sup>21</sup> 佐武・大野 1984, および, MEGA<sup>®</sup> IV Exzerpte, Notizen, Marginalien Allgemeiner Prospekt der Bände 13 bis 32 (Neufassung), により作成。

<sup>22</sup> 佐武・大野 1984 p.123. 上記 Allgemeiner Prospekt では、佐武・大野 1984 によっては記載されていない文献がいくつか記載されている。資料 1 の注を参照のこと。

<sup>23</sup> 佐武・大野 1984 pp.130-1

- (3) 1859年12月-60年後半(147-82ページ)  
 第2段階 1861年夏-62年夏(183-233ページ)  
 (1) 1861年夏(183-92ページ)  
 (2) 1861年夏-62年3月(193-209ページ)  
 (3) 1862年3月-夏(209-33ページ)  
 第3段階 1862年夏-63年5月(234-69ページ)  
 (1) 1862年夏-63年5月(234-41ページ)  
 (2) 1863年5月(242-69ページ)

このうち第3段階は、HeftXX-XXIIIの作成時期と重なっており、後に詳しく見るように、「追補」部分と密接なつながりを持っている。

### 3-2-2. 「サブノート Beihefte」について

「サブノート Beihefte」は、1863年5月から6月にかけてマルクスが作成した8冊の抜粋ノートのことである。これらの抜粋ノートにはAからHまでの記号が付され、総ページ数は786ページである。1863年5月29日付エンゲルス宛の手紙の中でマルクスは、この時期の自身の仕事について次のように書いている。

「その後も、もちろん、なまけていたのではないが、仕事はできなかった。僕のやったことは、一つは、ロシアプロイセンポーランド事件における僕の穴(外交的、歴史的なそれ)を埋めるといふこと、もう一つは、経済学で僕が取り扱った部分にかんする、ありとあらゆる種類の文献史的なものを読んで書き抜くことだった。これは大英博物館でやった。」<sup>24</sup>

「経済学で僕〔マルクス—筆者〕が取り扱った部分にかんする、ありとあらゆる種類の文献史的なもの」の抜粋ノートとして作成されたのが、8冊の「サブノート」である。それぞれの作成時期は、「サブノートA」=1863年5月、「サブノートB」=1863年5月、「サブノートC」=1863年5月・6月、「サブノートD」=1863年6月、「サブノートE」=1863年5月・6月、「サブノートF」=1863年6月、「サブノートG」=1863年6月、「サブノートH」=1863年6月と推定されている<sup>25</sup>。資料2は、「サブノートA-H」に抜粋された経済学関係の141の文献を、各ノートごとにページ順に示したものである。

### 3-2-3. 作成過程の特徴

そこで次に、HeftXX-XXIII「追補」部分の作成過程をしてみることにしよう。「追補」部分の作成は、一部の例外を除き、基本的に「厚いノート」および「サブノートA-H」から抜粋を転記するというかたちで行われている。では、どのような手順で作業を進めたのであろうか。3つの「追補」部分について順に見てゆこう。

<sup>24</sup> 「1863年5月29日付エンゲルス宛マルクス書簡」(Karl Marx-Friedrich Engels Werke Bd. 30, S.350, 大内兵衛・細川嘉六監訳『マルクス=エンゲルス全集 第30巻』大月書店, p.280)

<sup>25</sup> Allgemeiner Prospekt, 参照。



(1) HeftXX S.1291a-HeftXXI S.1301の「追補／間奏。ヒュームとJ・マッシー」(約6ページ分)【資料4：見出整理番号2-8】

この部分では、Hobbes 1839 → Locke 1768 → Locke 1740 ([Massie] 1750からの引用) → Hume 1764a → Hume 1764b → [Massie] 1750の順で引用が行われている。資料1にあるとおり、Hobbes 1839, Locke 1768, Hume 1764a・bは、「厚いノート」のS.237-41, S.235-6, S.234-5に抜粋されている。この抜粋は、先の時期区分にしたがえば、第3段階の(1)1862年夏-63年5月(234-41ページ)のものであり、Heft XX-XXIの作成時期と重なっている。[Massie] 1750は、資料2にあるとおり、「サブノートA」のS.7-10に抜粋されている。したがってここでは、マルクスが、「厚いノート」→「サブノートA」へと読み進めながら転記を行っていたことが分かる。

(2) HeftXXI S.1331-HeftXXII S.1352の「追補／歴史的〔追補〕。ペティ」(約22ページ分)【資料4：見出整理番号9-55】

①見出整理番号9-24

この部分では、「引用ノート」→「サブノートB」→「厚いノート」→「サブノートB」→「サブノートC」→「厚いノート」の順で転記作業が行われている。この部分に関しては、抜粋ノートの利用の順序に関する何か一貫した方針というものを見出しにくい。なぜこのような引用の配置になっているのかについて、ノートの順番とは別の説明論理が必要である。なお、これらのノートのうち「厚いノート」から採られているのは[Malthus] 1815a・b・cであり、これらの抜粋は、「厚いノート」S.262-9にある。先の時期区分でいえば、第3段階の(2)1863年5月(242-69ページ)のものであり、Heft XXI-XXIIの作成時期と重なっている。

②見出整理番号25-55

まず、見出整理番号27-50では、「サブノートA」から、Berkley 1750 → An Essay 1834 → [Hodgskin] 1832 → An Essay 1821 → Dunning 1860 → Petty 1667の順で転記がなされている。このことは、資料2から明らかのように、マルクスが「サブノートA」からページ順に転記していったことを示している。見出整理番号51-55では、「厚いノート」・「サブノート」以外のノートから、あるいは著作から直接に引用されている。

(3) HeftXXII S.1397-HeftXXIII S.1460の「追補」(約65ページ分)【資料4：見出整理番号56-339】

①見出整理番号56-73

この部分では、「サブノートA」から、概ね、Petty 1667 → Petty 1691 → Petty 1695 → [Buat] 1773の順で転記がなされている。このことは、資料2から明らかのように、マルクスが「サブノートA」の残りのページを順に繰りながら転記していったことを示している。

②見出整理番号74-88

この部分では、「厚いノート」から[Dickson] 1773, [Smith(C.)] 1758, 「サブノートE」からAn Inquiry 1772, 「サブノートB」からBurke 1800, Price 1803が、また、出所は不明であるが, Addington 1772, MacCulloch 1845, Macaulay 1854の引用がある。[Dickson] 1773と[Smith(C.)] 1758は、それぞれ「厚いノート」のS.244-7とS.243-4に抜粋されている。

## ③見出整理番号 89-121

この部分では、「サブノート B」から、[Arbuthnot] 1773 → Price 1803 v.2 → [Arbuthnot] 1773 → [Rawlinson] 1776 → [Foster] 1767 → A Letter 1795 → Wright 1795 → Two Letters 1767 → [Jenyns] 1767 → [Corrie] 1791 → A Political Enquiry 1785 → [Smith (C.)] 1766 → Representation 1800 → Mitford 1791 → Young 1800 → [Simpson] 1814 → Address 1815 → Burke 1800 → Remarks 1815 → Buchannan 1814 の順で転記がなされている。このことは、資料 2 から明らかなように、若干の戻りや飛びがあるものの、マルクスが「サブノート B」からページ順に転記していったことを示している。この段階で、「サブノート B」からの転記はほとんどすべての文献に及んでいる。

## ④見出整理番号 122-145

この部分では、Beckmann 1786 v.1 → Ensor 1818 → Sismondi 1803 v.1 → [North] 1691 → Bellers 1699 → A Discourse 1690 → [Clement] 1695 → [Child] 1689 → [Papillon] 1677 → An Essay 1748 → A Discourse 1678 → Tucker 1753b → Tucker 1776 の順で転記がなされている。このうち、Bellers 1699, [Child] 1689, [Papillon] 1677, An Essay 1748 以外はすべて「サブノート C」からのものであり、資料 2 から明らかなように、それらはページ順に転記されている。この段階で、「サブノート C」からの転記はほとんどすべての文献に及んでいる。

## ⑤見出整理番号 145-149

この部分では、「サブノート D」S.41 から、[Child] 1689 と [Papillon] 1677 が転記されている。

## ⑥見出整理番号 150-303

見出整理番号 150-166 では、「サブノート E」から、Reasons 1677 → Clarke 1685 → Reasons 1691 → [Temple] 1693 → [Trenchard] 1696 → An Essay 1707b → [Defoe] 1710a → [Defoe] 1710b → Barbon 1696 の順で転記がなされている。資料 2 から明らかなように、マルクスが「サブノート E」からページ順に転記していったことを示している。この段階で、「サブノート E」からの転記はほとんどすべての文献に及んでいる。

見出整理番号 167-196 では、Barbon 1696 → Decus 1696 → Barbon 1696 (p.51) → Some Thoughts 1700 → [Drake] 1702 → [Defoe] 1719 → Barbon 1696 (p.2) → [Decker] 1743 → Horsley 1744 → Some Thoughts (1738) → Townsend (1751) → Reasons 1777 の順で転記がなされている。このうち、Barbon 1696 (p.51) と Barbon 1696 (p.2) 以外はすべて「サブノート F」からのものであり、資料 2 から明らかなように、それらはページ順に転記されている。この段階で、「サブノート F」からの転記はほとんどすべての文献に及んでいる。

見出整理番号 197-260 では、Storch 1815 → Quesnay 1846d → Quesnay 1846a → [Cunningham] 1770 → [Cantillon] 1756 → Ganilh 1815 → Forbonnais 1847 → [Garnier] 1796 → Condillac 1847 の順で転記がなされている。このうち、Quesnay 1846d と Quesnay 1846a 以外はすべて「サブノート G」からのものであり、資料 2 から明らかなように、それらはページ順に転記されている。この段階で、「サブノート G」からの転記はほとんどすべての文献に及んでいる。

見出整理番号 261-303 では、Considerations [1753] → [Cunningham] 1770 → Three Letters 1766 → Letters 1774 → Considerations 1775 → Bearde de l'Abbaye 1770 → [Fletcher] 1827 → Redesdale 1828 → [Robertson] 1830 → Wakefield 1833 → Considerations 1775 → Blakey 1855 → Wakefield 1833 → [Gray] 1797 → [Whatley] 1774 の順で、転記または書名指示

が行われている(下線を付したものは、書名指示のみのものである)。これらのうち、[Cunningham] 1770とBlakey 1855以外はすべて「サブノートH」からのものであり、資料2から明らかなように、それらはページ順に並んでいる。また、書名指示だけのものについては、そのほとんどに、抜粋ノート名とページの参照指示がついている。

以上のことから、この部分では、基本的にマルクスは、ページ順に転記を行いながら、「サブノートE」→「サブノートF」→「サブノートG」→「サブノートH」と作業を進めていったと見ることができよう。

#### ⑩見出整理番号 304-339

この部分では、「厚いノート」から Verri 1804a, Genovessi 1803, Wayland 1843, 「サブノートD」から Baudeau 1846b, Le Trosne 1846, 「サブノートE」から Newnham 1815, Parry 1816, Locke 1767, Le Trosne 1846, Mercier de la Riviere 1767, 「サブノートG」から Torrens 1815が、順不同に転記されている。また、各種抜粋ノートに収められた書名の指示、抜粋のノートへの参照指示などが見られる。これらのことから判断して、マルクスは、前段階で「厚いノート」から「サブノートH」までの転記作業をひととおり終え、この部分では、重要と思われるものを拾い上げかたちで作業を進めていったと思われる。

以上の分析から、HeftXX-XXIIIの3つの「追補」は、そのほとんどが「厚いノート」および「サブノートA-H」を元としており、特に3つ目の「追補」については、「サブノートA」から「サブノートH」までをこの順番で、しかも、若干の例外はありつつも、各ノートのページ順に転記作業を行っていたことが明瞭である。

このことは、資料3にも現れている。資料3は、マルクスがHeftXXI-XXIIIの各表紙第2面に作成した内容目次である。ここには、HeftXXI-XXIII「追補」部分に転記された抜粋文献のほとんどが、ほぼ転記順に指示されている。内容目次に記載されていない転記文献もいくつか存在するが(資料1, 2を参照のこと)、何故記載されていないのかは分からない。いずれにしても、マルクス自身の手になる内容目次に、上述のような作業手順を見てとることができることは確かであり、これらの点からわれわれは、HeftXXI-XXIII「追補」部分について、先の「引用ノート」の作成過程と同様の特徴を認めることができるのである<sup>26</sup>。

## 4. 引用関係の分析

ここでは、HeftXX-XXIII「追補」部分の抜粋と『資本論』初版での引用とを比較し、「厚いノート」・「サブノート」→HeftXX-XXIII「追補」部分→『資本論』初版という引用関係が数多く存在することを明らかにしたい。そのことによって、HeftXX-XXIII「追補」部分が『資本論』の草稿を執筆する際の《引用ノート》としての役割を果たしたことを示したい。

資料5は、HeftXX-XXIII「追補」部分にある抜粋が『資本論』初版にも存在する事例を抽

<sup>26</sup> MEGA<sup>2</sup> II/3の編集者は、「1861-1863年の草稿では、マルクスがこのサブノートの材料を利用することができたのは、もはや最後の2冊のノート、すなわちHeftXXIIおよびHeftXXIIIにおいてだけであった」(MEGA<sup>2</sup> II/3 Apparat, S.2401, 『資本論草稿集4』pp.57\*-8\*)と述べているが、これまでの分析から明らかのように、マルクスはHeftXXとXXIにおいても「サブノート」を利用している。



出したものである。抽出した事例は全部で122である。この資料では、『資本論』初版でのそれらの利用状況を章単位で示している。その結果を、さらに各章の下位項目ごとの利用状況とともに示せば次のとおりである。

第1章 商品と貨幣	24 事例
1) 商品	8 事例
2) 商品の交換過程	6 事例
3) 貨幣または商品流通	B 流通手段
	a) 商品の変態
	b) 貨幣の流通
	C 貨幣
	a) 貨幣蓄蔵
	b) 支払手段
	c) 世界貨幣
第2章 貨幣の資本への転化	15 事例
1) 資本の一般的定式	3 事例
2) 一般的定式の矛盾	9 事例
3) 労働力の売買	3 事例
第3章 絶対的剰余価値の生産	12 事例
1) 労働過程と価値増殖過程	1 事例
2) 不変資本と可変資本	2 事例
4) 労働日	6 事例
5) 剰余価値の率と大きさ	3 事例
第4章 相対的剰余価値の生産	15 事例
1) 相対的剰余価値の概念	6 事例
2) 協業	4 事例
3) 分業とマニユファクチュア	2 事例
4) 機械と大工業	3 事例
第5章 絶対的および相対的剰余価値の生産に関するさらなる考察	17 事例
1) 絶対的および相対的剰余価値	2 事例
2) 労働力の価格の大きさの変化と剰余価値	
D) 労働日の長さ、労働の生産力および労働密度の同時的変化	1 事例
4) 労働力の価値または価格の賃金形態への転化	
b) 賃金の2つの基本形態 時間賃金と出来高賃金	14 事例
第6章 資本の蓄積過程	39 事例
1) 資本主義的蓄積	
a) 単純再生産	2 事例
b) 剰余価値の資本への転化	4 事例
c) 資本主義的蓄積の一般的法則	6 事例
2) いわゆる本源的蓄積	21 事例
3) 近代植民理論	6 事例

これを見ると、「追補」部分からの引用事例は、多少の差はあるものの、全ての章で確認することができるのであるが、引用事例をさらに下位項目ごとに見てみると、特に「第5章4) b) 賃金の2つの形態 時間賃金と出来高賃金」(14事例)と「第6章2) いわゆる本源的蓄積」(21事例)に事例が集中していることが分かる。このことは、賃金論および資本蓄積論の形成過程における「1861-63年草稿」の理論的位置を確定するうえで、考慮されなければならない事実であると思われるが、それを主題とした考察は別の論稿に委ねることとし、事実のみを確認して先へ進もう。

資料5では、抽出した122の引用事例すべてについて、HeftXX-XXIII「追補」部分の見出と『資本論』初版の章節タイトルとを比較対照できるように表示している。ここから分かることは、見出と章節タイトルとのあいだに類似性・関連性を認めることのできる事例が多く存在するということである。いくつか例を挙げれば、3-1:「労働能力」=「労働力の売買」、10-1:「労働の価格および労働力の価値にかんする上記の点について。」=「労賃の2つの基本形態:時間賃金と出来高賃金」、13-2:「単純協業。」=「協業」、22-1:「機械による労働時間の短縮。」=「機械と大工業」、25-1:「協業。」=「協業」、28-1:「不変資本のたんなる維持と可変資本の再生産との相違。」=「不変資本と可変資本」、31-1・2:「絶対的剰余労働。相対的剰余価値。」=「剰余価値の率と大きさ。」、33-1・2:「出来高仕事、日給仕事、最低限。」=「労賃の2つの基本形態:時間賃金と出来高賃金」、34-1:「日給仕事と出来高仕事。」=「労賃の2つの基本形態:時間賃金と出来高賃金」、などである。このような事例が多数存在するということは、マルクスは、HeftXX-XXIII「追補」部分に転記された抜粋を、それに付けた見出を手掛かりとしながら、『資本論』初版のしかるべき場所で引用として利用したのではないかという推測を可能とする。そのことを、さらに資料6で確認してみよう。

資料6は、原典→「サブノートA」→「追補」→『資本論』初版という引用関係を推測しうるケースを抽出し、原典、「追補」、『資本論』初版のそれぞれにおける文章表現を比較対照したものである。なお、「サブノートA」は未公開資料であるため、そこでの記述は資料中に表記していない。これらの中から、上述のような引用関係が強く推測されるケースをいくつか取りあげてみよう。

まず8-14を見てみよう。HeftXXIでの抜粋と『資本論』初版での引用を比較してみると、前者において下線で強調されている箇所 (with the same quantity of labour, proportion of trade) が、後者においても隔字体で強調されていることが分かる。また、後者におけるページ指示がp.60となっていることにも注目したい。次ページに掲載したHeftXXI S.1301の画像からは、当該文章の抜粋は3行目から9行目にあり、10行目冒頭印部分に(59)と原典ページが書かれていることが見て取れる。しかしマルクスは、『資本論』初版ではこれを誤ってp.60と書いているのであるが、それはおそらく、10行目冒頭にある本来のページ(59)を見落とし、印部分にある(60)を当該文章のページと誤認して記載したためであろう。さらに、この画像から分かるように、3行目から、(60)とページが書き込まれた12行目までを縦に裂くように一本の線が引かれている。これは、マルクスによる「使用じるし」である。先に見たように<sup>27</sup>、「引用ノート」の場合にも、そこに収められた抜粋が「1861-63年草稿」に採り入れられたときには「使用じるし」がつけられた。それはHeftXX-XXIII「追補」部分の場合も同様であり、

<sup>27</sup> 本稿5ページのMEGA<sup>®</sup> II/3編集者の解説を見よ。

<sup>28</sup> 「追補」の場合には、「使用じるし」とは別に、ノートの欄外に多様な形態の線や図形が描かれている。これらに関する情報についても、資料4に記載している。



資料4によって、「追補」部分全体にわたって「使用じるし」がどの個所につけられているかを確認することができる<sup>28</sup>。このようなことから、8-14のケースに関しては、原典→「サブノートA」→「追補」→『資本論』初版という引用関係を認めることができると考える。

次に27-1を見てみよう。ここでは、「追補」の見出しと『資本論』初版の章節タイトルとが一致していることが確認できる。さらに注目すべきは、「原典」と「追補」では、521という数字は「質問第521」を意味しているが、『資本論』初版ではそれが、p.521と、ページを表す数字に変わっている点である。「サブノートA」では、文頭にQ. 521)とあり、521という数字はやはり「質問第521」を意味しているところから、これは、「サブノートA」から「追補」に転記するさいにマルクスが、文の冒頭にあったQ.521を文の末尾に持っていったことから生じた誤認と思われる。そうだとすれば、このケースに関しても、「追補」→『資本論』初版という引用関係が推測されるであろう。また、8-14と同様に、27-1にも「使用じるし」がつけられており、この推測を裏付ける。

27-2についても、27-1の場合とおそらく同じ理由から、520が誤ってページを表す数字とされている。また、SudburyをSandburyと書く誤りが「追補」と『資本論』初版に共通して見られること、マルクスによる「使用じるし」が付けられていること、これらのことから、27-2についても同様の推測が成り立つであろう。

他のケースについて見ると、33-1・2については「使用じるし」が、28-1、31-1、34-1については「欄外じるし」が付されており、「追補」から『資本論』初版へと引用されたことをうかがわせる。また、26-1、31-1・2、33-1・2、47-1については、「追補」において下線で強調されている部分が、『資本論』初版においても隔字体で強調されている。28-1の場合には、『資本論』初版で引用されているのは「追補」で強調されている部分である。こうしたことから、これらの事例について、「追補」→『資本論』初版という引用関係を推測できるであろう。ただ、26-2については、『資本論』初版での引用には「追補」の情報だけでは作成できない記述が存在する。「追補」をまず読み、足りない部分を「サブノート」で補ったということも考えられるが、確かなことは言えない。

以上、資料6に基づく分析から、原典→「サブノートA」→「追補」→『資本論』初版という引用関係が強く推測されることが示された。今後、「サブノートB」から「サブノートH」までについて同様の比較調査を行う必要があるが、ほぼ同様の結論が得られるのではないかと予想している。

## 5. 結 論

以上の分析から、第1に、「引用ノート」の構成上および作成過程の特徴が、HeftXX-XXIII「追補」部分にも認められること、第2に、「厚いノート」・「サブノート」→HeftXX-XXIII「追補」部分→『資本論』初版という引用関係を推測させる事例が数多く存在することを確認できた。これらのことからわれわれは、HeftXX-XXIII「追補」部分は『資本論』初版の草稿執筆のための《引用ノート》としての役割を果たしたとの解釈を、結論として提示したい。HeftXX-XXIII「追補」部分の意義については、これまで十分な考察が行われてこなかったが、本稿の解釈はその一つの試みである。今回の調査では、「追補」と『資本論』初版との関係のみを見てきたが、今後、MEGA<sup>®</sup> II/4-1, 2に収録されている『資本論』の諸草稿との対比を行な

わねばならない。その成果を理論的考察と結びつけることにより、マルクス抜粋ノートを用いた『資本論』形成史研究の新たな方法の確立を目指したい。

## 参考文献

- 大野節夫・佐武弘章 1984: 「マルクス『引用ノート』の作成過程—1859-1861年—」『経済学論叢』(同志社大学) 34(1・2)
- 大村泉・八柳良次郎 1981: 「『経済学批判』草稿(1861-63年)の準備過程」『経済論集』(北海学園大学) 28(4)
- 佐武弘章 1983a: 「『資本論』の引用とその出所について」『社会問題研究』(大阪府立大学) 32(2)
- 佐武弘章 1983b: 「マルクス『引用ノート Citatenheft』と1861-63年草稿」『社会問題研究』(大阪府立大学) 33(1)
- 佐武弘章・大野節夫 1984: 「マルクス ノート第Ⅶ冊抜粋部分(1859年-63年)—『1861-63年草稿経済学批判』の関連資料の紹介—」『社会問題研究』(大阪府立大学) 34(1)
- Focke, W. 1978: “Das ‘Citatenheft’ von Karl Marx”, in; ... *Unser Partei einen Sieg erringen. Studien zur Entstehungs- und Wirkungsgeschichte des „Kapitals“ von Karl Marx.* Verlag Die Wirtschaft Berlin. 1978
- Schnickman, A. 1979: “Marx Beihefte von 1863”, in; *Beiträge zur Marx-Engels Forschung.* 5



## 資料 1

## 「厚いノート Dickes Heft」抜粋文献一覧

1. 佐武・大野 1984 および MEGA<sup>®</sup> IV Exzerpte, Notizen, Marginalien Allgemeiner Prospekt der Bände 13 bis 32 (Neufassung)により作成。
2. ページ番号に \* が付されている文献は、Allgemeiner Prospekt にのみ記載のある文献である。
3. 表中の●は、「1861-63 年草稿」の当該ノートに抜粋があることを示す。
4. 表中の●の右側に付された数字は、資料 3 の「目次整理番号」である。
5. 表中の「見出整理番号」については、資料 4 を見よ。

ページ	原 典	原典略記号	1861-63年草稿ノートの番号				見出整理番号
			XX	XXI	XXII	XXIII	
63	Martin Luther: Höchst merkwürdige Prophezeiungen über Deutschlands Zukunft ... 2. Aufl. Zürich 1846. Martin Luther: Eyn Sermon auf das Evangelien ... Wittenberg 1555.	Luther 1555					
63-6	Martin Luther: An die Pfarrhern, wider den Wucher zu predigen etc. Wittenberg 1540.	Luther 1540					
66-7	Giovanni Francesco Pagnini: Saggio sopra il giusto pregio delle cose ... In: Scrittori classici italiani ... [Hrsg. Pietro Custodi.] Parte moderna. T. 2. Milano 1803.	Pagnini 1803					
68-76	[Simon-Nicolas-Henri Linguet.] Théorie des lois civiles ... Vol. 1. 2. Londres 1767.	[Linguet] 1767					
77-87	Francis Wayland: The Elements of political economy. Boston 1843.	Wayland 1843				●	334
88	Ferdinando Galiani: Della Moneta ... In: Scrittori classici italiani ... [Hrsg. Pietro Custodi.] Parte moderna. T. 3-6. Milano 1803.	Galiani 1803					
88-92 94	Antonio Genovesi: Lezioni di economia civile. In: Scrittori classici italiani ... Parte moderna. T. 7-10. Milano 1803.	Genovesi 1803				●	332
93	David Parish Barhydt: Industrial exchange and social remedies. New-York 1849.	Barhydt 1849					
94	John Mason: An inquiry into the economy ... Vol. 1. 2. London 1847, 1849.	Mason 1847-9					
94-5	Cesare Beccaria: Elementi di economia publica. In: Scrittori classici italiani ... Parte moderna. T. 11. 12. Milano 1803.	Beccaria 1803					
95*	Gian-Rinaldo Carli: Dell' origine e del commercio della moneta ... In: Scrittori classici italiani ... Parte moderna. T. 13. Milano 1803.	Carli 1803a					
95*	Gian-Rinaldo Carli: Osservazioni preventive al piano intorno alle monete di Milano ... 1768. In: Scrittori ... T. 13. Milano 1803.	Carli 1803b					
95-8	Pietro Verri: Meditazioni sulla economia politica ... In: Scrittori ... T. 15. Milano 1804.	Verri 1804a				●	328-30
98*	Pietro Verri: Sulle Leggi ... In: Scrittori ... T. 16. 1804	Verri 1804b					
98*	Pietro Verri: Memorie storiche sulla economia publica ... In: Scrittori ... T. 17. 1804	Verri 1804c					
98*	Antonio Zanon: Lettere scelte sull' agricoltura ... In: Scrittori ... T. 17. Milano 1804	Zanon 1804					
98	Ferdinando Paoletti: Estratto de pensieri sopra l'agricoltura. In: Scrittori ... T. 20. Milano 1804.	Paoletti 1804				●	331
99-103	Robert Blakey: The history of political literature ... Vol. 2. London 1855.	Blakey 1855				●	282
107-8	[François-Véron de Forbonnais.] Éléments du commerce. Nouv. éd. Pt. 2. Leyde, Paris 1766.	[Forbonnais] 1766					
108	Henry Vethake: An introductory lecture of political economy, Princetown 1831.	Vethake 1831					
108-12	Alonzo Potter: Political economy ... New-York 1841.	Potter 1841					
112	Theodore Sedgwick: Public and private economy. Pts. 1-3. New York 1836-1839.	Sedgwick 1836-9					
113	Giammaria Ortes: Della economia nazionale. In: Scrittori ... T. 21. Milano 1804.	Ortes 1804					
114	Life of Sir William Petty. In: Several essays on political economy. 9. ed. London 1755.	Life of Sir William Petty 1755					
115-9	Thomas Robert Malthus: Definitions in political economy. New ed. ... by John Cazenove. London 1853.	Malthus 1853					
119-23 152	Richard Jones: Textbook of lectures on the political economy of nations ... Hertford 1852.	Jones 1852					
124	Samuel Bailey: Discourses of various subjects. London 1852.	Bailey 1852					
124-7	Observations on certain verbal disputes in political economy ... London 1821.	Observations 1821					
128	John Stuckey Reynolds: Practical observations on Mr. Ricardo's principles ... London 1822. Thomas Hopkins: Economical inquiries ... London 1822.	Reynolds 1822					
129	Samuel Turner: Considerations upon the agriculture, commerce and manufactures ... London 1822.	Turner 1822					
129-36	An inquiry into those principles respecting the nature of demand ... London 1821.	An Inquiry 1821		●			11

136	Gerard Graulhié: An outline of a plan for a new circulating medium. London 1832.	Graulhié 1832				
136-40	[William Nassau Senior:] Outlines of political economy ... London 1832.	[Senior] 1832				
141	Public economy concentrated ... Carlisle 1833.	Public Economy 1833				
141	William Atkinson: The state of the science ... London 1838.	Atkinson 1838				
141-5	[Samuel Bailey:] A critical dissertation ... London 1825.	[Bailey] 1825				
145	[Samuel Bailey:] A letter to a political economist. London 1826.	[Bailey] 1826				
147-9	Dugald Stewart: Collected works. Vol. 8. 9. Edinburgh 1855, 1856.	Stewart(D) 1855-6				
151	Notiz: Verwandlung von Geld in Kapital.					
153-4	[Jean-Guillaume-César-Alexandre-Hippolyte] Colins: L'économie politique. T. 1. Paris 1856. T. 3. Paris 1857.	Colins 1856-7				
154	Gustave de Molinari: Études économiques. Paris 1846.	Molinari 1846				
155	[Th. Bently:] Letters on the utility ... London 1780.	[Bently] 1780				
155	J.N. Bidault: Du monopole ... 1. u. 2. livraison. Paris 1827, 1828.	Bidault 1827-8				
155	Henry Burgess: A letter to the R.H.G. Canning ... London 1826.	Burgess 1826				
155	Mordecai Mullan: Some illustrations of Mr. McCulloch's principles of political economy. Edinburgh 1828.	Mullan 1828				
156	James Mill: Elements of political economy. London 1821.	Mill(J.) 1821				
157-65	Reports of the inspectors of factories ... London 1856-1858.	Reports 1856-8				
166	Friedrich Engels: Die Lage der arbeitenden Klasse in England. Leipzig 1845.	Engels 1845				
167	John Lalor: Money and Morals ... London 1852.	Lalor 1852				
167	Jérôme Blanqui: Cours d'économie industrielle ... Paris 1838-1839.	Blanqui 1838-9				
168	Jean Gustav Courcelle-Seneuil: Traité théorique et pratique des entreprises industrielles ... Paris 1857.	Courcelle-Seneuil 1857				
168	Wilhelm Roscher: Grundriss zu Vorlesungen über die Staatswirtschaft ... Göttingen 1843.	Roscher 1843				
168-71	Jacques Turgot: Réflexions sur la formation et la distribution des richesses. In: Oeuvres. [Hrsg. Eugène Daire.] Paris 1844.	Turgot 1844				
171	Bibliographische Notizen.					
172	Notizen und Zitate zum Problem der Arbeitsteilung.					
173-4 186-92	Adam Smith: Recherches sur la nature et les causes de la richesses des nations. T. 1. Paris 1802.	Smith (A.) 1802				
175	Auszug aus der "Daily Telegraph" vom 17. Januar 1860.	Daily Telegraph 1860-Jan.-17				
175	Xenophon: Cyropedia. Ed. E. Popo. Leipzig 1821.	Xenophon 1821				
176	Robert Torrens: A letter to the R.H. Sir Robert Peel ...2. ed. London 1849.	Torrens: 1849				
176	Arthur Young: Political Arithmetic ... London 1774.	Young 1774			●	308
177 180	Élias Regnault: Histoire politique et sociale ... Paris 1855.	Regnault 1855				
178	Court of Exchequer. Auszug aus der nicht festgestellten Quelle vom 21. Dezember 1859.	Court of Exchequer 1859				
179	Auszug aus der "Economist" vom 21. Januar 1860.	Auszug aus der "Economist" vom 21. Januar 1860				
180	William Blair: An inquiry into the state of slavery ...Edinburgh 1833.	Blair 1833				
180 182	James Harris: Three treatises ... 3. ed. London 1772.	Harris 1772 (siehe unten S. 182)				
180	Notizen zum Profitrate.					
181	Jacques Necher: Oeuvres ... T. 2. 4. Lausanne, Paris 1789.	Necher 1789				
182	Montesquieu: De l'esprit des lois. In: Oeuvres. T. 1. 2. Londres 1767.	Montesquieu 1767				
183	James Steuart: The works. Vol. 1-6. London 1801.	Steuart(J.) 1801				
184-5	Charles Babbage: On the economy of machinery ... London 1832.	Babbage 1832				
186-92	Adam Smith: Recherches sur la nature et les causes de la richesses des nations. T. 1. Paris 1802(Fortsetzung von S.174.)	Smith (A.) 1802				
193	Irish Census for 1861. Publ. im July 1861.	Irish Census 1861				
194	Berechnungen					
207-9	Auszüge aus "Times" vom 5. November 1861.	Auszüge aus "Times" vom 5. November 1861				

207	Auszug aus "Times" vom 13. März 1862.	Auszug aus "Times" vom 13. März 1862				
209-17	Adam Smith: An inquiry into the nature and causes of the wealth of nations. London 1828.	Smith (A) 1828				
218-21	David Ricardo: On the principles of political economy. 2. ed. London 1819.	Ricardo 1819				
221	August von Witzleben: Heerwesen und Infanteriedienst ... 7. Aufl. Berlin 1861.	August von Witzleben 1861				
222	Auszug aus "Standard".L.W. Spratt: The foreign slave trade ... Charleston 1859.	Auszug aus "Standard"				
222	Auszug aus "Standard".L.W. Spratt: The foreign slave trade ... Charleston 1859.	Spratt 1859				
223-33	William Roscher: Die Grundlagen der Nationalökonomie ... 3. Aufl. Stuttgart, Augsburg 1858.	Roscher 1858				
234-5	David Hume: Essays. Vol.1. London 1764.	Hume (D.) 1764	●			6, 7
235-6	John Locke: The works. Vol. 1-4. 7. ed. London 1768.	Locke 1768	●			5
237-41	Thomas Hobbes: English works. Ed. by William Molesworth. Vol. 1-11. London 1839-1844.	Hobbes 1839	●			2-5
241	Bibliographische Notizen über die Aristoteles und Platos Werke.					
241-2	William Ogilvie: An essay on the right of property in land ... London 1781.	Ogilvie 1781				
242-3	George Ensor: Of property, and of its equal distribution ... London 1844.	Ensor 1844				
243-4	[Charles Smith:] A short essay on the corn trade ... London 1758.	[Smith (C.)] 1758		●5		79
244-7	[Adam Dickson:] An essay on the causes of the present high price of provisions ... London 1773.	[Dickson] 1773		●4		74-8
248-50	Essays relating to agriculture and rural affairs. Vol. 1-3. Edinburgh, London 1777-1796.	Anderson 1777-96				
250-4	Recreations in agriculture ... Vol. 1-6. London 1799-1802.	Anderson 1799-1802				
257-9	The Bee ... Vol. 1, 2, 3, 6, 7, 9.	Anderson 1791-3				
259	An inquiry into the causes ... Edinburgh 1777. (Notiz)	Anderson 1777				
259-61	Observations on the means of exerting a spirit of national industry ... Edinburgh 1779.	Anderson 1779				
261-2	An investigation of the cause of the present high price of provisions. 2. ed. London 1800.	[Malthus] 1800				
262-3	Observations on the effects of the com laws ... 3. ed. London 1815.	[Malthus] 1815b		●		17
263	The ground of an opinion on the policy of restricting ... London 1815.	[Malthus] 1815c		●3		17, 24
264-9	An inquiry into the nature and progress of rent ... London 1815.	[Malthus] 1815a		●2		18-7
276	Handschrift von Laura Marx. O'Connor: Rede gehalten in New York, Dezember 1859. Aus der: "New-York Herald". (In Handschrift von Laura Marx.)					
277	(Innenseite des hinteren Heftdeckels): Inhaltsverzeichnis der Exzerpte.					

## 資料2

## 「サブノート Beihefte」抜粋文献一覧

1. MEGA<sup>®</sup> IV Exzerpte, Notizen, Marginalien Allgemeiner Prospekt der Bände 13 bis 32 (Neufassung)により作成。
2. 表中の●は、「1861-63年草稿」の当該ノートに抜粋があることを示す。
3. 表中の●の右側に付された数字は、資料3の「目次整理番号」である。
4. 表中の「見出整理番号」については、資料4を見よ。

Beihefte A							
ページ	原典	原典略記号	1861-63年草稿ノート番号				見出整理番号
			XX	XXI	XXII	XXIII	
	Inhaltsverzeichnis von Engels						
1	Neate, Charles: Two lectures on the history and conditions of landed property ... Oxford and London 1860	Neate 1860					
2-3	Berkley [vielm. Berkeley], George: The Querist, containing several queries, proposed to the consideration of the public. London 1750.	Berkley 1750	●				25
3-7	An essay in answer to the question, whether does the principle of competition, with separate individual interests ... London 1834.	An Essay 1834	●4				1, 26
7-10	Massie, Joseph: An essay on the governing causes of the natural rate of interest; ... London 1750.	Massie 1750	●1				5, 8
10-5	[Hodgskin, Thomas:] The natural and artificial right of property contrasted. ... London 1832.	[Hodgskin] 1832	●5				27
15-6	An essay on the political economy of nations: or, a view of the intercourse of countries, as influencing their wealth. London 1821.	An Essay 1821	●6				27-31
17-9 12a-3a	Dunning, Thomas Joseph: Trade's Unions and strikes: their philosophy and intention. London 1860.	Dunning 1860	●7	●1			32-6
13a-20	Petty, William: A treatise of taxes and contributions. London 1667.	Petty 1667		●2			37-50, 58-63, 69, 71
20-1	Petty, William: Several essays in political arithmatick 4. ed. London 1755.	Petty 1755			2		
21-6	Petty, William: The political anatomy of Ireland ... To which is added Verbum sapienti; ... London 1691	Petty 1691		●2			66-8, 70
26-7	Petty, William: Quantulumcunque concerning money. 1682. London 1695.	Petty 1695		●2			72
27	[Mirabeau, V.:] Les economiques. Amsterdam 1769.	[Mirabeau] 1769					
27-32	[Buat-Nancey, Louis Gabriel:] Elements de la politique, ou recherche des vrais principes de l'economie sociale. T. 1-6. London 1773.	[Buat] 1773		●3			73
35	[Ogilvie, William:] An essay on the right of property in land ... London 1781.	[Ogilvie] 1781		●			18

Beihefte B							
ページ	原典	原典略記号	1861-63年草稿ノート番号				見出整理番号
			XX	XXI	XXII	XXIII	
	Bibliographische Notizen und Inhaltsverzeichnis.						
1	Spence, Thomas: The end of oppression ... London 1795.	Spence 1795			●		18, 81
1-2	Usurie araigned and condemned ... London 1625.	Usurie 1625	●				12
2	[Rawlinson, Ch.:] An inquiry into the management of the poor, ... London 1767.	[Rawlinson] 1767			●		92
2-8	[Arbuthnot, John:] An inquiry into the connection between the present price of provisions, and the size of farms ... London 1773.	[Arbuthnot] 1773			●8	●1	12-3, 89-91, 308
8-10	[Forster, Nathaniel:] An enquiry into the causes of the present high price of provisions. Pt. 1.2. London 1767.	[Foster] 1767				●3	14-5, 93, 96-8
10	A Letter to Sir T. C. Bunbury, Bart. On the poor rates, and the high price of provisions ... Ipswich 1795	A Letter 1795				●4	99
10	Hodson, Septimus: An address to the different classes of persons in Great Britain... London 1795.	Hodson 1795,S.					
10	Pownall, [Thomas:] Considerations on the scarcity and high prices of bread-com and bread at the market... Cambridge 1795.	Pownall 1795				●5	100
10	One cause of the present scarcity of com ... London 1795.	One Cause 1795					
11	Bibliographische Notizen.						

11	Wright, Thomas: A short address to the public on the monopoly of small farms, ... London 1795.	Wright 1795			●6	101
11	Three letters to a member of the Honourable House of Commons, ... London 1766.	Three Letters 1766			●	266
11	[Jeryns, Soame:] Thoughts on the causes and consequences of the present high price of provisions. 1767	[Jeryns] 1767			●8	102
11	Political speculations; or an attempt to discover the causes of the dearness of provisions, ... London 1767	Political Speculations 1767				
11	Two letters on the flour trade, ... London 1767.	Two Letters 1767			●7	101
11	[Corrie, Edgar:] Considerations on the corn laws ... London 1791.	[Corrie] 1791			●9	103
12	Bibliographische Notiz.					
12-3	A political enquiry into the consequences of enclosing waste lands, ... London 1785.	A Political Enquiry 1785			●10	104-5
14-6	[Smith, Charles:] Three tracts on the corn trade and corn laws. London 1766.	[Smith (C.)] 1766			● ●	79, 106-7
16	Sheffield, John: Observations on the corn bill, ... London 1791.	Sheffield 1791				
17	Mitford, William: Considerations on the opinion stated by the Lords of the Committee of Council, ... London 1791	Mitford 1791			●12	109-10
17	Representation of the Lords of the Committee of Council, ... London 1800.	Representation 1800			●11	108
17-8	Burke, Edmund: Thoughts and details on scarcity, London 1800.	Burke 1800			●6 ●	80-3, 115
18	Young, Arthur: The question of scarcity plainly stated, and remedies considered. ... London 1800.	Young 1800			●13	111
19	Brand, J.: A determination of the average depression of the price of wheat in war ... London 1800.	Brand 1800				
19	Bibliographische Notizen.					
19	Booth, George: Observations on lowering the rent of land and the corn laws. London 1814.	Booth 1814				
19-20	Hume, James Deacon: Thoughts on the corn-laws, ... London 1815.	Hume(J.) 1815			● ●15	17
20	[Simpson, Thomas:] A defence of the land-owners and farmers of Great Britain ... London 1814.	[Simpson] 1814			●14	112-4
21-2	Address to the two Houses of Parliament on the importance of the Cornlaws to the National Revenue. London 1815.	Address 1815			●	115
22-9	[West, Edward:] Essay on the application of capital to land, ... London 1815.	[West] 1815				
29	Bibliographische Notiz.					
29-31	Remarks on the commercial policy of Great Britain, ... London 1815.	Remarks 1815			● ●16	17, 116-121
31-2	Price, Richard: Observations on reversionary payments, ... 6. ed. Vol. 2. London 1803.	Price 1803			●7 ●	85-7, 89
32	Bibliographische Notizen.					
32	Moore, Francis: Considerations on the present exorbitant price of provisions ... London 1773.	Moore 1773				
32-4	Howlett, John: Enclosures a cause of improved agriculture, ... London 1787.	Howlett 1787				
35-9	Buchanan, David: Inquiry into the taxation and commercial policy of Great Britain ... Edinburgh 1844	Buchanan 1844				

Beiheft C							
ページ	原 典	原典略記号	1861-63年草稿ノ一ト番号				見出整理番号
			XX	XXI	XXII	XXIII	
	Inhaltsverzeichnis von Marx und Bernstein.						
1-4	Buchanan, David: Observations on the subjects treated of in Dr. Smith's inquiry ... Edinburgh 1814.	Buchanan 1814				●17	122
4-5	Beckmann, Johann: Beyträge zur Geschichte der Erfindungen. 2. verb. Ausg. Bd. 1. Leipzig 1786	Beckmann 1786			●	●19	22, 124-6
6-7	Ensor, George: An inquiry concerning the population of nations: ... London 1818.	Ensor 1818				●18	127-8
7-9	Sismondi, Jean-Charles-Leonard Simonde de: De la richesse commerciale, ... T. 1. Geneve 1803.	Sismondi 1803				●20	129
9-11	Quesnay, Francois: Analyse du tableau economique. In: Collection des principaux economistes. T. 2: Physiocrates, ... Pt. 1. Paris 1846.	Quesnay 1846a			● ●	●45	218
12-4	North, Dudley: Discourses upon trade. London 1691.	[North] 1691				● ●21	56, 130-3, 135-6

18-23	Quesnay, Francois: Maximes generales du gouvernement economique d'un royaume agricole. ..In. Collection des principaux economistes. T. 2: Physiocrates. ... Pt. 1. Paris 1846.	Quesnay 1846b				
23	Quesnay, Francois: Premiere probleme economique...In. Collection des principaux economistes. T. 2: Physiocrates. ... Pt. 1. Paris 1846.	Quesnay 1846c				
23 29-31	Quesnay, Francois: Dialogues sur le commerce et sur les travaux des artisans...In. Collection des principaux economistes. T. 2: Physiocrates. ... Pt. 1, Paris 1846.	Quesnay 1846d			●45	218
24	A Discourse of the necessity of encouraging mechanick industry. London 1690.	A Discourse 1690			●22	138-40
24-6	[Clement, Simon:] A Discourse of general notions of money, trade, and exchanges, as they stand in relation each other. London 1695.	[Clement] 1695			●23	141
26-7	A discourse shewing the great advantages that new buildings, and the enlarging of towns and cities do bring to a nation. London 1678.	A Discourse 1678			●26	142
27	Bibliographische Notiz.					
27	A discourse on trade: more particularly on sugar and tobacco ... London 1733.	A Discourse 1733				
27	Tucker, Josiah: A letter to a friend concerning naturalisation. London 1753.	Tucker 1753a				
	Tucker, Josiah: A brief essay ... London 1753.	Tucker 1753b			●27	143-4
	Tucker, Josiah: Reflections on the expediency of a law for the naturalisation of foreign protestants. London 1751.	Tucker 1751				
	Bibliographische Notizen					
28	Tucker, Josiah: For tracts on political and commercial subjects. 3. ed. Gloucester 1776.	Tucker 1776			●27	145
31-2	Quesnay, Francois: Fermiers. In: Collection des principaux economistes. T. 2: Physiocrates. ... Pt. 1. Paris 1846.	Quesnay 1846e				
32-4	Quesnay, Francois: Grains. In: Collection des principaux economistes. T. 2: Physiocrates. ... Pt. 1. Paris 1846.	Quesnay 1846f				
35-6	Quesnay, Francois: Le droit naturel. In: Collection des principaux economistes. T. 2: Physiocrates. ... Pt. 1. Paris 1846.	Quesnay 1846g				
36	Duport de Nemours, Pierre Samuel: De l'origine et des progres d'une science nouvelle. (1768). In: Collection des principaux economistes. T. 2: Physiocrates. ... Pt. 1. Paris 1846.	Duport de Nemours 1846a			●	
37	Duport de Nemours, Pierre Samuel: Maximes du Docteur Quesnay ..In: Collection des principaux economistes. T. 2: Physiocrates. ... Pt. 1. Paris 1846.	Duport de Nemours 1846b			●	
37-41	Baudeau, Nicolas: Explication du Tableau Economique ... In: Collection des principaux economistes. T. 2: Physiocrates. ... Pt. 2. Paris 1846.	Baudeau 1846a			●	

Beiheft D							
ページ	原典	原典略記号	1861-63年草稿/ノート番号				見出整理番号
			XX	XXI	XXII	XXIII	
1-13	Baudeau, Nicolas: Explication du Tableau Economique... In: Collection des principaux economistes. T. 2: Physiocrates. ... Pt. 2. Paris 1846. (Fortsetzung von Beiheft C).	Baudeau 1846a			●		
13	Bibliographische Notizen.						
14-7 73-4	Baudeau, Nicolas: Premiere introduction a la philosophie economique. 1771.In: Collection des principaux economistes. T. 2: Physiocrates. ... Pt. 2. Paris 1846. (Fortsetzung von Beiheft C).	Baudeau 1846b			●	333	
18-21	Bellers, John: An essay for imploying the poor ... London 1723.	Bellers 1723					
21-8	Bellers, John: Proposals for raising a colledge of industry ... London 1696.	Bellers 1696					
28-9	Bellers, John: An abstract of George Fox's Advice an Warning ... London 1724.	Bellers 1724					
29	Bibliographische Notiz.						
29-30	Bellers, John: An essay towards the improvement of physick ... London 1714.	Bellers 1714					
30-6	Bellers, John: Essays about the poor ... London 1699.	Bellers1699			●	134	
37-40	Liebig, Justus von: Uber Theorie und Praxis in der Landwirtschaft. Braunschweig 1856.	Liebig 1856			●		
41	[Papillon, Thomas]The East-India trade a most profitable trade to the Kingdom ... London 1677.	[Papillon] 1677			●24	141, 146-9	
41	[child, Josiah] A Discourse concerning trade ... London 1689.	[Child] 1689			●	141, 145	
42	Bibliographische Notiz.						
42-51 60-6	[Martyn, Henry] The advantages of the East-India Trade to England ... London 1720.	[Martyn] 1720			●	339	

66	Bibliographische Notiz.					
68	Ricardo, David: An essay on the influence of a low price of corn on the profits of stock... London 1815	Ricardo 1815				
74-8	Le Trosne, Guillaume-Francois: De l'interet social par rapport a la valeur ... In: Collection des principaux economistes. T. 2:Physiocrates. ... Pt. 2. Paris 1846.	Le Trosne 1846			●	335
	Inhaltsangabe von Marx.					
	Inhaltsangabe von fremder Hand.					

Beiheft E							
ページ	原典	原典略記号	1961-63年草稿/一稿番号				見出整理番号
			XX	XXI	XXII	XXIII	
1-16	Le Trosne, Guillaume-Francois: De l'interet social par rapport a la valeur ... In: Collection des principaux economistes. T. 2:Physiocrates. ... Pt. 2. Paris 1846. Fortsetzung der Auszüge aus "Beiheft D".	Le Trosne 1846				●	335-6
17-26	Parry, Charles Henry: The question of the necessity of the existing corn laws, ... London 1816.	Parry 1816				●	320-6
26-37	Storch, Henry: Cours de economie politique ... St-Petersbourg 1815.	Storch 1815		●		●44	
38-77 162-75	Vanderlint, Jacob: Money answers all things: ... London 1734.	Vanderlint 1734				●	
78-110	Locke, John: Some considerations of the consequences of the lowering of interest ... (1691). In: The works. Vol 2. London 1777.	Locke 1777				●	327
111-7 125-39	Mercier de la Riviere, Paul Pierre: L'ordre naturel et essentiel des societes politiques. Londres 1767. In: Collection des principaux economistes. T. 2:Physiocrates. ... Pt. 2. Paris 1846.	Mercier de la Riviere 1846				●	337-8
118-24	Newnham, G. L.: A review of the evidence before the committees ... on the corn laws. London 1815	Newnham 1815				●	315-9
140	An inquiry into the late mercantile distress, in Scotland and England. London 1772.	An Inquiry 1772			●		75
141-5	Daire, Eugen: Physiocrates. Paris 1846.	Daire 1846					
146-50	Reasons for a limited exportation of wool. [London] 1677.	Reasons 1677				●28	150-1
151-3	Reasons for a registry ... London 1678.	Reasons 1678					
153	Bibliographische Notiz.						
153	[Clarke George]: The case of our English wool ... 1685.	[Clarke] 1685				●29	152
154-6	Reasons of the decay of the clothing trade ... London 1691.	Reasons 1691				●30	152
156-8	[Temple, Richard]: An essay upon taxes ... London 1693.	[Temple] 1693				●31	153, 308
158	Bibliographische Notiz.						
158-60	[Trenchard, John]: Remarks on the proceedings ... for establishing of a Land-bank. London 1696.	[Trenchard] 1696				●32	154
160-2	Bemerkungen von Marx.						
175	An essay on the nature of colonies ... London 1775.	An Essay 1707a					
176	An essay on credit and the Bankrupt Act ... London 1707.	An Essay 1707b				●33	155
176-7	[Defoe, Daniel]: An essay upon publick credit ... London 1710.	[Defoe] 1710a				●	156
177-8	[Defoe, Daniel]: An essay upon loans ... London 1710.	[Defoe] 1710b				●34	157
178-87	Barbon, Nicholas: A discourse concerning coining the new money lighter. ... London 1696.	Barbon 1696				●35	158-69, 171, 175
	Inhaltsverzeichnis von Marx.						

Beiheft F							
ページ	原典	原典略記号	1961-63年草稿/一稿番号				見出整理番号
			XX	XXI	XXII	XXIII	
1-2	Barbon, Nicholas: A discourse concerning coining the new money lighter. ... London 1696: Fortsetzung der Auszüge von Beiheft E.	Barbon 1696				●35	167-9
2	Decus et Tutamen: or, our new money as now coined ... London 1696.	Decus 1696				●36	170-1
2	Some thoughts concerning the maintenance of the poor ... London 1700.	Some Thoughts 1700				●	172
3-4	[Drake, James]: An essay concerning the necessity of equal taxes ... London 1702.	[Drake] 1702				●37	173
5	[Defoe, Daniel]: The anatomy of exchange alley, ... London 1719.	[Defoe] 1719				●38	174

5	Bibliographische Notizen.					
6	[Decker, Matthew] Serious considerations on the several high duties which the Nation in general ... London 1743.	[Decker] 1743			●39	176
6	Horsley[, William] Serious considerations on the high duties examin'd ... London 1744.	Horsley 1744			●	176
6-9	An essay on the inequality of our present taxes ... London 1746.	An Essay 1746			●40	
9-11	An essay upon publick credit, in a letter to a friend. ... London 1748.	An Essay 1748			●25	141
11-9	Some thoughts on the interest of money in general, ... London	Some Thoughts (1738)			●41	177-83
19	[Townsend] National thoughts recommended to the serious attention of the public ... London	[Townsend] (1751)			●42	184-5
20	[Cunningham, John] An essay on trade and commerce: ... London 1770.	[Cunningham] 1770			●	
21-7	Reasons for the late increase of the poor-rates ... London 1777.	Reasons 1777			●43	186-196
27-9	[Anderson, James] An enquiry into the nature of the corn laws, ... Edinburgh 1777.	[Anderson] 1777		●		

Beiheft G							
ページ	原典	原典略記号	1861-63年草稿/ノート番号				見出整理番号
			XX	XXI	XXII	XXIII	
1-5	[Anderson, James] An enquiry into the nature of the corn laws, ... Edinburgh 1777. Fortsetzung von "Beiheft F".	[Anderson] 1777		●			
6-8 53-61 114-6	Storch, Henry: Cours d'economie politique, ... St-Petersbourg 1815.	Storch 1815		●	●44		197-217
9-19 33-9	Torrens, Robert: An essay on external corn trade: ... London 1815.	Torrens 1815			●63		305-7, 310-4
20-32 40-52	[Cunningham, John] An essay on trade and commerce: ... London 1770.	[Cunningham] 1770			●46		219-35 266, 308
62-113 116-23	[Cantillon, Richard] Essai sur la nature du commerce en general. Amsterdam 1756.	[Cantillon] 1756			●47		236-7
124-6	Ganilh, Charles: La theorie de l'economie politique ... T. 1.2. Paris 1815.	Ganilh 1815			●49		238-42
128	Necker[, Jacques] Sur la legislation et le commerce des grains. (1775). Paris 1847.	Necker 1848					
129-2	Forbonnais[, Francois-Veron-Duverger de] Principes economiques. (1767). Paris 1847.	Forbonnai 1847			●48		243-9
133-9	[Garnier, Germain] Abrege elementaire des principes de l'economie politique. Paris 1796.	[Garnier] 1796			●50		250-6
139-46	Condillac[, Etienne-Bonnot de] Le commerce et le gouvernement. (1776). Paris 1847.	Condillac 1847			●51		257-60
	Bibliographische Notizen.						
	Inhaltsverzeichnis von Marx.						

Beiheft H							
ページ	原典	原典略記号	1861-63年草稿/ノート番号				見出整理番号
			XX	XXI	XXII	XXIII	
1-4	Considerations concerning taking off the bounty on corn exported. ... [London] 1753].	Considerations [1753]			●52		261-6, 309
4	Three letters to a member of the Honourable House of Commons ... London 1766.	Three Letters 1766			●		266
4-5	[Howard, Th.] An essay on the nature of a loan ... New York 1782.	[Howard] 1782					
5-9	Letters to man of reason, and the friends of the poor ... London 1774.	Letters 1774			●53		267, 309
10	Considerations on the present state of the poor in Great-Britain ... London 1775.	Considerations 1775			●54		268, 282
10	Bibliographische Notizen.						
10-1	Bearde de l'Abbaye: Recherches sur les moyens de supprimer les impots, ... Amsterdam 1770.	Beard de l' Abbaye 1770			●55		269
12	Fletcher, M.: Reflections on the causes which influence the price of corn. London 1827.	Fletcher 1827			●58		270
12-3	[Fletcher, M.] An essay on political economy ... London 1828.	[Fletcher] 1828			●56		271
13	Redesdale[, John Freeman-Mitford] Observations upon the importation of foreign corn ... London 1828	Redesdale 1828			●57		272
13-4	[Robertson, George] Essays on political economy ... London 1830.	[Robertson] 1830			●59		273



15-30 34	Wakefield, Edward Gibbon: England and Amerika ... London 1833.	Wakefield 1833				●60	274-89
31-2	Hume, G.: A letter to A. Smith on the life, death and philosophy of his friend David Hume. Oxford 1784	Hume 1784					
32-3 35-44	[Gray, John:] The essential principles of the Wealth of nations ... London 1797.	[Gray] 1797				●61	290-301, 309
44-5	[Whatley, George:] Principles of trade ... London 1774.	[Whatley] 1774				●62	302-3, 308
46-63	Census of England and Wales for the year 1861. London 1863.	Census 1863					
64-73	Vaughan, Rice: A Discourse of coin and coinage ... London 1675.	Vaughan 1675					
74-80	Mun, Thomas: England's treasure by foreign trade ... London 1669.	Mun 1669					
81-112	[Mandeville, Bernhard de:] The fable of the bees ... London 1728.	[Mandeville] 1728					
163, 166	Notizen						

## 資料3

## 「1861-63年草稿」HeftXXI-XXIIIの内容目次

1. 表中の「見出整理番号」については、資料4を見よ。

Heft XXI					
目次整理番号	マルクスによる内容目次 Schriften mit Excerpten.	原典略記号	抜粋ノート・ページ		見出整理番号
1	1) Massie. 1750	Massie 1750	Beiheft A	7-10	5, 8
2	2) Malthus. An Inquiry into the Nature and Progress of Rent. Lond. 1815.	[Malthus] 1815a	Dickes Heft	264-9	16, 17
3	3) Malthus: The grounds of an Opinion. 1815.	[Malthus] 1815c	Dickes Heft	263	17, 24
4	4) A Prize Essay on the Comparative Merits of Competition and Cooperation etc Lond.1834. [=An essay in answer to the question, whether does the principle of competition, with separate individual interests ... London 1834.]	An Essay 1834	Beiheft A	3-7	1, 26
5	5) Hodgskin: The natural and artificial right of property. Lond. 1832.	[Hodgskin] 1832	Beiheft A	10-5	27
6	6) An Essay on the Political Economy of Nations etc Lond. 1821.	An Essay 1821	Beiheft A	15-6	27-31
7	7) Trades Unions and Strikes. London. 1860.	Dunning 1860	Beiheft A	17-9 12a-3a	32-6

Heft XXII					
目次整理番号	マルクスによる内容目次 Schriften.	原典略記号	抜粋ノート・ページ		見出整理番号
1	1) Trades Unions and Strikes. London. 1860.	Dunning 1860	Beiheft A	17-9 12a-3a	32-6
2	2) Petty's Schriften.	Petty 1667	Beiheft A	13a-20	37-50, 56-63, 69, 71
		Petty 1755		20-1	
		Petty 1691		21-6	66-8, 70
		Petty 1695		26-7	72
3	3) Buat.	[Buat] 1773	Beiheft A	27-32	73
4	4) (Dickson:) An Essay on the causes of the present high prices of provisions etc Lond. 1773	[Dickson] 1773	Dickes Heft	244-7	74-8
5	5) A Short Essay on the Corn Trade etc (Charles Smith.) London.1758.	[Smith (C.)] 1758	Dickes Heft	243-4	79
6	6) Edmund Burke: Thoughts and Details on Scarcity etc (1795) London 1800	Burke 1800	Beiheft B	17-8	80-3, 115
7	7) Dr. Richard Price. Observations on Reversionary payments edit. Lond. 1803.	Price 1803	Beiheft B	31-2	84-7, 89
8	8) An Inquiry into the Connection between the Present High Prices of Provisions, and the Size of Farms etc Lond. 1773.	[Arbuthnot] 1773	Beiheft B	2-8	12-3, 89-91, 308

Heft XXIII					
目次整理番号	マルクスによる内容目次 Schriften.	原典略記号	抜粋ノート・ページ		見出整理番号
1	1) An inquiry into the Connection etc and the Size of Farms. Lond. 1773.	[Arbuthnot] 1773	Beiheft B	2-8	12, 13, 89-91, 308
2	2) An Inquiry into the Management of the Poor (Malthusianer) London. 1767	[Rawlinson] 1767	Beiheft B	2	92

3	3) (N. Forster) An Inquiry into the Causes of the present high prices of provisions in 2 parts. 1767.	[Foster] 1767	Beiheft B	8-10	14-5, 93, 96-8
4	4) A letter to Sir T. C. Bunbury etc 1795.	A Letter 1795	Beiheft B	10	99
5	5) Considerations etc by Governer Pownall. 1795.	Pownall 1795	Beiheft B	10	100
6	6) Monopoly of small farms. Th. Wright.	Wright 1795	Beiheft B	11	101
7	7) Two Letters on the Flour Trade etc 1767.	Two Letters 1767	Beiheft B	11	101
8	8) Thoughts on etc High Prices etc 1767.	[Jenyns] 1767	Beiheft B	11	102
9	9) E. Corrie. 1791.	[Corrie] 1791	Beiheft B	11	103
10	10) A Political Enquiry into the Consequences of Enclosing Waste Lands. 1785.	A Political Enquiry 1785	Beiheft B	12-3	104-5
11	11) Representation of the Lords etc (1790) 1800 edit.	Representation 1800	Beiheft B	17	108
12	12) William Mitford.	Mitford 1791	Beiheft B	17	109-10
13	13) Arthur Young. Scarcity. 1800	Young 1800	Beiheft B	18	111
14	14) A Defence of the a Landowners. 1814.	[Simpson] 1814	Beiheft B	20	112-4
15	15) J. D. Hume Thought on the Corn Laws. 1815.	Hume (J.) 1815	Beiheft B	19-20	17
16	16) Remarks on the Commerce. Policy. 1815.	Remarks 1815	Beiheft B	29-31	17, 116-21
17	17) Buchanan.	Buchanan 1844	Beiheft B	35-9	
		Buchanan 1814	Beiheft C	1-4	20
18	18) Ensor.	Ensor 1818	Beiheft C	6-7	127-8
19	19) Beckmann.	Beckmann 1786	Beiheft C	4-5	22, 124-6
20	20) Sismondi: Richesse Commerciale. 1803.	Sismondi 1803	Beiheft C	7-9	129
21	21) Sir Dudley North	[North] 1691	Beiheft C	12-4	56, 130-3, 135-6
22	22) Discourse... Encouraging Merchanick Industry. 1689.	A Discourse 1690	Beiheft C	24	138-40
23	23) General Notions of Commerce 1695.	[Clement] 1695	Beiheft C	24-6	141
24	24) The East Indian Trade a most profitable trade. 1677.	[Papillon] 1677	Beiheft D	41	141, 146-9
25	25) Publik Credit. 1748.	An Essay 1748	Beiheft F	9-11	141
26	26) New Buildings 1678.	A Discourse 1678	Beiheft C	26-7	142
27	27) Josiah Tucker.	Tucker 1753b	Beiheft C	27	143-4
		Tucker 1776		28	145
28	28) Exportaion of Wool. 1677.	Reasons 1677	Beiheft E	146-50	150-1
29	29) Case of Engl. Wool. 1685.	[Clarke] 1685	Beiheft E	153	152
30	30) Decay of Clothing Trade 1691.	Reasons 1691	Beiheft E	154-6	152
31	31) Sir R. Temple.	[Temple] 1693	Beiheft E	156-8	153, 308
32	32) Trenchard. 1696	[Trenchard] 1696	Beiheft E	158-60	154
33	33) Credit. 1707.	An Essay 1707b	Beiheft E	176	155
34	34) Loans. 1710.	[Defoe] 1710b	Beiheft E	177-8	157
35	35) Nicholas Barbon. 1796.	Barbon 1696	Beiheft E	178-87	158-69, 171, 175
			Beiheft F	1-2	
36	36) Decus et tutamen. 1696.	Decus 1696	Beiheft F	2	170-1
37	37) Equal Taxes 1702.	[Drake] 1702	Beiheft F	3-4	173
38	38) Stock Exchange.	[Defoe] 1719	Beiheft F	5	174
39	39) Decker. 1744.	[Decker] 1743	Beiheft F	6	176

40	40) Taxes 17[46]	An Essay 1746	Beiheft F	6-9	
41	41) Some Thoughts on the Interest of Money in15 General etc 1750.	Some Thoughts (1738)	Beiheft F	11-9	177-83
42	42) National Thoughts. Bounty of Corn.	[Townsend] (1751)	Beiheft F	19	184-5
43	43) Reason for Increase of Poor Rates. 1777.	Reasons for 1777	Beiheft F	21-7	186-96
44	44) Storch.	Storch 1815	Beiheft G	6-8 53-61 114-6	197-217
45	45) Quesnay.	Quesnay 1846a	Beiheft C	9-11 15-8	218
		Quesnay 1846d		23 29-31	218
46	46) An Essay on Trade and Commerce. 1770.	[Cunningham] 1770	Beiheft G	20-32 40-52	219-35, 266, 308
47	47) Cantillon.	[Cantillon] 1756	Beiheft G	62-113 116-23	236-7
48	48) Forbonnais	Forbonnai 1847	Beiheft G	129-32	243-9
49	49) Garnih.	Garnih 1815	Beiheft G	124-6	238-42
50	50) Garnier.	[Garnier] 1796	Beiheft G	133-9	250-6
51	51) Condillac.	Condillac 1847	Beiheft G	139-46	257-60
52	52) Bounty.1753	Considerations 1753	Beiheft H	1-4	261-6, 309
53	53) Letters to men of reason. 1774.	Letters 1774	Beiheft H	5-9	267, 309
54	54) State of Poor. 1773.	Consideration 1775	Beiheft H	10	268, 282
55	55) B. de l'Abbaye. 1770.	Beard de l' Abbaye 1770	Beiheft H	10-1	269
56	56) Essay on Pol. Ec. 1828.	[Fletcher] 1828	Beiheft H	12-3	271
57	59) Observations 1828.	Redesdale 1828	Beiheft H	13	272
58	60) Fletcher. 1827.	Fletcher 1827	Beiheft H	12	270
59	61) Essay on Pol. Ec.1830.	[Robertson] 1830	Beiheft H	13-4	273
60	62) Wakefield.	Wakefield 1833	Beiheft H	15-30 34	274-89
61	63) Essential Principles. 1797.	[Gray] 1797	Beiheft H	32-3 35-44	290-301, 315
62	64) Princip. of Trade 1774.	[Whatley] 1774	Beiheft H	44-5	302-3
63	65) An Essay on the External Com Trade. Torrens.1815.	Torrens 1815	Beiheft G	9-19 33-9	305-7, 310-4

## 資料4

## 「1861-63年草稿」HeftXX-XXIII「追補」の構成

1. 「抜粋整理番号」に付された ✓ は、マルクスによって「使用される」が付けられていることを示す。  
 2. 「抜粋整理番号」に付された \* および「見出しタイトル」の冒頭に付された L は、マルクスによって「欄外される」が付けられていることを示す。

見出 整理 番号	ノート番号 ページ	抜粋 整理 番号	見 出 タ イ ト ル			『資本論』初版における引用箇所
			原典略記号	原典ページ	抜粋ノート	
1	XX 1260		(Sieh das Beispiel mit den Webem im Beiheft.) (サブノートにある織工の例を見よ。)			
		1	An Essay 1834		Beiheft A	
			Beiheft A S.5 に抜粋されている。			
2	XX 1291a		Wissenschaft...ausführende Arbeit 科学...実地に移す労働			
		1	Hobbes 1839	p.75	Dickes Heft	
3	XX 1291a		Arbeitsvermögen 労働能力			
		* 1	Hobbes 1839	p.76	Dickes Heft	➤ Kap.2, 3)Kauf und Verkauf der Arbeitskraft (S.133, n.42)
		* 2	ibid.	p.233	ibid.	
4	XX 1291a		Productive und unproductive Arbeit 生産的労働と不生産的労働			
		1	Hobbes 1839	p.333	Dickes Heft	
5	XX 1291a-3a		Locke ロック			
		1	Hobbes 1839	p.232	Dickes Heft	
		2	Locke 1768	p.230	ibid.	
		3	ibid.	p.211	ibid.	
		4	ibid.	p.230	ibid.	
		5	ibid.	p.231	ibid.	
		6	ibid.	pp.231-2	ibid.	
		7	ibid.	p.234	ibid.	
		8	ibid.	p.235	ibid.	
		9	ibid.	p.235	ibid.	
		10	ibid.	p.236	ibid.	
			Marxは誤ってp.336と指示している。			
11	ibid.	p.237	ibid.			
	Marxは誤ってp.337と指示している。					
12	Locke 1740					
	[Massie] 1750 pp.10-1 からの引用。					
	Locke 1740 = Some considerations of the consequences of the lowering of interest and raising the value of money (1691). In: The works. London 1740.					
6	XX 1293a-4a		Hume und Massie. ヒュームとマッシー。			
		1	Hume (D.) 1764 v.1	p.289	Dickes Heft	
		2	ibid.	p.329	ibid.	
		3	ibid.	p.337	ibid.	
		4	ibid.	p.335	ibid.	
		5	ibid.	p.329	ibid.	
		6	ibid.	p.330	ibid.	
		7	ibid.	p.333	ibid.	
7	XX 1294a		(Unproductive Arbeit: 不生産的労働)			
		1	Hume (D.) 1764 v.1	pp.333-4	Dickes Heft	
		2	ibid.	p.334	ibid.	
		3	ibid.	pp.334-6	ibid.	
		4	ibid.	p.329	ibid.	
		5	ibid.	p.330	ibid.	
		6	ibid.	p.333	ibid.	
8	XX 1294a XXI 1301		(J.Massie) An Essay on the Governing Causes of the Natural Rate of Interest... wherein the sentiments of Sir W. Petty and Mr. Locke... on that head... are considered. London, 1750. (J.マッシー)『自然的利子率を支配する諸原因に関する一論。この問題に関するサー・W・ペティとロック氏の意見の検討を含む』、ロンドン、1750年。			
		1	[Massie] 1750	pp.14-5	Beiheft A	
		2	ibid.	pp.23-4	ibid.	
		* 3	ibid.	pp.31-2	ibid.	

8	XX 1294a XXI 1301	4	ibid.	p.49	ibid.			
		# 5	ibid.	p.49	ibid.			
		6	ibid.	p.49	ibid.			
		7	ibid.	p.50	ibid.			
		8	ibid.	p.51	ibid.			
		9	ibid.	p.51	ibid.			
		10	ibid.	pp.[52-]3	ibid.			
		11	ibid.	pp.55	ibid.			
		12	ibid.	pp.55-6	ibid.			
		13	ibid.	p.58	ibid.			
		✓14	ibid.	p.59	ibid.	> Kap.5. 1) Absoluter und relativer Mehrwerth (S.503-4 n.7)		
		15	ibid.	p.60	ibid.			
		9	XXI 1331-2	[Anwendung der grossen Industrie, Cooperation und Maschinerie auf die Industrie] [大工業、協業および機械装置の産業への応用]				
				1	Ramsay 1836	p.332	Citatenheft	
				Ramsay 1836 = An essay on the distribution of wealth. Edinburgh, London 1836				
2	ibid.			p.339	ibid.			
3	ibid.			p.337	ibid.			
4	Carey 1837			p.58	ibid.			
Carey 1837 = Principles of political economy. Part the first: of the laws of the production and distribution of wealth. Philadelphia 1837								
5	Carey 1848			p.11	ibid.			
Carey 1848 = The past the present, and the future. Philadelphia 1848								
# 6	ibid.	pp.48-9	ibid.					
# 7	ibid.	pp.51-2	ibid.					
# 8	ibid.	p.54	ibid.					
10	XXI 1333	Zu dem Oben bemerkten über price of labour und value of labouring power. 労働の価格および労働力の価値にかんする上記の点について。						
		1	Senior 1830	p.14 sq.		> Kap.5. 4) Die beiden Grundformen des Arbeitslohns: Zeitlohn und Stucklohn (S.531) (S.536)		
Senior 1830 = Three lectures on the rate of wages, delivered before the University of Oxford, in Easter term, 1830. With a preface on the causes and remedies of the present disturbances. London 1830								
11	XXI 1333	Productive Labourer. 生産的労働者。						
		# 1	Hodgskin 1827	p.238	Citatenheft			
		Hodgskin 1827 = Popular political economy. Four lectures delivered at the London Mechanics' Institution. London 1827						
# 2	An Inquiry 1821	p.97	Dickes Heft					
12	XXI 1333-4	Price of Labour. Wie Price of Land. 労働の価格も土地の価格も						
		1	Ueurie 1825	p.3	Beiheft B			
		2	[Arbuthnot] 1773	p.104	ibid.			
		3	ibid.	p.107	ibid.			
13	XXI 1334	Einfache Cooperation. 単純協業。						
		1	[Arbuthnot] 1773	p.128	Beiheft B	> Kap.6. 2) Die s.g. ursprüngliche Accumulation (S.713)		
		✓2	ibid.	pp.7-8	ibid.	> Kap.4. 2) Cooperation (S.307) (S.309)		
		# 3	ibid.	pp.9-10	ibid.			
14	XXI 1334-5	Natürliche Productivität des Landes. 土地の自然生産性。						
		✓1	[Foster] 1767	p.10	Beiheft B	> Kap.5. 1) Absoluter und relativer Mehrwerth (S.502)		
15	XXI 1335	Maschinerie. 機械装置。						
		1	[Foster] 1767	p.21	Beiheft B			
XXI 1335	Price of Labour. 労働の価格。							
XXI 1336	Marxの叙述							
XXI 1336	Productionprozess des Capitals. 資本の生産過程。							
XXI 1336	Marxの叙述							
16	XXI 1336-40	Grundrente. 地代。						
		# 1	[Malthus]1815a	p.3	Dickes Heft			
		2	ibid.	p.13	ibid.			
		3	ibid.	p.9	ibid.			
		4	ibid.	p.9	ibid.			
		5	ibid.	p.9	ibid.			
		6	ibid.	p.17	ibid.			
		7	ibid.	pp.17-8	ibid.			
		8	ibid.	p.36	ibid.			
		# 9	ibid.	p.16	ibid.			
		# 10	ibid.	p.17	ibid.			

16	XXI 1336-40	11	ibid.	pp.18-9	ibid.		
		12		p.20	ibid.		
		13	ibid.	pp.20[-1]	ibid.		
17	XXI 1340-1	<u>Arbeitslohn. Durchschnitt und movement. 労賃. 平均および運動。</u>					
		1	[Malthus] 1815a	p.19	Dickes Heft		
		2	[Malthus] 1815b	p.6	ibid.		
		3	[Malthus] 1815c	p.26	ibid.		
		4	Hume (J.) 1815	pp.58-9	Beiheft B		
		✱ 5	[Malthus] 1815a	p.48 note	Dickes Heft	> Kap.4, 1) Begriff des relativen Mehrwerth (S.292-3)	
		✓ 6	ibid.	p.48 note	ibid.	> Kap.5, 2) D. Gleichzeitige Variationen in Lange des Arbeitstags, Produktivkraft und intensivität der Arbeit (S.514) > Kap.5, 4) b) Die beiden Grundformen des Arbeitslohns: Zeitlohn und Stucklohn (S.546)	
		7	[Malthus] 1815b	pp.5-6	ibid.		
		8	Hume (J.) 1815	p.59	Beiheft B		
		9	ibid.	p.60	ibid.		
		10	ibid.	p.60	ibid.		
✓ 11	Remarks 1815	p.48	ibid.	> Kap.5, 4) b) Die beiden Grundformen des Arbeitslohns: Zeitlohn und Stucklohn (S.546)			
18	XXI 1342	<u>(Locke, Oglivie und Spence sehr wichtig zur Geschichte der Auschauungen über Grundeigentum in 18 Jhdt.) (ロック, オギルヴィおよびスペンスは18世紀における土地所有に関する諸見解の歴史について非常に重要である。)</u>					
19	XXI 1342	<u>Capital. 資本。</u>					
		1	Smith (A.) 1814 v. 3	p.309			
Smith (A.) 1814 = An inquiry into the nature and causes of the wealth of nations ... With notes, and an add. vol., by David Buchanan. Vol. 1-3. Edinburgh 1814.							
20	XXI 1342	<u>Productive und Unproductive Arbeit. Buchanan. (2X3) 生産的労働および不生産的労働。ブキャナン。(2ページ)(3ページ)</u>					
1	Smith (A.) 1814 v.1	Buchananの注	pp.2-3				
21	XXI 1342	<u>Steigen des Salairs durch Verwohlfierung der Waaren. 諸商品の低廉化による賃金の上昇。</u>					
		1	Smith (A.) 1814 v.1	Buchananの注	p.417	> Kap.5, 4) b) Die beiden Grundformen des Arbeitslohns: Zeitlohn und Stucklohn (S.548) > Kap.6, 2) Die s.g. ursprüngliche Accumulation (S.715)	
22	XXI 1342	<u>Abkürzung der Arbeitszeit durch Maschine. 機械による労働時間の短縮。</u>					
1	Beckmann 1788 v.1	p.127	Beiheft C	> Kap.4, 4) Maschinerie und grosse Industrie (S.419 n.194)			
23	XXI 1342	<u>Arbeit und Capital. 労働と資本。</u>					
		1	Paley 1845 v.2	p.151			
Paley = The works ... With notes and illustrations by James Paxton. Vol.1-5. Vol.2. London 1845							
24	XXI 1342	<u>Usual and average Price of Corn and Labour. 穀物と労働との通常価格および平均価格。</u>					
1	[Malthus] 1815c	p.26	Dickes Heft				
25	XXI 1342	<u>Cooperation. 協業。</u>					
		✓ 1	Berkley 1750	Q.521	Beiheft A	> Kap.4, 2) Cooperation (S.318)	
		✓ 2	ibid.	Q.521	ibid.	> Kap.4, 3) Theilung der Arbeit und Manufaktur (S.338)	
26	XXI 1342-3	<u>Maschinerie und average Wages. 機械装置および平均賃金。</u>					
		✱ 1	An Essay 1834	p.27	Beiheft A	> Kap.4, 1) Begriff des relativen Mehrwerth (S.300)	
		2	ibid.	p.29	ibid.	> Kap.4, 4) Maschinerie und grosse Industrie (S.423)	
		✱ 3	ibid.	p.30	ibid.		
		4	Carey 1837	p.27			
		5	Carey 1848	p.30			
		✱ 6	ibid.	[pp.58-9]			
27	XXI 1343-4	<u>Accumulated labour. 蓄積された労働。</u>					
		1	[Hodgskin] 1832	p.153	Beiheft A		
		2	An Essay 1821	p.3	ibid.		
		3	ibid.	p.8	ibid.		
		4	ibid.	p.13	ibid.		
28	XXI 1344	<u>Unterschied von der blossen Erhaltung des constanten und der Reproduction des variablen capitals. 不変資本のたんなる維持と可変資本の再生産との相違。</u>					
		✱ 1	An Essay 1821	pp.13-4	Beiheft A	> Kap.3, 2) Constantes Kapital und variables Kapital (S.166)	
		✱ 2	ibid.	p.67	ibid.		
29	XXI 1344	<u>Capital mit Bezug auf Reproduction. 再生産に関する資本。</u>					
1	An Essay 1821	p.24	Beiheft A				

30	XXI 1344	Unterschied von productive und commercial capital. 生産資本と商業資本との相違。			
		1	An Essay 1821	p.43	Beiheft A
31	XXI 1344-5	Absolute Surplusarbeit, Relative Surpluswerth. 絶対的剰余労働。相対的剰余価値。			
		# 1	An Essay 1821	p.47	Beiheft A > Kap.3, 5) Rate und Masse des Mehrwerthe (S.286)
		2	ibid.	p.49	ibid. > Kap.3, 5) Rate und Masse des Mehrwerthe (S.286)
		3	ibid.	p.49	ibid.
		4	ibid.	p.54	ibid.
		# 5	ibid.	p.51	ibid.
32	XXI 1345	Werth des Arbeitsvermögens, Durchschnittsarbeitslohn, Task-Work, Day-Work. 労働能力の価値。平均賃金。出来高仕事。日給仕事。			
		1	Dunning 1860	p.17	Beiheft A
33	XXI 1345 XXII 1346	Task-Work, Day-Work, Minimum. 出来高仕事。日給仕事。最低限。			
		✓1	Dunning 1860	p.17	Beiheft A > Kap.5, 4) b) Die beiden Grundformen des Arbeitslohns: Zeitlohn und Stucklohn (S.543)
		✓2	ibid.	pp.17-8	ibid. > Kap.5, 4) b) Die beiden Grundformen des Arbeitslohns: Zeitlohn und Stucklohn (S.543)
		3	ibid.	p.18	ibid.
		# 4	ibid.	p.20	ibid.
		5	ibid.	pp.20-1	ibid.
34	XXII 1346	Work by day and work by piece. 日給仕事と出来高仕事。			
		# 1	Dunning 1860	p.22	Beiheft A > Kap.5, 4) b) Die beiden Grundformen des Arbeitslohns: Zeitlohn und Stucklohn (S.538-9)
35	XXII 1346	Ueber Risiko des employers sehr gut Dunne. (Heft p. 17 sq) 雇用のリスクについては、ダニングは非常にすばらしい。(ノート17ページ以下。)			
		# 1	Dunning 1860	p.17	Beiheft A
36	XXII 1346	Salair. 賃金。			
		1	Dunning 1860	p.7	Beiheft A
37	XXII 1346	Petty. ペティ。			
38	XXII 1346	1) A Treatise of Taxes and Contributions. London. 1667. 『租税貢納論』ロンドン、1667年。			
39	XXII 1346	Productive und Unproductive Labour. 生産的労働および不生産的労働。			
40	XXII 1346	a) Parsons: a) 牧師。			
		1	Petty 1667	pp.7-8	Beiheft A
41	XXII 1346	b) Kaufleute und Retailers. b) 卸売商人および小売商人。			
		1	Petty 1667	p.10	Beiheft A
42	XXII 1346	c) Advocaten, Aerzte, Beamte etc. c) 弁護士、医師、官吏など。			
		1	Petty 1667	p.11	Beiheft A
43	XXI 1346-7	d) Paupers, supernumeraries. d) 受給貧民。過剰人員。			
		1	Petty 1667	p.12	Beiheft A
		2	ibid.	pp.12-3	ibid.
		3	ibid.	p.13	ibid.
		4	ibid.	p.12	ibid.
44	XXII 1347	Bevölkerung der Reichtum 人口。富			
		1	Petty 1667	p.16	Beiheft A
45	XXII 1347	ab a) oben Parsons. a) にあげた牧師について。			
		1	Petty 1667	p.57	Beiheft A > Kap.6, 1), c) Das allgemeine Gesetz der kapitalistischen Accumulation (S.604)
		2	ibid.	p.57	ibid. > Kap.6, 1), c) Das allgemeine Gesetz der kapitalistischen Accumulation (S.604)
46	XXII 1347	Ursprung und Schätzung des surplusvalue. 剰余価値の源泉と評価。			
		1	Petty 1667	pp.66-7	Beiheft A
		2	ibid.	p.23	ibid.
47	XXII 1347	α)			
		1	Petty 1667	p.31	Beiheft A > Kap.1, 2) Der Austauschprozess der Waaren (S.53)
		2	ibid.	p.66	ibid.
		3	ibid.	p.66	ibid.



48	XXII 1347	B)			
		1	Petty 1667	p.64	Beiheft A
		2	ibid.	p.67	ibid.
49	XXII 1347	Y)			
		1	Petty 1667	p.66	Beiheft A
		2	ibid.	pp.23-4	ibid.
		3	ibid.	p.24	ibid.
		4	ibid.	p.24	ibid.
		5	ibid.	p.25	ibid.
		6	ibid.	pp.25-6	ibid.
		7	ibid.	p.28	ibid.
50	XXII 1350-1	Differentialrente. 差額地代。			
		1	Petty 1667	p.29	Beiheft A
		2	ibid.	p.67	ibid.
51	XXII 1351	Okonomie in constanten Capital. um die Profitrate zu erhöhen. (Kohlenwerke) 利潤率を高めるための不変資本の節約。(炭鉱。)			
		First Report 1842	p.102		
		#1 First Report 1842 = First report of the children's employment commissioners in mines and collieries. 21 April 1841. Nach: Westminster Review. Vol. 38. London 1842			
52	XXII 1352	[Kinderarbeit. Ueberarbeit.] [児童労働. 過度労働.]			
		1	First Report 1842	p.134	
		2	ibid.	p.134	
		3	ibid.	p.107	
		# 4	ibid.	p.107	
53	XXII 1352	[Welches Verhältniss die common labour zu der labour class überhaupt einnimmt. .... Samuel Laing: National Distress, its Causes and its Remedies. London. 1844. [普通の労働が労働階級全体に対してどのような割合を占めるかは、.....サミュエル・レイニング『国民的苦難。その原因と救済策。』ロンドン、1844年。			
54	XXII 1352	Total of population dependent on ordinary labour. 通常の労働にたよる人口の総数は			
55	XXII 1352	Middle class. 中間階級。			
		1	Laing 1844	pp.52-3	
		Laing 1844 = National distress; its causes and remedies. London 1844			
56	XXII 1397	[Petty, Sir Dudley North, Locke. ペティ、サー・ダッドリ・ノース、ロック。			
57	XXII 1397	Petty. Treatise of Taxes and Contributions. Lond. 1667 Nachträgliches. ペティ『租税貢納論』、ロンドン、1667年、補足。			
58	XXII 1397	1) Ueber die Masse circulirendes Geld, die eine Nation braucht. 1)一国民が必要とする流通する貨幣量について。(パラグラフ14, 15.)			
		1	Petty 1667	p.12	Beiheft A
		2	ibid.	p.25	ibid.
59	XXII 1398	2) Was ihn sehr beschäftigt: is the "natural Par between Land and Labour" (25) ペティの関心を非常にひいたものは、「土地と労働とのあいだの自然の等価関係」(25ページ)である。			
		1	Petty 1667	p.25	Beiheft A
60	XXII 1398	3) Sagt mit Betreff des Zinsfußes: 利率にかんして述べている。			
		1	Petty 1667	p.29	Beiheft A
61	XXII 1398	4) Betreffs der Rente: Surplusvalue in Folge der grossen Productivität der Arbeit: 地代にかんして、労働のより大きな生産性の結果としての剰余価値。			
		1	Petty 1667	p.29	Beiheft A
62	XXII 1398	5) Raising of money (p.18, 19) 5) 貨幣の引き上げ。(パラグラフ18, 19)			
		1	Petty 1667	p.64	Beiheft A
63	XXII 1398	6) Die früher citirte Stelle 6) 以前に引用した箇所			
		1	Petty 1667	p.64	Beiheft A
64	XXII 1398	Petty: An Essay concerning the multiplication of mankind. Theilung der Arbeit (1682) (p.28, 29) ペティ『人類の増殖に関する一論』。分業。(1682年(28, 29ページ))			
65	XXII 1398	Political Anatomy of Ireland. (und Sapiens; Sat.) 1872 (Ausgabe London 1891) 『アイルランドの政治的解剖(および『賢者には... 足る』1672年(ロンドン版、1691年))			
66	XXII 1398	1)			
		1	Petty 1691	p.63	Beiheft A
67	XXII 1399	2)			
		1	Petty 1691	p.64	Beiheft A
		2	ibid.	p.65	ibid.
		➤ Kap.4. 1) Begriff des relativen Mehrwerth (S.292)			

68	XXII 1399	3) Masse des Gelds und Reichthum der Nation. (13) 3)貨幣の量と国民の富。(13ページ) Verbum Sapienti. (1672) 『賢者には一言をもって足る』(1672年)			
		# 1	Petty 1691	p.13	Beiheft A
69	XXII 1399	4) Capital. 4) 資本。			
		# 1	Petty 1687	p.9	Beiheft A
70	XXII 1399	5) Productivkraft der Arbeit. 5) 労働の生産力。			
		1	Petty 1691	p.20	Beiheft A
		2	ibid.	p.21	ibid.
71	XXII 1399	6) Zweck des Menschen und Ziel. (25) 6) 人間の目的と終着点。(25ページ)			
		1	Petty 1667	p.25	Beiheft A
72	XXII 1399	7) Sieh über Geld auch das Quantulumcunqne. (1682) 7) 貨幣にかんしては『小論』(1682年)も見よ。			
		1	Petty 1695	p.25	Beiheft A
73	XXII 1399-1400	[Buat (comte de) Éléments de la Politique ou. Recherche des vrais Principes de l' Econ. Social. (6 vls) London. 1773] 7) Sieh über Geld auch das Quantulumcunqne. (1682) 7) [ピュア(伯爵)「政治学綱要、すなわち社会経済学の真なる原理』(全6巻)ロンドン、1773年。			
		1	[Buat] 1773 v.2	p.297	Beiheft A
74	XXII 1400	[Capitalistische Bebauung des Landes: 土地の資本主義的な耕作。			
		1	[Dickson] 1773	p.13	Dickes Heft
75	XXII 1400	Rente. 地代。			
		1	[Dickson] 1773	p.51	Dickes Heft
		2	An Inquiry 1772	p.36	Beiheft E
		3	ibid.	p.38	ibid.
		4	[Dickson] 1773	p.15	Dickes Heft
		5	ibid.	p.9	ibid.
		6	ibid.	p.17	ibid.
		7	ibid.	p.73	ibid.
		8	ibid.	p.81	ibid.
		9	ibid.	p.82	ibid.
		10	ibid.	p.83	ibid.
		11	ibid.	p.83-	ibid.
		12	ibid.	p.84	ibid.
76	XXII 1401	Als ferneri Grund des Steigens der Preise der Provisions führt er Taxes an. 食料品価格の騰貴のもう一つの原因として、彼は租税を挙げている。			
		1	[Dickson] 1773	p.89	Dickes Heft
		2	ibid.	p.89	ibid.
		3	ibid.	p.92	ibid.
		4	ibid.	p.93	ibid.
		5	ibid.	p.104	ibid.
		6	ibid.	p.104	ibid.
		7	ibid.	p.105	ibid.
		8	ibid.	p.106	ibid.
77	XXII 1401	Was ist der Grunde des Steigens der Rente? 地代の騰貴の原因は何か? Schlechte seasons nicht. 悪天候ではない。			
		1	[Dickson] 1773	p.6	Dickes Heft
78	XXII 1401	Improvements können auch nicht Grund sein. 改良もその原因ではありえない。			
		1	[Dickson] 1773	p.7	Dickes Heft
		2	ibid.	p.6	ibid.
79	XXII 1401	[“A Short Essay on the Corn Trade, and the Corn Laws etc.” Lond. 1758 (Charis Smith: Die später zu citirnden Corncontracts.) 『穀物貿易と穀物法』についての小論』ロンドン、1758年(チャールズ・スミス、あとで引用すべき穀物論集。)			
		1	[Smith (C.)] 1758	p.5	Dickes Heft
		2	[Smith (C.)] 1766		Beiheft B
80	XXII 1401	[Edmund Burke. (the late) Thoughts and Details on Scarcity, originally presented to the R. Hon. W. Pitt in the month of Nov. 1795. London. 1800. [エドマンド・バーク(故)「穀物不足にかんする意見と評論。もと1795年11月にW.ピット閣下に提出したもの』。ロンドン、1800年。			
		1	Burke 1800	p.2	Beiheft B
81	XXII 1401-2	Mehrerwerth. Constantes und variables Capital. 剰余価値。不変資本と可変資本。			
		# 1	Burke 1800	pp.[2-]3	Beiheft B
		2	ibid.	p.10	ibid.
					> Kap.3, 4) Der Arbeitstag (S.202 n.41)
					> Kap.3, 2) Constantes Kapital und variables Kapital (S.173 n.22a)

81	XXII 1401-2	3	Spence 1795		ibid.	
Marx: Beiheft B S.19への参照指示。						
82	XXII 1402	1	Burke 1800	pp.[15-]16	Beiheft B	> Kap.4, 2) Cooperation (S.303 n.8)
Concentration des Capitals. 資本の集中。						
83	XXII 1402	≠ 1	Burke 1800	p.25	Beiheft B	
84	XXII 1402		Ursprüngliche Accumulation. Nehmen wir die Schrift von Price und die Gegenschrift. 本源的蓄積。プライスの著作への反対論を取りあげよう。			
85	XXII 1402		Dr. Richard Price: Observations on Reversionary Payments. (Die 3d edit., worauf sich die Gegenschrift bezieht. 1772) 6. edit: 2 vis. (edited By William Morgan. London. 1803.) ドクター・リチャード・プライス『生残年金についての考察』(反対論が引き合いに出しているのは第3版、1772年) 第6版、全2巻(ウィリアム・モーガン編、ロンドン、1803年)			
86	XXII 1402		Price loc. vol. II プライス、同上書、第2巻。			
		✓1	Price 1803 v.2	p.147	Beiheft B	> Kap.6, 2) Die s.g. ursprüngliche Accumulation (S.711-2)
		✓2	ibid.	p.147	ibid.	> Kap.6, 2) Die s.g. ursprüngliche Accumulation (S.711-2)
		3	ibid.	pp.147-8	ibid.	> Kap.6, 2) Die s.g. ursprüngliche Accumulation (S.711-2)
		✓4	ibid.	p.148	ibid.	> Kap.6, 2) Die s.g. ursprüngliche Accumulation (S.711-2)
		5	ibid.	p.148	ibid.	
		6	ibid.	pp.149-52	ibid.	
Marx: Beiheft B S.32への参照指示。						
87	XXII 1402-3		Citr Rev. Mr. Addington: Inquiry into the Reasons for and against enclosing open fields. Lond. 1772 p.43 und p.37: アディントン師『開放耕地の囲い込みに対する賛否両論の研究』、ロンドン、1772年、の43ページと37ページから引用している。			
		✓1	Addington 1772	p.43		> Kap.6, 2) Die s.g. ursprüngliche Accumulation (S.711)
			Addington 1772 = An inquiry into the reasons for and against inclosing open-fields. 2. ed. Coventry 1772. Nach: Richard Price: Observations on reversionary payments... 6. ed. Vol. 2. London 1803			
		✓2	ibid.	[pp.43-4]		> Kap.6, 2) Die s.g. ursprüngliche Accumulation (S.711)
		✓3	ibid.	pp.37[-8]		> Kap.6, 2) Die s.g. ursprüngliche Accumulation (S.711)
1~3は、Price 1803 v.2 pp.153-5に引用されている。						
✓4	Price 1803 v.2	pp.155-6 note	Beiheft B	> Kap.6, 2) Die s.g. ursprüngliche Accumulation (S.711)		
5	MacCulloch 1845	p.149				
MacCulloch 1845 = The literature of political economy: a classified catalogue of select publications in the different departments of that science, with historical, critical, and biographical notices. London 1845						
XXII 1403	資本の本源的蓄積に関するマルクスの叙述					
	Marx: Stuart 1767 v.1, Mirabeau 1788, Newman 1851 への参照指示。					
	Steuart 1767 = An inquiry into the principles of political oecomy: being an essay on the science of domestic policy in free nations. Vol. 1.2. London 1767.					
	Mirabeau 1788 = De la monarchie prussienne, sous Frédéric le Grand. Avec un appendice, contenant des recherches sur la situation actuelle des principaux contrées de l'Allemagne. T.3. Londres 1788.					
Newman 1851 = Lectures on political economy. London 1851						
88	XXII 1404		(Sieh Macaulay) (マコーリを見よ。)			
		≠ 1	Macaulay 1854 v.1		[pp.333-4]	
Macaulay 1854 = The history of England from the accession of James the Second. 10. ed. Vol.1. London 1854						
XXII 1404	Systematisch betrieben durch cleaning of estates. 地所の清掃によって次のことが組織的に遂行された。					
Marxの叙述						
89	XXII 1404 XXIII 1407		Gegen Price, Addington etc nun: さてここで、プライス、アディントン等への反対論。			
		1	[Arbuthnot] 1773	p.91	Beiheft B	
		2	ibid.	p.62	ibid.	
		3	ibid.	p.88	ibid.	
		4	ibid.	p.135	ibid.	
		5	ibid.	p.124	ibid.	> Kap.6, 2) Die s.g. ursprüngliche Accumulation (S.713)
		≠ 6	ibid.	p.128	ibid.	> Kap.6, 2) Die s.g. ursprüngliche Accumulation (S.713)
		≠ 7	ibid.	p.129	ibid.	> Kap.6, 2) Die s.g. ursprüngliche Accumulation (S.713)
		≠ 8	ibid.	p.130	ibid.	
		≠ 9	ibid.	pp.[132-]133	ibid.	
		≠ 10	ibid.	p.138	ibid.	
		≠ 11	ibid.	p.138	ibid.	
		✓12	ibid.	p.139	ibid.	> Kap.6, 2) Die s.g. ursprüngliche Accumulation (S.708)
		≠ 13	ibid.	p.62	ibid.	
		≠ 14	ibid.	p.125	ibid.	> Kap.6, 2) Die s.g. ursprüngliche Accumulation (S.713)
15	ibid.	p.93	ibid.			

89	XXII 1404 XXIII 1407	16	ibid.	p.146	ibid.	
		17	ibid.	pp.103-7	ibid.	
		18	ibid.	p.107	ibid.	
		✓19	Price 1803 v.2	pp.156-7	ibid.	
		✓20	ibid.	pp.157-8	ibid.	
		✓21	ibid.	pp.157-8	ibid.	
		✓22	ibid.	p.158	ibid.	➤ Kap.6, 1), c) <u>Das allgemeine Gesetz der kapitalistischen Accumulation (S.622)</u>
		✱ 23	ibid.	pp.158-9	ibid.	
		✱ 24	ibid.	p.159	ibid.	➤ Kap.6, 1), c) <u>Das allgemeine Gesetz der kapitalistischen Accumulation (S.622)</u>
		✓25	ibid.	p.159 note	ibid.	
✓26	ibid.	p.159 sq.	ibid.	➤ Kap.6, 2) <u>Die s.g. ursprüngliche Accumulation (S.712)</u>		
90	XXIII 1408-9	[Werth und Price. 価値と価格。]				
		✓1	[Arbuthnot] 1773	p.107	Beiheft B	
		✓2	ibid.	p.108	ibid.	
		3	ibid.	p.110	ibid.	
		4	ibid.	pp.3[-4]	ibid.	
		✱ 5	ibid.	pp.5-6	ibid.	
		✱ 6	ibid.	p.6	ibid.	
		✱ 7	ibid.	pp.7	ibid.	➤ Kap.4, 2) <u>Cooperation (S.309)</u>
		✱ 8	ibid.	pp.8-9	ibid.	
		✱ 9	ibid.	pp.9-10	ibid.	
		✱ 10	ibid.	pp.11-2	ibid.	➤ Kap.3, 5) <u>Rate und Masse des Mehrwerths (S.287)</u>
✱ 11	ibid.	p.13	ibid.			
91	XXIII 1409	Rent. 地代。				
		1	[Arbuthnot] 1773	p.34	Beiheft B	
92	XXIII 1410	[Pauperismus. An Inquiry into the Management of the Poor etc London. 1776. p.48 [貧困。『貧民の管理についての研究...』。ロンドン、1767年、84ページ。]				
		1	[Rawlinson] 1776	p.84	Beiheft B	
93	XXIII 1410	[An Enquiry into the Causes of the Present High Price of Provisions. in two Parts. (Verfasser Nataniel Foster, Rev.) London. 1767. [現在の食糧高価格の諸原因に関する研究]、全2巻。(著者はナサニエル・フォースター)、ロンドン、1767年。]				
		1	[Foster] 1767	p.1	Beiheft B	
		2	ibid.	p.35	ibid.	
		3	ibid.	p.49	ibid.	
94	XXIII 1410	Ungünstig der Entwicklung eines Landes zu grosse natürliche Fruchtbarkeit. あまりにも自然の豊饒さに恵まれていることは、一国の発展にとって不利である。				
		Marx: Beiheft B S.8への参照指示。				
95	XXIII 1410	Verteidigung der Maschinerie etc. (I.c. S.8 u. 9) 機械の擁護。(同上書、8および9ページ。)				
		Marx: Beiheft B S.8, 9への参照指示。				
96	XXIII 1410	Gegensatz der Klassen. 階級級の対立。				
		✱ 1	[Foster] 1767	p.22 Note	Beiheft B	
		2	ibid.	p.61	ibid.	➤ Kap.4, 4) <u>Maschinerie und grosse Industrie (S.419)</u>
97	XXIII 1410	Faulheit, luxury, vice der Arbeiter. 怠惰、奢侈、労働者の墮落行為。				
		1	[Helvetius] 1758	p.38		
			[Helvetius] 1758 = De l'esprit. Paris 1758. Nach: [Nathaniel Forster.] An enquiry into the causes of the present high price of provisions. London 1767 [Foster] 1767 p.62に引用されている。			
✱ 2	[Foster] 1767	pp.62-3	Beiheft B			
98	XXIII 1410	Verteidigung des Kornwuchers etc. (I.c. S.9) 穀物奸商の擁護。(同上書、9ページ。)				
		1	[Helvetius] 1758			
		2	[Foster] 1767	pp.91-2	Beiheft B	
		Marx: Beiheft B S.9への参照指示。				
3	ibid.	p.213	ibid.			
99	XXIII 1410-1	Verschwinden der Yeomanry. ヨーマンリの消滅。				
		✓1	A Letter 1795	p.4	Beiheft B	➤ Kap.6, 2) <u>Die s.g. ursprüngliche Accumulation (S.707)</u>
100	XXIII 1411	[Ursachen der deficiency in the supply of bread corn. [パン用穀物の供給不足の諸原因。]				
		1	Pownall 1795	p.8	Beiheft B	
101	XXIII 1411	Ingrossing of farms. 農場の独占。				
		✓1	Wright 1795	pp.2-3	Beiheft B	➤ Kap.6, 2) <u>Die s.g. ursprüngliche Accumulation (S.710-1 n.207)</u>

101	XXIII 1411	#✓2	Two Letters 1767	pp.19-20	Beiheft B	> Kap.6, 2) Die s.g. ursprüngliche Accumulation (S.710)
102	XXIII 1411		Entwertung der Arbeit durch fall in the value of money. (Depreciation des Gelds: 貨幣価値の下落による労働の価値低下。(貨幣の減価。			
		1	[Jernyns] 1767	p.18	Beiheft B	
103	XXIII 1411		[Als Grund des Steigens der Kompreisse: Population. (穀物価格の上昇の原因としての人口。			
		1	[Corrie] 1791	p.33	Beiheft B	
XXIII 1412			[Rent (地代。 Marxの叙述			
104	XXIII 1412-3		A Political Enquiry into the Consequences of Enclosing Waste Lands etc. London: 1785. 『荒地の囲い込みの諸結果…に関する研究』、ロンドン、1785年。			
		1	A Political Enquiry 1785	p.65	Beiheft B	
		2	ibid.	p.71	ibid.	
		3	ibid.	p.72	ibid.	
		4	ibid.	p.20	ibid.	
		5	ibid.	p.20	ibid.	
		6	ibid.	p.21	ibid.	
		# 7	ibid.	pp.23-4	ibid.	
		# 8	ibid.	p.24	ibid.	
		# 9	ibid.	p.26	ibid.	
		# 10	ibid.	p.27	ibid.	
# 11	ibid.	p.81	ibid.			
105	XXIII 1413		Expropriation der cottagers. 小屋住み農からの取奪。			
		#✓1	A Political Enquiry 1785	p.75	Beiheft B	> Kap.6, 2) Die s.g. ursprüngliche Accumulation (S.709)
		#✓2	ibid.	p.76	ibid.	
106	XXIII 1413		[Ueber die Getredeconsumtion des englischen Volks (1795) [イギリス国民の穀物消費(1799年)について			
		# 1	[Smith (C.)] 1786	p.140	Beiheft B	
107	XXIII 1413		[Bread consum des einzelnen Labourers. (個々の労働者のパン消費。			
		1	[Smith (C.)] 1786	p.187	Beiheft B	
108	XXIII 1414		[Change in England von a com exporting to importing country. (穀物輸出国から穀物輸入国へのイギリスの変化。			
		1	Representation 1800	p.8	Beiheft B	
109	XXIII 1414		[Task Arbeit (free and slave labour) (賃仕事。(自由な労働と奴隷労働。)			
		✓1	Mitford 1791	p.59	Beiheft B	
110	XXIII 1414		[Niederlassungsgesetze (移民諸法。			
		# 1	Mitford 1791	p.53	Beiheft B	
111	XXIII 1414		[Unterschied in der Fruchtbarkeit. (豊饒性の相違。			
		# 1	Young 1800	p.9	Beiheft B	
112	XXIII 1414-5		[Aufenthalt des Capitals in der Productionssphäre. (生産部面における資本の滞留。			
		# 1	[Simpson] 1814	pp.4-5	Beiheft B	> Kap.5, 4) b) Die beiden Grundformen des Arbeitslohns: Zeitlohn und Stücklohn (S.545 n.57)
		# 2	ibid.	p.4	ibid.	
113	XXIII 1415		[Task Work etc. (賃仕事など。			
		✓1	[Simpson] 1814	p.34	Beiheft B	
		2	ibid.	p.35	ibid.	
114	XXIII 1415		[Rent and Fallows: (地代と休作。			
		1	[Simpson] 1814	p.72	Beiheft B	
115	XXIII 1415		[Constantes und variables Capital. (不変資本と可変資本。			
		✓1	Address 1815	pp.8-11	Beiheft B	
		✓2	ibid.	p.32	ibid.	
			1~21について、Marx: Beiheft B S.21, 22への参照指示。			
		✓3	Burke 1800	p.3	ibid.	
116	XXIII 1415		[Rente (地代。			
		1	Remarks 1815	p.42	Beiheft B	
117	XXIII 1416		[Increase of Rent (地代の増大。			
		1	Remarks 1815	p.43	Beiheft B	
118	XXIII 1416		[Wachsen der Rente mit Abnahme der Rate der Rente (地代の率の低下をともなう地代の増大。			
		1	Remarks 1815	pp.44-5	Beiheft B	
			Marx: Beiheft B S.9への参照指示。			

119	XXIII 1416	Werth der Arbeit und Preiss der Lebensmittel. 労働の価値と生活手段の価格。				
		# 1	Remarks 1815	p.48	Beiheft B	> Kap.5, 4) b) Die beiden Grundformen des Arbeitslohns: Zeitlohn und Stucklohn (S.545 n.5)
		# 2	ibid.	p.76	ibid.	
		3	ibid.	pp.76-7	ibid.	
120	XXIII 1416	Grösse der Circulation. 流通の量。				
		1	Remarks 1815	p.86	Beiheft B	
121	XXII 1416	Ursache des high price of com. 穀物の高価格の原因。				
		1	Remarks 1815	p.88	Beiheft B	
122	XXIII 1416-7	Cleaning of estate. 地所の清掃。				
		✓1	Buchanan 1814	p.143-5	Beiheft C	
123	XXIII 1417	Personnification des Capitals. 資本の人格化。				
		1	Smith (A.) 1814 v. 3	p.309		
124	XXIII 1417	[Ablürzung der Arbeit durch Maschinerie. Kampf der Arbeiter dagegen. Beckmann. 「機械による労働の短縮。それに対する労働者の闘争。ベックマン」。				
		1	Beckmann 1788 v.1		Beiheft C	
			Marx: Beiheft C S.4, 5への参照指示。			
125	XXIII 1417	Kampf in England gegen die Sägmühlen ibid. (S.5) [イギリスにおける機械鋸に反対する闘争。同。(5ページ)]				
		1	Beckmann 1786 v.1		Beiheft C	
			Marx: Beiheft C S.5への参照指示。			
126	XXIII 1417	Deutsche Erfindungen. (S.5 ib.) ドイツの発明。(同、5ページ)]				
		1	Beckmann 1786 v.1		Beiheft C	
			Marx: Beiheft C S.5への参照指示。			
127	XXIII 1417	[Gegen Malthus. Sieh Ensor. Beiheft C, p.6, 7. (マルサスへの反対論。エンサーを見よ。サブノートC, 6, 7ページ。]				
		✓1	Ensor 1818		Beiheft C	
			Marx: Beiheft C S.6, 7への参照指示。			
128	XXIII 1417	Cleaning of estate. 地所の清掃。				
		✓1	Ensor 1818	pp.215-6	Beiheft C	> Kap.6, 2) Die s.g. ursprüngliche Accumulation (S.715)
129	XXIII 1417-8	[Austausch von vergegenständlichter Arbeit gegen Lebendige. (対象化された労働の、生きた労働との交換。]				
		# 1	Sismondi 1803 v.1	p.38	Beiheft C	
		# 2	ibid.	p.37	ibid.	> Kap.5, 4), b) Die Formverwandlung (S.522)
130	XXIII 1418-9	[Sir Dudley North: Discourses upon Trade, etc London 1691 (Beiheft C) 「サー・ダッドリ・ノース『交易論』、ロンドン、1691年。(サブノートC) Marxの叙述				
		1	[North] 1691	p.4	Beiheft C	
131	XXIII 1419	Zins. 利子。				
		Marxの叙述				
		1	[North] 1691	p.4	Beiheft C	
		# 2	ibid.	p.16	ibid.	
132	XXIII 1419	Preis und Geld. 価格と貨幣。				
		1	[North] 1691	[pp.11-2]	Beiheft C	
			Marx: Beiheft C S.12, 13への参照指示。			
		2	ibid.	p.11	ibid.	
133	XXIII 1419	Ferner das Capital ist sich verwerthender Werth. さらに、資本とは自己を増殖する価値であるが…				
		# 1	[North] 1691	p.11	Beiheft C	> Kap.1, 3), B, b) Der Umlauf des Geldes (S.81 n.61)
		2	ibid.	p.21	ibid.	
134	XXIII 1419	(So sagt John Bellers: Essays about the Poor, Manufactures, Trade, Plantations and Immorality etc Lond. 1699: (ジョン・ベラーズ『貧者、製造業、交易、植民および不道徳についての論集』、ロンドン、1699年では…				
		1	Bellers 1699	p.13	Beiheft D	
			Marxは誤ってp.12と指示している。			
135	XXIII 1420	Geld als Weltgeld. 世界貨幣としての貨幣。				
		# 1	[North] 1691	p.14	Beiheft C	
		# 2	ibid.	p.13	ibid.	
136	XXIII 1420	Das Quantum Geld das circulieren kann, ist durch den Waarenaustausch bestimmt. 流通しうる貨幣の分量は、商品交換によって規定される。				
		1	[North] 1691	pp.17-8	Beiheft C	
		2	ibid.	p.18	ibid.	
			Marx: Beiheft C S.13への参照指示。			

137	XXIII 1420	[Schätzen und Wägen des Gelds. Oscillatorische Bewegung. I.o. S.14] (貨幣の評価と秤量. 同ノート, 14ページ)			
138	XXIII 1420	Der Wucher und das landed interest und der trade: 高利貸しと地主連中と商業.			
		1	A Discourse 1690	pp.6-7	Beiheft C
139	XXIII 1420	Kinderarbeit. 児童労働.			
		1	A Discourse 1690	p.13	Beiheft C > Kap.3, 4) Der Arbeitstag (S.246 n.120)
		Marx: Beiheft C S.24への参照指示.			
140	XXIII 1420	Unproductive Arbeit. 不生産的労働.			
		1	A Discourse 1690		Beiheft C
		Marx: Beiheft C S.24への参照指示.			
141	XXIII 1420-1	[Gold und Silber Waare. 金銀は商品.]			
		1	[Clement] 1695	p.7	Beiheft C > Kap.1, 2) Der Austauschprozess der Waaren (S.51, n.40)
		2	[Child] 1689	p.2	Beiheft D > Kap.1, 2) Der Austauschprozess der Waaren (S.51, n.40)
		3	[Papillon] 1677	p.4	ibid. > Kap.1, 2) Der Austauschprozess der Waaren (S.51, n.40)
4	An Essay 1748	p.16	Beiheft F		
142	XXIII 1422-3	[A Discourse showing the Great Advantages that New Buildings, and the Enlarging of Towns and Cities do bring to a Nation. London 1678. 『新しい建物. 市街の拡大が国民にもたらす大きな利益を示す一論』, ロンドン, 1678年.]			
		1	A Discourse 1678	p.1	Beiheft C
		✕ 2	ibid.	p.14	ibid.
		✕ 3	ibid.	p.3	ibid.
		✕ 4	ibid.	p.3	ibid.
		Marxは誤ってp.4と指示している.			
143	XXIII 1423	[Josiah Tucker's Schriften. ジョサイア・タッカーの諸著作.]			
		1	Tucker 1753	p.vi	Beiheft C
		Marx: Beiheft C S.27への参照指示.			
144	XXIII 1423	Bevölkerung der Reichthum. 人口、富.			
		1	Tucker 1753		Beiheft C
		Marx: Beiheft C S.27への参照指示.			
145	XXIII 1422-3	Gegen Humes Theorie. ヒュームの理論に対する反対論.			
		1	Tucker 1776		Beiheft C
		Marx: Beiheft C S.28への参照指示.			
2	[Child] 1689	p.1	Beiheft D		
146	XXIII 1423	Anschauung des Mercantilsystems von Mehrwerth. 剰余価値に関する重商主義の見解.			
1	[Papillon] 1677	p.1	Beiheft D		
147	XXIII 1423	Im Gegensatz zum Monetarsystem. 重金主義に対する反対論.			
1	[Papillon] 1677	pp.4-5	Beiheft D		
148	XXIII 1423	Rechengeld. 計算貨幣.			
1	[Papillon] 1677	p.4	Beiheft D		
149	XXIII 1423	Beschleunigte Geschwindigkeit des Gelömlaufs bei quick trade. 迅速な交易にともなう貨幣流通の速度の増大.			
1	[Papillon] 1677	p.5	Beiheft D		
150	XXIII 1424	[Reasons for a limited exportation of wool. London. 1677. 『羊毛の輸出制限の理由』, ロンドン, 1677年.]			
		1	Reasons 1677	p.3	Beiheft E
		Marxは誤ってp.1と指示している.			
		2	ibid.	p.16	ibid.
		✕ 3	ibid.	p.8	ibid.
		4	ibid.	p.16	ibid.
5	ibid.	p.3	ibid.		
6	ibid.	p.18	ibid.		
151	XXIII 1424-5	Papermüde Wirkung der Industrie. 貧窮という罪過は、工業化の結果.			
		✕ 1	Reasons 1677	p.19	Beiheft E > Kap.6, 1). a) Einfache Reproduktion (S. 558, n.6)
		✓ 2	ibid.	pp.3-4	ibid.
		Marxは誤ってp.2と指示している.			
✕ 3	ibid.	p.5	ibid.		
Marxは誤ってp.3と指示している.					
✕ 4	ibid.	pp.4-5	ibid.		
Marxは誤ってp.3と指示している.					

152	XXIII 1425	[Denunciation der Woolstaplers und Factories as a Public Nuisance. 毛織物商人と諸工場は公共の有害物として非難された。			
		1	Clarke 1685 [p.7]	Beiheft E	
		Marx: Beiheft E [S.153-4]への参照指示。			
153	XXIII 1425	[Sir R. Temple. 「サー」R.テンブルは]			
		1	[Temple] 1693 pp.3-4	Beiheft E	
		2	ibid. [p.5]	ibid.	
		3	ibid. p.11	ibid.	
		4	ibid. p.12	ibid.	
		5	ibid. p.14	ibid.	
1~5について、Marx: Beiheft Eへの参照指示。					
154	XXIII 1425	[Kampf der landlords und money lords. 地主と貨幣所有者との闘争。			
		1	[Trenchard] 1696 pp.3-4	Beiheft E	
Marx: Beiheft Eへの参照指示。					
155	XXIII 1425	[Grausamkeit des Capitals. 資本の残忍さ。			
		1	An Essay 1707b p.2	Beiheft E	> Kap.1, 3), C, b) Zahlungsmittel (S.97, n.80)
Marx: 債権者と債務者のところでこれを引用すること。					
156	XXIII 1425	[Sobald die Produkte als Waare ausgetauscht werden, sind sie per se Geld. Bei dem Uebergang in die Metamorphose der Waare auszuführen. 諸生産物が商品として交換されるやいなや、それら自体が貨幣となる。商品の変態への移行のところで引用すること。			
		1	[Defoe] 1710a p.8	Beiheft E	> Kap.1, 3), C, b) Zahlungsmittel (S.101, n.86)
157	XXIII 1426	[Ueber die Nichtigkeit der Politik, wo es sich um Tauschwerth handelt. An Essay on Loans, etc Lond, 1710] [交換価値が問題である場合の政策の無力さについて。『貸し付けについての一論』(ロンドン、1710年)]			
		1	[Defoe] 1710b	Beiheft E	
158	XXIII 1426	[Nicholas Barbon: "A Discourse concerning coining the new money lighter, in answer to Mr. Lockes Considerations" etc Lond. 1696. (ニコラス・バボン)「新貨幣をより軽く鋳造することに関する一論。…ロック氏の考察に答えて。』、ロンドン、1696年]			
		1	Barbon 1696	Beiheft E,F	
Marxは誤って、1796年と書いている。					
159	XXIII 1426	Gbrauchswerth die Grundlage des Werths. 使用価値は価値の基礎。			
		1	Barbon 1696 p.2	Beiheft E	
		2	ibid. p.2	ibid.	> Kap.1, 1) Die Waare (S.1, n.2)
		3	ibid. p.3	ibid.	> Kap.1, 1) Die Waare (S.1, n.2)
		4	ibid. p.3	ibid.	
		5	ibid. p.3	ibid.	
		6	ibid. p.3	ibid.	
		7	ibid. p.5	ibid.	
		8	ibid. p.4	ibid.	
Marx: シュトルヒとの書き込み。					
160	XXIII 1426	Gbrauchswerth und Tauschwerth. 使用価値と交換価値。			
		# 1	Barbon 1696 p.6	Beiheft E	> Kap.1, 1) Die Waare (S.2, n.3), (S.4, n.7)
161	XXIII 1426-7	Der Tauschwerth gleichüftig gegen den Gebrauchswerth der Dinge. 交換価値は、諸物の使用価値に対して無関心である。			
		# 1	Barbon 1696 p.7	Beiheft E	> Kap.1, 1) Die Waare (S.4, n.8)
162	XXIII 1426-7	In trade and commerce there is no difference in commodities when their values are equal. 貿易や商業においては、価値の等しい諸商品のあいだに区別はない。			
		# 1	Barbon 1696 p.11	Beiheft E	
163	XXIII 1427	Nothing has a price or value in itself. それ自体において価格または価値をもつ物はない。			
		# 1	Barbon 1696 p.10	Beiheft E	
		Marxは誤ってp.11と指示している。			
2	ibid. p.8	ibid.			
164	XXIII 1427	Rechegeld. 計算貨幣。			
		1	Barbon 1696 pp.17-8	Beiheft E	
		2	ibid. p.27	ibid.	
3	ibid. pp.30-1	ibid.			
165	XXIII 1427	Circulationsmittel. 流通手段。			
		1	Barbon 1696 p.29	Beiheft E	
		# 2	ibid. p.29	ibid.	
166	XXIII 1427	Seine Polemik gegen die Balance of Trade. 貿易差額論に対する彼の反対論。			
		1	Barbon 1696 pp.35-6	Beiheft E	
		2	ibid. p.37	ibid.	
3	ibid. p.38	ibid.			



166	XXIII 1427	4	ibid.	p.39	ibid.		
		5	ibid.	p.40	ibid.		
		1～5)について、Marx: Beiheft Eへの参照指示。					
		6	ibid.	p.42	ibid.		
		7	ibid.	pp.44-5	ibid.		
		8	ibid.	p.45	ibid.		
167	XXIII 1427	[One sort of wares are as good as another, if the value be equal. (53) (価値が等しいのであれば、ある種類の品物は他の種類の品物と変わりがない。(53ページ)]					
		# 1	Barbon 1696	p.53	Beiheft F	> Kap.1, 1) Die Waare (S.4, n.8)	
168	XXIII 1427	Rechnungen. Holland (54) (54, 56) もろもろの計算、オランダ (54ページ) (54, 56ページ)					
		1	Barbon 1696	p.54	Beiheft F		
		2	ibid.	pp.54-5	ibid.		
169	XXIII 1427	Weltgeld, Bullion, Waare(55) 世界貨幣、地金、商品(55ページ)					
		1	Barbon 1696	p.55	Beiheft F		
		2	ibid.	p.57	ibid.		
		3	ibid.	p.55	ibid.		
		4	ibid.	pp.59-60	ibid.	> Kap.1, 3), C, c) Weltgeld (S.104, n.91)	
170	XXIII 1427	[Decus et tutamen etc Lond. 1696 『名譽と保障』、ロンドン、1696年]					
		Decus 1696			Beiheft F		
171	XXIII 1427	Subsidiarmonze, Kupfermonze, 補助貨幣、銅貨。					
		1	Decus 1696	p.6	Beiheft F		
		2	ibid.	p.7	ibid.		
		3	Barbon 1696	p.51	Beiheft E		
172	XXIII 1427	[... (Some Thoughts concerning the Maintenance of the Poor etc London. 1700)] ... (『貧民の扶養に関する若干の考察』、ロンドン、1700年)]					
		1	Some Thoughts 1700	p.10	Beiheft F		
173	XXIII 1427	[Land als Basis des Reichthums, 富の基礎としての土地]					
		1	[Drake] 1702	p.2	Beiheft F		
		2	ibid.	p.16	ibid.		
		3	ibid.	p.9	ibid.		
1～3)について、Marx: Beiheft E, S.4 への参照指示。 Beiheft Fとあるべきところ。							
174	XXIII 1427	"Stock Jobbing a Publick Nuisance." 『株式投機は公共の有害物。』					
		1	[Defoe] 1719	p.1	Beiheft F		
		2	ibid.	p.8	ibid.		
		3	ibid.	p.6	ibid.		
		4	ibid.	p.13	ibid.		
		5	ibid.	pp.13-5	ibid.		
175	XXIII 1428	[Value (価値)]					
		1	Barbon 1696	p.2	Beiheft E		
176	XXIII 1428	[Sir Matthew Decker. One Single Tax. (サー・マシュー・デッカー、ただ一つの物件税。)]					
		1	[Decker] 1743		Beiheft F		
		Marx: Beiheft F S.6への参照指示。					
		# 2	Horsley 1744	p.25	ibid.		
		# 3	ibid.	p.37	ibid.		
		4	ibid.	pp.37-8	ibid.		
		5	ibid.	pp.32-3	ibid.		
6	ibid.	pp.38-9	ibid.				
2～6)について、Marx: Beiheft F S.6への参照指示。							
177	XXIII 1428	[“Some Thoughts on the Interest of Money in General, and Particularly in the Publick Funds etc London 1750” 『貨幣の利子一般および公債利子に関する若干の考察』、ロンドン、1750年。]					
		Some Thoughts (1738)			Beiheft F		
		Marx: これは非常に重要な著作である。					
178	XXIII 1428	Rente (地代)。					
		1	Some Thoughts (1738)	p.3	Beiheft F		
		2	ibid.	p.12	ibid.		
179	XXIII 1428	[“The decrease of the interest of money is one cause, or rather measure, of the increase in the price of the necessaries of life.” 『貨幣利子の低下は、生活必需品の価格が上昇することの、一つの原因、あるいはむしろ一つの尺度である。』]					
		1	Some Thoughts (1738)	pp.6-7	Beiheft F		

180	XXIII 1428	Fall von Profit (Zins) und Steign der Rente hier als この著書では、利潤(利子)の低下と地代の上昇とが			
		1	Some Thoughts (1738)	p.36	Beiheft F
		2	ibid.	pp.57-8	ibid.
1~2について、Marx: Beiheft F S.16, 12, 14, 15への参照指示。					
181	XXIII 1428-9	Fallen der Rente. (Abnung von der Differentialrente) 地代の低下。(差額地代についてのおぼろげな観念。)			
		1	Some Thoughts (1738)	pp.58-9	Beiheft F
		2	ibid.	pp.58-9	ibid.
182	XXIII 1429	Preiss der notwendigen Lebensmittel und Preiss der Arbeit 必要生活手段の価格と労働の価格。			
		1	Some Thoughts (1738)	p.72	Beiheft F
		2	ibid.	p.73	ibid.
183	XXIII 1429	Vertheuerung der Waarenpreise durch die Theuerkeit der Arbeit untersucht. 労働が高価であることによる、商品価格の騰貴が研究されている。			
		1	Some Thoughts (1738)	pp.73-4	Beiheft F
		2	ibid.	pp.73-4	ibid.
Marx: Beiheft F S.18への参照指示。					
184	XXIII 1429	Labour is distant wealth. 労働は迂回的な富。			
		1	[Townsend] (1751)	p.26	Beiheft F
		Bounties on Exportation of Corn etc und gegen Import Duty. (穀物等の輸出に対する奨励金、および輸入関税に対する反対論。			
185	XXIII 1429	[Townsend] (1751)			
		1			Beiheft F
		Marx: Beiheft F. S.19 への参照指示。			
186	XXIII 1430	"Reasons for the late Increase of the Poor Rates; Or a comparative view of the price of labour and provisions" etc. London 1777. (『最近の貧民税の増加の諸理由。また労働と食料品との価格の比較考察』、ロンドン、1777年。			
		Reasons for 1777		Beiheft F	
		1) Change in the relative situation der classes. 1) 諸階級の相対的な状態の変化。			
187	XXIII 1430	1	Reasons for 1777	p.5	Beiheft F
		2	ibid.	[pp.6-7]	ibid.
		3	ibid.	[pp.6-7]	ibid.
		4	ibid.	p.11	ibid.
		1~3について、Marx: Beiheft F S.21への参照指示。			
188	XXIII 1430	Berechnung der Lebensmittel jetzt und 40 Jahre fruher. 現在の生活手段と40年前の生活手段との計算。			
		1	Reasons for 1777	p.19	Beiheft F
		2	ibid.	pp.20-2	ibid.
1~2について、Marx: Beiheft F S.22, 23への参照指示。					
189	XXIII 1430	Ueber den Blodsinn von den Luxuries der poor. 貧民の奢侈に関する愚言について。			
		Reasons for 1777		Beiheft F	
		Marx: Beiheft F S.23への参照指示。			
190	XXIII 1430	Ansichten der Eigenthümer und Capitalisten. 所有者と資本家の意見。			
		Reasons for 1777		p.23	
		Beiheft F			
191	XXIII 1430	Gesetze zur Regulation des Arbeitslohn Elis. James I. エリザベス、ジェームズ1世の、賃金を規制するための法律。			
		Pauperism, farmers, manufacturers 貧民、農業者、製造業者			
		Reasons for 1777		Beiheft F	
192	XXIII 1430	Marx: Beiheft F S.23, 24への参照指示。			
		Werth des Landes. 土地の価格。			
		Reasons for 1777		p.29	
193	XXIII 1430	Beiheft F			
		Wie der poor labourer fruher und jetzt behandelt. 貧しい労働者は、以前にどのような待遇を受け、現在にどのような待遇を受けているか。			
		Reasons for 1777		Beiheft F	
194	XXIII 1430	Marx: Beiheft F S.24, 25への参照指示。			
		Capitalist und Arbeiter. 資本家と労働者。			
		Reasons for 1777		p.31	
195	XXIII 1430	Beiheft F > Kap.6, 1), a) Einfache Reproduktion. (S. 558, n6)			
		Marx: Beiheft F S.25への参照指示。			
		Früherer und jetziger Lohn. 以前の賃金と現在の賃金。			
196	XXIII 1430	Reasons for 1777		Beiheft F	
		Marx: Beiheft F S.25, 26への参照指示。			
		[Storch, Cours d'Economie Politique, T. I. (シュトルヒ『経済学講義』第1巻。			
197	XXIII 1430	Storch 1815 t. I		Beiheft G	
		Erde Mascine. 大地 機械。			
		Storch 1815 t. I		p.168	
198	XXIII 1430	Beiheft G			

199	XXIII 1430	Nachteile der Theilung der Arbeit. 分業の短所。	1	Storch 1815 t. I	p.204	Beiheft G	> Kap.4. 3) Theilung der Arbeit und Manufaktur (S.346 n.5)
200	XXIII 1430	Trennung der Arbeiter in der Agricultur. 農業における労働者の分散。	1	Storch 1815 t. I	p.209	Beiheft G	
201	XXIII 1430	Transport. 輸送。	1	Storch 1815 t. I	p.227	Beiheft G	
202	XXIII 1431	Entrepreneur und Arbeiter. 企業者と労働者。	1	Storch 1815 t. I	p.242	Beiheft G	
203	XXIII 1430	Quellen der Revenu zugleich die Ursachen der Production. 収入の諸源泉は同時に生産の諸原因。	# 1	Storch 1815 t. I	p.259	Beiheft G	Marx: Beiheft F S.8への参照指示。
184	XXIII 1431	Rente als allgemeiner Ausdruck für Mehrwerth. 剰余価値の一般的表現としての地代。	1	Storch 1815 t. I	p.260	Beiheft G	
205	XXIII 1431	Richesses durables des fonds de consommation können als Capital dienen. 消費のための元本のうち、耐久的な富は資本として役立つ。	1	Storch 1815 t. I	p.273	Beiheft G	
206	XXIII 1431	Capital Fixe bleibt in den Händen "du travailleur industriel" et ne "change point de forme", während das circulierende Capital se transforme le plus souvent en nouveaux produits. 固定資本は、「勤働な労働者」の手中にとどまりつづけ、「形態を変えないが、他方、流動資本は、ほとんどの場合、新たな生産物に転形される。	1	Storch 1815 t. I	p.295	Beiheft G	Marxは誤ってp.296と指示している。
			2	ibid.	p.296	ibid.	
207	XXIII 1431	Revenu. 収入。	1	Storch 1815 t. I	p.331	Beiheft G	
208	XXIII 1431	Profits of stock bei Smith. スミスにおける資材の利潤。	# 1	Storch 1815 t. I	p.334 note	Beiheft G	
			# 2	ibid.	p.334 note	ibid.	
209	XXIII 1431	Wages of superintendance. 第2巻、監督賃金。	1	Storch 1815 t. II	p.1	Beiheft G	
210	XXIII 1431	Capital fixe und capital circulant. 固定資本と流動資本。	1	Storch 1815 t. II		Beiheft G	Marx: Beiheft G S.55, 56への参照指示。
211	XXIII 1431	Unterschied in der Circulationszeit. 流通時間の相違。	# 1	Storch 1815 t. II	p.36	Beiheft G	> Kap.2. 3) Kauf und Verkauf der Arbeitskraft (S.138, n.50)
			# 2	ibid.	p.37	ibid.	> Kap.2. 3) Kauf und Verkauf der Arbeitskraft (S.138, n.50)
			3	ibid.	p.140	ibid.	
			4	ibid.	p.140[-1]note	ibid.	> Kap.6. 1), b) Verwandlung von Mehrwerth in Kapital (S.575, n.32)
							Marxは誤ってp.140と指示している。
							1~4)について、Marx: Beiheft G S.56, 57への参照指示。
212	XXIII 1431	Young = Evaluation du produit brut per acre. ヤング = 1エーカー当りの現生産物の見積り。	1	Storch 1815 t. II		Beiheft G	Marx: Beiheft G S.59への参照指示。
213	XXIII 1431	Rente (average) 地代(平均的な)	1	Storch 1815 t. II		Beiheft G	Marx: Beiheft G S.60への参照指示。
214	XXIII 1431	Geld (als Borg und Zahlungsmittel) Ⅲ. 貨幣(措用手段および支払い手段としての)。第3巻。	1	Storch 1815 t. III	p.161	Beiheft G	
215	XXIII 1431	Unter A. Smith Theilung der Arbeit. A.スミスにおける分業。	1	Storch 1815 t. VI	note II	Beiheft G	Marx: Beiheft G S.114への参照指示。
216	XXIII 1433	Warenaustausch und Theilung der Arbeit within the society. 商品交換と社会的分業。	1	Storch 1815 t. I	p.75	Beiheft G	
			2	ibid.	p.82 note	ibid.	
217	XXIII 1433	Preis der Waaren. 諸商品の価格。	# 1	Storch 1815 t. I	p.87	Beiheft G	
			# 2	ibid.	p.87	ibid.	
218	XXIII 1433-4	ケネー経済表に関するマルクスの叙述	1	Quesnay 1846d	p.170	Beiheft C	> Kap.1. 3), B. a) Die Metamorphose der Waaren (S.8, n.51)

218	XXIII 1433-4	2	ibid.	p.148	ibid.	
		3	ibid.	p.197	ibid.	
		4	Quesnay 1846a	p.392	ibid.	
		5	ibid.	p.391	ibid.	
219	XXIII 1435	["An Essay on Trade and Commerce: containing Observations on Taxes, as they are supposed to affect the price of labour in our manufactories" etc. London. 1770. 「貿易と商業に関する一論。わが国の製造業における労働の価格に影響を及ぼすと考えられている諸税に関する考察を含み、云々」、ロンドン、1770年。				
		1	[Cunningham] 1770		Beiheft G	
		2	[Cunningham] 1785			[Cunningham] 1785 = Considerations on taxes, as they are supposed to affect the price of labour in our manufactories. London 1785
220	XXIII 1435	Erstens gehört die ganze Arbeitszeit der Arbeiter dem "commercial state", unter welcher Form hier, das common interest des industrial capital zu verstehn: 第一に、労働者の全労働時間は「商業国家」のものである。ここではこうしたかたちで、産業資本の共通利益が理解されねばならない。				
		# 1	[Cunningham] 1770	p.47	Beiheft G	
221	XXIII 1435	Zwang zur Arbeit: 労働の強制。				
		1	[Cunningham] 1770	p.18	Beiheft G	
		2	ibid.	p.14	ibid.	
222	XXIII 1435-6	Preis der Arbeit und Quantum der Arbeit. (Länge des Arbeitstags.) 労働の価格と労働の分量。(労働日の長さ。)				
		1	[Cunningham] 1770	p.14	Beiheft G	
		2	ibid.	p.26	ibid.	
		3	ibid.	pp.[28-]29	ibid.	
		4	ibid.	p.30	ibid.	
		5	ibid.	pp.30[-31]	ibid.	
		6	ibid.	p.41	ibid.	
		7	ibid.	p.44	ibid.	
		# 8	ibid.	[p.55]	ibid.	
		9	ibid.	[pp.12-3]	ibid.	
223	XXIII 1436-7	Die working class muss das Gefühl der Abhängigkeit von their superiors haben: 労働者階級は、彼らの上位者たちへの依存の念をもたなければならぬ。				
		1	[Cunningham] 1770	p.56	Beiheft G	
		2	ibid.	p.57	ibid.	
		# 3	ibid.	p.48	ibid.	> Kap.5, 4), b) Die beiden Grundformen des Arbeitslohns: Zeitlohn und Stucklohn (S.531 n.33)
		4	ibid.	p.15	ibid.	
224	XXIII 1437	master-manufacturers know, that there are various ways of rising and falling the price of labour, besides that of altering its nominal value. 製造業企業者たちは、労働の名目的価値を変更すること以外にも、労働の価格を騰落させるさまざまな方法があることを知っている。				
		# 1	[Cunningham] 1770	p.61	Beiheft G	Kap.5, 4) b) Die beiden Grundformen des Arbeitslohns: Zeitlohn und Stucklohn (S.531 n.33)
		# 2	ibid.	p.69	ibid.	
		# 3	ibid.	pp.[69-]70	ibid.	
		# 4	ibid.	p.73	ibid.	Kap.3, 4) Der Arbeitstag (S.199 n.35)
225	XXIII 1437-8	Wenn workhouse wirken sollen, so müssen sie houses of terror werden: 労役場が機能しなければならないとすれば、それは恐怖の家にならなければならない。				
		1	[Cunningham] 1770	pp.242[-3]	Beiheft G	
		2	ibid.	p.260	ibid.	> Kap.3, 4) Der Arbeitstag (S.251 n.127, 128)
		# 3	ibid.	p.153	ibid.	> Kap.3, 4) Der Arbeitstag (S.200 n.38)
		4	ibid.	p.54	ibid.	> Kap.6, 1), c) Das allgemeine Gesetz der kapitalistischen Accumulation (S.602 n.73)
226	XXIII 1438	Gegen ihn die Stelle von Postlethwyd (bei dem normalen Arbeitstag anzuführen) sieh p.50-52 Beiheft G) 労役に反対しているポスルスウェイトの文章。(標準労働日のところで引用すること即党美の) 役場が機能しなければならないとすれば、それは恐怖の家にならなければならない。				
		1	[Cunningham] 1770		Beiheft G	
		Marx: 標準労働日のところで引用すること。 Marx: Beiheft G S.50-2への参照指示。				
227	XXIII 1438	Ursprüngliche Accumulation. 本源的蓄積。				
		1	[Cunningham] 1770		Beiheft G	Marx: この男のものは、労働の強制のところで、また、資本の蓄積が要求する状況、つまり労働者階級を、価値増殖および可能な限り急速で大規模な資本の増大のためのたんなる手段に転化する状況が、国家権力等々の助けをかりて招来せられるところで、引用するのに非常にふさわしい。

228	XXIII 1438	Erst die gewaltsame Gesetzgebung seit Statut von Edward III., die den Arbeitstag festsetzt (zugleich die Löhne niederzuhalten sucht). まず最初に、エドワード3世の法律以降の、労働日を固定する(それと同時に賃金を抑制しようとする)強制的な立法。			
		1	[Cunningham] 1770	[pp.5-6]	Beiheft G
229	XXIII 1438-8a	Vertheuerung der Provisions 食料品の騰貴は			
		1	[Cunningham] 1770	[pp.14-5]	Beiheft G
		2	ibid.	pp.[15-]16	ibid.
		3	ibid.	p.18	ibid.
		4	ibid.	p.19	ibid.
230	XXIII 1438a-8b	Vermehrung der Bevölkerung durch Heranziehen von fremden Arbeitern, so vermehrung der Concurrenz unter den Arbeitern: 外国の労働者を呼び寄せることによって人口を増大させること、またそれにより労働者間の競争を増大させること。			
		1	[Cunningham] 1770	p.20	Beiheft G
		≠ 2	ibid.	pp.27-8	ibid.
		3	ibid.	p.28	ibid.
		4	ibid.	pp.[28-]29	ibid.
231	XXIII 1438b	Ausser dem natürlichen rise im price of necessaries and a general naturalisation, Mittel die Taxes upon Necessaries. 必需品の価格の自然的な騰貴や一般的な増化のほか、必需品に対する課税が手段となる。			
		1	[Cunningham] 1770	p.45	Beiheft G
		2	ibid.	p.46	ibid.
		3	ibid.	p.47	ibid.
		4	ibid.	p.49	ibid.
		5	ibid.	p.67	ibid.
		6	ibid.	pp.[69-]70	ibid.
		7	ibid.	pp.[70-]71	ibid.
		8	ibid.	p.83	ibid.
		9	ibid.	p.18	ibid.
		10	ibid.	[p.290]	ibid.
		11	ibid.	[p.291]	ibid.
		12	ibid.	[p.293]	ibid.
		13	ibid.	[p.294]	ibid.
232	XXIII 1438b	Die Staatsschuld daher gut, weil sie die Erhöhung der Steuern bewirkt und ...だから国債がよい。というのは、国債は租税の引き上げを生じさせ			
		1	[Cunningham] 1770	pp.164-5	Beiheft G
		2	ibid.	p.170	ibid.
233	XXIII 1440	Depreciation of money auch ein gutes Mittel. 貨幣の減価もまた、一つの格好の手段である。			
		1	[Cunningham] 1770	p.211	Beiheft G
		2	ibid.	p.213	ibid.
		3	ibid.	p.213	ibid.
		4	ibid.	p.180	ibid.
		5	ibid.	p.161	ibid.
		6	ibid.	p.95	ibid.
234	XXIII 1440	Staatsmaßregeln, Zwangsgesetze zur Erzwingung der Arbeitsmesse. 労働量の強制のための国家的な装置、強圧的的法律。			
		1	[Cunningham] 1770	Beiheft G	
			Marx: Beiheft G S.32, S.40, S.40, S.40, S.45, S.45, S.46, S.46への参照指示。		
235	XXIII 1440	Aber meint er, in England gehts nicht mit diesen offenerhitzigen Zwangsgesetzen. しかし彼は、イギリスではこうしたあからさまな強圧的立法ではうまくいかないと考えている。			
		1	[Cunningham] 1770	p.92	Beiheft G
		2	ibid.	p.93	ibid.
236	XXIII 1441	Stückarbeit. Cantillon "Essai sur la Nature de commerce en General." (Amsterdamer Ausgabe, 1756, bildet den VIII in den Discours Politiques, Amsterdam (1754-1757) 出来高賃金労働。カンティヨン『商業一般の性質に関する小論』。(アムステルダム版、1756年。『政治論集』、アムステルダム、1754-1757年、の第3巻をなしている。)			
		✓1	[Cantillon] 1756	p.185	Beiheft G
		✓2	ibid.	p.202	ibid.
			Kap.5, 4), b) Die beiden Grundformen des Arbeitslohns: Zeitlohn und Stücklohn (S.544 n.54)		
			Kap.5, 4), b) Die beiden Grundformen des Arbeitslohns: Zeitlohn und Stücklohn (S.544 n.54)		
237	XXIII 1441	Protestantismus war auch ein Mittel die Surplusarbeit zu vermehren. プロテスタンティズムは、剰余労働を増大させるためのひとつの手段でもあった。			
		1	[Cantillon] 1756	p.231	Beiheft G
238	XXIII 1441	[Ch. Ganilh, Théorie de l'Econ. Politique etc. Paris, 1815, 2 vols. [Ch. ガニール『経済学の理論』パリ、1815年、全2巻。			
		1	Ganilh 1815		Beiheft G

239	XXIII 1441	Productive Arbeit. 生産的労働。			
		1	Ganilh 1815 tI	p.266	Beiheft G
240	XXIII 1441	Fortschritt der Industrie und Masse der angewandten Arbeit. 産業の進歩と充用される労働者階級。			
		1	Ganilh 1815 tI	p.308	Beiheft G
		≠ 2	ibid.	p.307	ibid.
241	XXIII 1441	Rente. 地代。			
		1	Ganilh 1815 tII	p.77	Beiheft G
		2	ibid.	p.80	ibid.
		3	Ganilh 1815 tI	p.54	ibid.
242	XXIII 1441	Werth. 価値。			
		1	Ganilh 1815 tII	p.335	Beiheft G
		2	ibid.	pp.334-7	ibid.
Marx: Beiheft G S.126への参照指示。					
243	XXIII 1441	[Forbonnais, Principes Economiques. (Edit. Daire et Molinari in: Mélanges d'Eco. Polit. Paris 1847) [フォルボネ「経済学原理」、デールおよびモリナリ編「経済学論集」、パリ、1847年、に所収]			
		1	Forbonnais 1847		Beiheft G
244	XXIII 1441	Revenu. 収入。			
		1	Forbonnais 1847	p.174	Beiheft G
245	XXIII 1441	Capital Fixe. 固定資本。			
		1	Forbonnais 1847	p.179	Beiheft G
246	XXIII 1441	«le Niveau du profit...est la clause sine que non.» 「利潤の水準は…必須条件である。」			
		1	Forbonnais 1847	p.185	Beiheft G
		2	ibid.	pp.184-5	ibid.
247	XXIII 1442	Verwandlung von Land in Fischteiche. 土地の養魚場への転換。			
		1	Forbonnais 1847	p.187 note	Beiheft G
248	XXIII 1442	Bas Prix (gegen die Economistes)129. Beiheft G. ditto über die diminution des hommes in der culture und die emigration dieser "hommes superflus" in andre Professions. S.130, 131. 低価格(エコノミストたちへの反対論)。(サブノートG、129ページ。同じく耕作に従事する人間の減少とこの「過剰人口」の他の職業への移動について。130、131ページ。)			
		1	Forbonnais 1847		Beiheft G
Marx: Beiheft G S.129, 130, 131への参照指示。					
249	XXIII 1442	Die Vertheuerung relativ nutzloser Dinge schlimmer. 相対的に不用品が騰貴するのは、			
		1	Forbonnais 1847	p.187 note	Beiheft G
		2	ibid.	p.206	ibid.
250	XXIII 1442	[Abregé Elementaire des principes de l'Economie Politique, Paris, 1796(Germain Garnier) [「経済学原理概要」、パリ、1796年。(ジェルマン・ガールニエ。)]			
		1	[Garnier] 1796	pp.61-2	Beiheft G
251	XXIII 1442	Rente der Landlords in Unterschied von wages und Profit: 賃金や利潤と区別される地主の地代。			
		1	[Garnier] 1796	p.28	Beiheft G
252	XXIII 1442	A. Smith. A.スミス。			
		1	[Garnier] 1796	p.vi	Beiheft G
253	XXIII 1442	Capital=Avances. 資本=前貸。			
		1	[Garnier] 1796	p.34	Beiheft G
		2	ibid.	p.35	ibid.
254	XXIII 1443	Die Consumtions theorie des Burschen und seine Polemik gegen die Smithsche Unterscheidung zwischen produktiver und unproductiver Arbeit. この人物の消費理論と、彼のスミスによる生産的労働と不生産的労働との区別に対する論駁。			
		1	[Garnier] 1796	p.193	Beiheft G
		2	ibid.	p.194	ibid.
		1~2について、Marx: Beiheft G S.134x, 136x, 138, 139への参照指示。			
255	XXIII 1443	Waars=den richesses in Circle der Circulation. 商品=流通の円環のなかにある富。			
		1	[Garnier] 1796	pp.54-5	Beiheft G
256	XXIII 1443	Physiokratische Theorie. 重農学派の理論。			
		1	[Garnier] 1796		Beiheft G
Marx: Beiheft G S.135への参照指示。					
257	XXIII 1443	[Condillac: "Le Commerce et le Gouvernement" 1776 Edit. Dairs et Molinari. Mélanges etc Paris, 1847. [コンディヤック「商業と政府」、1776年。デールおよびモリナリ編「論集」、パリ、1847年。]			
		1	Condillac 1847	p.253	Beiheft G
		2	ibid.	p.255	ibid.
258	XXIII 1443	Werth nichts Absolutes, Inhärentes. 価値は絶対的なものではない。固有のものでもない。			
		1	Condillac 1847	p.255	Beiheft G

259	XXIII 1443-4	Mehrwerth, Austausch von gleichen Werthen. 剰余価値, 同等な諸価値の交換。				
		# 1	Condillac 1847	pp.266-7	Beiheft G	
		# 2	ibid.	p.277	ibid.	
		# 3	ibid.	p.267	ibid.	> Kap.2, 2) Widersprüche der allgemeinen Formel (S.121, n.21)
		# 4	ibid.	p.267	ibid.	> Kap.2, 2) Widersprüche der allgemeinen Formel (S.121, n.21)
		# 5	ibid.	p.267	ibid.	> Kap.2, 2) Widersprüche der allgemeinen Formel (S.121, n.21)
		# 6	ibid.	p.288	ibid.	
		# 7	ibid.	p.291	ibid.	
260	XXIII 1444	Bewegungen des Gelds in der capitalistischen Production. 資本主義的生産における貨幣の運動。				
261	XXIII 1444	1 Condillac 1847 p.295 Beiheft G				
		[Considerations concerning taking off the Bounty on Corn exported. In some letters to a friend. To which is added a Postscript, shewing, "That the Price of Corn is no rule to judge of the Value of Land, which will be increased in proportion to the Cheapsness of its several Products." London, 1753. 『穀物輸出奨励金の廃止に関する考察。一友人あての複数の手紙。『穀物価格は土地の価値を判断するためのなんらの標準でもないこと、土地の価値は土地のいろいろな生産物が低廉になるのに比例して騰貴するであろうこと』を示す追伸を付す。』ロンドン、1753年。				
		# 1	Considerations [1753]	p.4	Beiheft H	
# 2	ibid.	p.3	ibid.	> Kap.4, 1) Begriff des relativen Mehrwerth (S.300 n.5)		
262	XXIII 1444-5	Senkung des Arbeitslohn. Arbeitszeitmasse in der ersten Hälfte des 18.Jh. in England. Beseitigung der Restraints, Zunftgesetze, Apprenticeship, Monopole etc. Freie Bewegung des Capitals Mittel den Arbeitslohn zu senken im Verhältniss zum Reiss der Provisions. 労賃の引下げ。18世紀前半のイギリスにおける労働時間の長さ。産業規制。ギルド諸法、徒弟制、独占、等々の廃棄。資本の自由な運動は、食糧品価格に比例して労賃を低下させる手段となる。				
		1	Considerations [1753]	p.3	Beiheft H	
		2	ibid.	p.4	ibid.	> Kap.4, 1) Begriff des relativen Mehrwerth (S.300 n.5)
263	XXIII 1445	Hauptgesetz der capitalistischen Production in Gegensatz zur Zunftindustrie. ギルド制産業とは対照的に、資本主義的生産の主要法則は				
264	XXIII 1445	1 Considerations [1753] Beiheft H				
		Rente und Preis of Provisions: 地代と食糧品価格。				
265	XXIII 1445	1 Considerations [1753] p.3 Beiheft H > Kap.4, 1) Begriff des relativen Mehrwerth (S.300 n.5)				
		2 ibid. p.7 ibid.				
		(欄外書込) Rente 地代				
266	XXIII 1445	1 Considerations [1753] Beiheft H				
		Marx: Beiheft H S.3, 4への参照指示。				
		2 [Cunningham] 1770 Beiheft G				
		3 Three Letters 1768 p.267 Beiheft H				
Marx: Beiheft H S.4への参照指示。						
267	XXIII 1445	Letters to men of reason, and the friends of the poor, on the hardships of the excise laws relating to malt and beer etc. London 1774. 『理性ある人、貧民の友への手紙。モルトとビールに関する消費税法の辛苦について…』、ロンドン、1774年。				
		1 Letters 1774 Beiheft H				
Marx: Beiheft H S.5-9への参照指示。						
268	XXIII 1446	Considerations on the Present State of the Poor. London. 1775(1st edit. 1773) 『貧民の現状についての考察』、ロンドン、1775年(初版は1773年)。				
		1 Considerations 1775 p.v Beiheft H				
Marx: Beiheft H S.10への参照指示。						
269	XXIII 1446	Bearde de l'Abbaye etc Amsterdam, 1770. ベアルデ・ド・ラベイ等、アムステルダム、1770年。				
		1 Beard de l'Abbaye 1770 Beiheft H				
Marx: Beiheft H S.10, 11への参照指示。						
270	XXIII 1446	Gegen das Rentgesetz und Populationsgesetz. M. Fletcher, 1827. 地代法則および人口法則への反対論。M.フレッチャー、1827年。				
		1 Fletcher 1827 Beiheft H				
Marx: Beiheft H S.12への参照指示。						
271	XXIII 1446	An Essay on Polit. Econ. 1828. 『経済学に関する一論』、1828年。				
		1 [Fletcher] 1828 Beiheft H				
Marx: Beiheft H S.12, 13への参照指示。						
272	XXIII 1446	Rent. Observations etc 1828. 『諸考察…』、1828年。				
		1 Redesdale 1828 Beiheft H				
273	XXIII 1446	Essay on Polit. Economy etc London. 1830. 『経済学論集…』、ロンドン、1830年。				
		# 1 [Robertson] 1830 Beiheft H				
Marx: Beiheft H S.13, 14への参照指示。						
274	XXIII 1446	England and America etc 2 Vols. Lond. 1833.(Wakefield) 『イギリスとアメリカ…』全2巻、ロンドン、1833年。(ウェイクフィールド)				
		1 Wakefield 1833 Beiheft H				

275	XXIII 1446	B.D) Combination of Labour: 第1巻。労働の結合。			
		1	Wakefield 1833 v.1	p.16	Beiheft H
		2	ibid.	p.19	ibid.
		3	ibid.	p.20	ibid.
		4	ibid.	p.27	ibid.
1~4について、Marx: Beiheft H S15, 16への参照指示。					
276	XXIII 1446	Concentration des Capitals (oder grosser Haufen von Capital) in few hands ist. 少数の者たちへの資本の集積(あるいは資本の膨大な堆積)は			
		#1	Wakefield 1833 v.1	pp.17-8	Beiheft H > Kap.6, 3) Die moderne Kolonisationstheorie (S.748, n.258,259)
		#2	ibid.	pp.42-4	ibid. > Kap.6, 3) Die moderne Kolonisationstheorie (S.748-9, n.260)
		1~2について、Marx: Beiheft H S.15-16, S.16への参照指示。			
277	XXIII 1446	Vermehrung der Capitalisten mit der Accumulation des Capitals, aber nicht in gleichem Verhältniss. 資本の蓄積とともに資本家は増加する、しかし同じ割合ではない。			
		#1	Wakefield 1833 v.1	p.87	Beiheft H
278	XXIII 1447	Theilung zwischen Arbeiter und Capitalist: Proportionate wages. 労働者と資本家とのあいだでの分配。比例的賃金。			
		#1	Wakefield 1833 v.1	p.123	Beiheft H
279	XXIII 1447	Accumulationsproceß. Labour creates capital before capital employs labour. 資蓄過程。労働は、資本が労働を雇用する前に、資本を創出する。			
		#1	Wakefield 1833 v.2	p.110	Beiheft H > Kap.6, 1), b) Verwandlung von Mehrwerth in Kapital (S.570, n.22)
280	XXIII 1447-8	Accumulation of Capital nicht identisch mit Wachsen des variablen Capitals: 資本の蓄積は、可変資本の増大と同じことではない。			
		#1	Wakefield 1833 v.2	p.103 note	Beiheft H
		#2	ibid.	p.99	ibid.
		#3	ibid.	p.99	ibid.
		#4	ibid.	p.97	ibid.
281	XXIII 1448	Rasche Aufeinanderfolge der Arbeitergenerationen. 労働者世代の急速な交代。			
		1	Wakefield 1833 v.1	p.55	Beiheft H > Kap.3, 4) Der Arbeitstag (S.242, n.111)
282	XXIII 1448	Farming out of Poor: 貧民の救済請負。			
		1	Considerations 1775		Beiheft H
		2	Blakey 1855		Dickes Heft
		Marx: Dickes Heft S.10への参照指示。			
3	Wakefield 1833		Beiheft H		
Marx: Beiheft H S.17への参照指示。					
283	XXIII 1448	Grosser Profit während des Antjakobinerkriegs. 反ジャコバン戦争期における高利潤。			
		1	Wakefield 1833 v.1	p.91	Beiheft H
		2	ibid.	p.47	ibid. > Kap.6, 3) Die moderne Kolonisationstheorie (S.753, n.271)
284	XXIII 1448	Ueber die schlechte Zahlung der Arbeiter, die in knowledge handeln. 知識を売り物にしている労働者への支払いの悪さについて。			
		1	Wakefield 1833		Beiheft H
Marx: Beiheft H S.17への参照指示。					
285	XXIII 1448	Allgemeines auftrage und die Working Classes und die Reformbill von 1830. 普通選挙権と労働者階級および1830年の選挙法改法案。			
		1	Wakefield 1833		Beiheft H
Marx: Beiheft H S.19への参照指示。					
286	XXIII 1448	(Arbeitslohn. James Mill (citiert von Wakefield). (労賃。ジェイムズ・ミル(ウェイクフィールドによって引用されている))			
		#1	Wakefield 1833		Beiheft H
287	XXIII 1448	Rent: Situation fast allein entscheidend in Colonien. 地代。植民地においては、ほとんどもつぱら位置だけが決定的である。			
		1	Wakefield 1833 v.1	pp.217-8	Beiheft H
		2	ibid.	p.218	ibid.
		3	ibid.	p.224	ibid.
1~3について、Marx: Beiheft H S.20, S.20, S.20, 21への参照指示。					
288	XXIII 1448	Minimum des Arbeitslohns. 賃金の最低限。			
		1	Wakefield 1833 v.1	p.246	Beiheft H > Kap.6, 3) Die moderne Kolonisations theorie (S.753, n.271)
		2	ibid.	p.246	ibid. > Kap.6, 3) Die moderne Kolonisations theorie (S.753, n.271)
289	XXIII 1448	Einfache Arbeit (Citiert von Wakefield). 単純労働。(ウェイクフィールドによって引用されている。)			
		1	Wakefield 1833 v.2	p.77	Beiheft H
		2	ibid. v.1	pp.21-2	ibid. > Kap.6, 3) Die moderne Kolonisations theorie (S.753, n.271)
		2について、Marx: Beiheft H S.29への参照指示。 ※MEGA <sup>2</sup> II-3-6, S.2357での表記は、(21, 22 S.25 Beiheft F)となっている。マルクスの草稿ではS.29となっているところを、編集者はS.25の誤りと判断して、S.25と訂正している。しかし、Beiheft HのS.29には、Wakefield 1833 v.1, pp.21-2からの抜粋があり、内容も「アメリカ合衆国における。農業と家内工業等々の結合」というマルクスの要約に一致する。したがって、S.29を訂正する必要はないと考える。むしろ、Beiheft FはBeiheft Hとあるべきところであろう。			



290	XXIII 1449	"The Essential Principles of the Wealth of Nations, illustrated, in opposition to some fales doctrines of Dr. Adam Smith and others." London, 1797. 『諸国民の富の主要原理を説明す。アダム・スミス博士その他の若干の謬説を論駁す』、ロンドン、1797年。			
		1	[Gray] 1797	p.4	Beiheft H
		2	ibid.	pp.6-7	ibid.
		3	ibid.	p.6	ibid.
		4	ibid.	p.10	ibid.
1~4について、Marx: Beiheft H S.32, 33への参照指示。					
291	XXIII 1449-50	Production von Mehrwerth sehr zu unterscheiden von transfer desselben. 剰余価値の生産は、その移転からはっきりと区別されるべきである。			
		1	[Gray] 1797	p.18	Beiheft H
292	XXIII 1450	Mehrwerth und commercial capital. 剰余価値と商業資本。			
		¶ 1	[Gray] 1797	p.22	Beiheft H
		¶ 2	ibid.	p.23	ibid.
		¶ 3	ibid.	p.23	ibid.
293	XXIII 1450	Beiden Physiokraten der Profit der Industrie erklärt als Profit upon alienation. (also mercantilistisch) Dieser Engländer zieht daher den richtigen Schluss, dass dieser Profit bios ein Gewinn, wenn die Industrie Waaren ins Ausland verkauft. Aus der mercantilistischen Prämisse zieht er den richtigen mercantilistischen Schluss. 重農主義者の場合、工業の利潤は譲渡に基づく利潤として説明されている。(したがって重農主義的である。)そこからこのイギリス人は正しい結論を導き出す。すなわち、この利潤は工業製品が外国に売られた場合に得られるたんなる利得にすぎない。重農主義的な諸前提から、彼は正しい重農主義的結論を引き出しているわけである。			
		1	[Gray] 1797	p.26	Beiheft H
		2	ibid.	p.27	ibid.
294	XXIII 1450	Sehr gute Darstellung der Gründe des holländischen Reichthums. オランダの富の原因についてのきわめてすぐれた叙述。			
		1	[Gray] 1797	pp.30-1	Beiheft H
Marx: Beiheft H S.36, 37, S.35, S.38, S.50, 51への参照指示。					
295	XXIII 1450-1	Der Fehler der Economists besteht darin, dass sie "deemed receivers of land rents, as mere receivers of rent, a productive class in society. エconomistたちの誤りは、彼らが「地代の受取人を、地代のたんなる受取人として社会の生産的階級であるとみなした」点にある。			
		1	[Gray] 1797	p.8	Beiheft H
		Marxは誤ってp.18と指示している。			
2	ibid.	p.51	ibid.		
1~2について、Marx: Beiheft H S.38, 39, S.40, S.40, S.42, S.43への参照指示。					
296	XXIII 1451	Die Physiokratische Borntheit bricht in folgenden hervor: (Mangel an Verständniß der Theilung der Arbeit) 重農主義的偏狭さが次に突然現れ出てくる。(分業の理解の欠如。)			
		1	[Gray] 1797		Beiheft H
Marx: Beiheft H S.[38-]39への参照指示。					
297	XXIII 1451	Gegen A. Young's High Price als wichtig für die prosperity of agriculture, ... aber diess zugleich Polemik gegen die Physiokratie. 高価格が農業の繁栄のために重要であるとするA.ヤングへの反対論。しかし、これは同時に重農主義に対する論難でもある。			
		1	[Gray] 1797		Beiheft H
Marx: Beiheft H S.41, 42, 43への参照指示。					
298	XXIII 1451	Aus nominalen Erhöhen des Preisses auf Seiten des Verkaufes kann der Mehrwerth nicht abgeleitet werden. 販売の側での価格の名目的な引き上げからは、剰余価値を導き出すことはできない。			
		¶ 1	[Gray] 1797	p.66	Beiheft H
➤ Kap.2, 2) Widerspruche der allgemeinen Formel (S.123, n24)					
299	XXIII 1451	Vanderlintsch: ヴァンダリント的。			
		1	[Gray] 1797	p.47	Beiheft H
Marx: Beiheft H S.43への参照指示。 アイルランドの小作権 Irish right of Tenantry の書き込み。					
300	XXIII 1451	Citirt folgende Merkantilistische Anschauung von Mun oder Lee: 次のような重農主義的見解を、マンがあるいはリーから引用している。			
1	[Gray] 1797	p.114	Beiheft H		
301	XXIII 1451	Citirt in Anhang das oben von Anderson Angeführte for long leases etc. Ueber die Yeomanry. 付録には、長期借地契約等々に賛成して先にアンダソンによって述べられたことが引用されている。ヨーマンリについて。			
		1	[Gray] 1797		Beiheft H
302	XXIII 1452	Principles of Trade etc. 1774. 『貿易の原理...』1774年			
		¶ 1	[Whatley] 1774		Beiheft H
Marx: Beiheft H S.44, 45への参照指示。					
303	XXIII 1452	Principles of Trade etc. 1774. 『貿易の原理...』1774年			
		1	[Whatley] 1774		Beiheft H
Marx: Beiheft H S.44, 45への参照指示。					
304	XXIII 1452	Overworking und Aussterben of Young women. 若い婦人の過度労働と大量死。			
		¶ 1	Times July 2. 1863		
Marx: Beiheft H S.168への参照指示。 Marxは誤ってS.186と指示している。					
305	XXIII 1452	R. Torrens: An Essay on the External Corn Trade etc London. 1815. R.トランス『穀物貿易論...』、ロンドン、1815年。			
		1	Torrens 1815		Beiheft G

306	XXIII 1452	Gegen Malthus: マルサスへの反対論。			
		1	Torrens 1815	Beiheft G	Marx: Beiheft G S.19への参照指示。
307	XXIII 1452	Ausdehnung des Felds der Comproduction: 穀物生産の耕地の拡張。			
		1	Torrens 1815	p.2	Beiheft G
		2	ibid.	p.24	ibid.
308	XXIII 1452	Werth des Arbeitsvermögens: 労働能力の価値。			
		Marx: Beiheft G S.10への参照指示。			
		2	Cunningham 1770		Beiheft G
		3	Cunningham 1765		
		4	[Temple] 1693		Beiheft E
		5	[Wateley] 1774		Beiheft H
		6	Young 1769		
		6	Young 1769 = A six weeks tour, through the southern counties of England and Wales ... In several letters to a friend, by the author of the Farmer's Letters. 2. ed. London 1769. Nach: [John Cunningham] An essay on trade and commerce ... London 1770		
		7	Young 1770 = The expediency of a free exportation of corn at this time: with some observations on the bourry, and its effects. London 1770. Nach: [John Cunningham] An essay on trade and commerce ... London 1770.		
		8	Young 1774		Dickes Heft
9	[Arbutnot] 1773		Beiheft B		
309	XXIII 1452	Dagegen: Vanderlint: これに反対するのは、ヴァンダリント。			
		1	Considerations [1753]		Beiheft H
		2	Letters 1774		ibid.
		3	[Gray] 1797		ibid.
		4	Postlethwayt 1759 = Great-Britain's commercial interest explained and improved ... 2. ed. London 1759. Nach: [John Cunningham] Considerations on taxes, as they are supposed to affect the price of labour in our manufactures. London 1765.		
310	XXIII 1453	Herr Torrens ドラズン氏は			
		1	Torrens 1815	pp.78-9	Beiheft G
		Marx: Beiheft G S.12, 13への参照指示。			
311	XXIII 1453	Ausnahmen von dem Prinzip. この原則からの例外			
		1	Torrens 1815	p.227	Beiheft G
		Marx: Beiheft G S.14, S.14, 15, S.15への参照指示。			
312	XXIII 1453	Torrens ドラズンは			
		1	Torrens 1815	[pp.227-9]	Beiheft G
		Marx: これらはすべて労働の価格を扱うさいに引用すべきである、との書き込み。			
		Marx: Beiheft G S.33, 34への参照指示。			
		2	ibid.	p.229	ibid.
3	ibid.	p.230	ibid.		
4	ibid.	p.239	ibid.		
Marx: Beiheft G S.34-36, S.37, S.39への参照指示。					
313	XXIII 1454	(欄外書込) Price of Labour und Mehrwerth: 労働の価格と剰余価値			
		1	Torrens 1815	pp.235-6	Beiheft G
314	XXIII 1454	(欄外書込) Depreciation of Labour: 労働の価値低下			
		1	Torrens 1815	p.76	Beiheft G
		2	ibid.	p.76	ibid.
		3	ibid.	pp.179-80	ibid.
Marx: Beiheft G S.18, 19への参照指示。					
315	XXIII 1454	G.Newham (barrister of law) G.ニューナム。(法廷弁護士。)			
		1	Newham 1815	p.76	Beiheft E
		Marx: Beiheft E S.118への参照指示。			
316	XXIII 1454-5	(欄外書込) Wages: 賃金			
		1	Newham 1815	[p.6]	Beiheft E
		2	ibid.	p.20 note	ibid.
Marx: Beiheft E S.118, S.118後段, S.119のはじめ, S.119, S.119, 120への参照指示。Marxは120を誤って220と指示している。					
317	XXIII 1455	Schlechtes Land, das damals bebaut wurde. Rent. 当時耕作された劣等地。地代。			
		1	Newham 1815		Beiheft E
		Marx: Beiheft E S.120, 121, S.121への参照指示。Marxは後者の121を誤って131と指示している。			

318	XXIII 1455	Ueber die Proportion des schlechten Landes geht. 劣等地の割合については				
		1	Newnam 1815		Beiheft E Marx: Beiheft E S.121-123, S.123, 124への参照指示。	
319	XXIII 1455	Durch das Rent's rise die landlords. 地主たちは、地代の上昇のおかげで				
		1	Newnam 1815		Beiheft E Marx: Beiheft E S.126への参照指示。	
320	XXIII 1455	Charles H. Parry, M.D. The Question of the Necessity of the Existing Corn Laws considered etc. Lond. 1816. Gegen die Ric. Malthussche Auffassung der Differentialrente. チャールズ・H・パリー、医学博士「現行穀物法の必要性の問題。…考察す」ロンドン、1816年。リカードウ＝マルサスの差額地代把握への反対論。				
		1	Parry 1816	p.11	Beiheft E Marx: Beiheft E S.17への参照指示。	
321	XXIII 1455	In welchen Fallen rent "impedes" cultivation. どのような場合に地代は耕作を「妨げる」のか。				
		1	Parry 1816		Beiheft E Marx: Beiheft E S.18への参照指示。	
322	XXIII 1455	Das Evidence vor den Houses o.G. und Lords. 下院および上院での証言。				
		1	Parry 1816	p.51	Beiheft E	
		2	ibid.	pp.69-70	ibid.	
1~2について Marx: Beiheft E S.19への参照指示。						
323	XXIII 1455	Standard of Life. 生活水準。				
		1	Parry 1816	p.69	Beiheft E	
324	XXIII 1455	Arbeitslohn. 労賃。				
		1	Parry 1816		Beiheft E Marx: Beiheft E S.20, 21, S.21, S.22, S.22, S.23, 24への参照指示。	
325	XXIII 1456	Rent und farmers' Profit. 地代と農業者利潤。				
		1	Parry 1816	p.158	Beiheft E	
326	XXIII 1456	Pferde in Gr. Brit. Und Ireland 1800 kosten 16200000 l. 大ブリテンとアイルランドでは、180万頭の馬に1620万ポンドかかる。				
		1	Parry 1816	p.176	Beiheft E Marx: Beiheft E S.25への参照指示。	
327	XXIII 1456	John Locke, Works, edit. 1777. London. Vol. II Some Considerations on the consequences of the Lowering of interest etc (1691) ジョン・ロック著作集『1777年版、ロンドン。 第2巻、『利子の引下げ…の諸結果に関する若干の考察』(1691年)。				
		1	Locke 1777	p.48	Beiheft E	
		2	ibid.	p.28	ibid.	> Kap.1, 1) Die Waare (S.2, n.4)
		3	ibid.	p.28	ibid.	
		4	ibid.	p.30	ibid.	
328	XXIII 1456	Pietro Verri, Meditazioni sulla Economia Politica etc (Zuerst gedruckt 1771) (x. Custodi. Parte Moderna) ピエトロ・ヴェルリ「経済学に関する考察…」(最初印刷されたのは1771年)。(クストー・ディ、近世篇、第15巻。)				
		1	Verri 1804a		Dickes Heft	
329	XXIII 1456	"Il danaro e la merce univale". 「貨幣は普遍的商品である。」				
		1	Verri 1804a	p.16	Dickes Heft > Kap.1, 2) Der Austauschprozess der Waaren (S.51) Marx: Dickes Heft S.95への参照指示。	
330	XXIII 1456	Monetarisch und Mercantilisch. 重金主義的かつ重商主義的。				
		1	Verri 1804a	pp.52-3	Dickes Heft > Kap.1, 3), C, a) Schatzbildung (S.95)	
		2	ibid.	p.190	ibid.	
1~2について Marx: Dickes Heft S.96への参照指示。						
331	XXIII 1456	Ferdinando Paoletti. フェルディナンド・パオレッティ。				
		1	Paoletti 1804		Dickes Heft Marx: Dickes Heft S.98への参照指示。	
332	XXIII 1456	Antonio Genovesi. Lezioni di Economia Civile. (1765) T.VIII. アントニオ・ジェノヴェーシ「市民経済学講義」(1765年)、第8巻。				
		1	Genovesi 1803	pp.10-1	Dickes Heft	
2) ibid. p.139 ibid. > Kap.2, 1) Die allgemeine Formel des Kapitals (S.114)						
333	XXIII 1457	[Baudeau (Nicolas): Premier Introduction a la Philosophie economique etc (1771) Physiocrates, ed. Daire. [ボド(ニコラ)「経済学への第1序説…」(1771年)「重農学派」デール編。]				
		1	Baudeau 1846b	p.661	Beiheft D	
2) ibid. p.665 ibid.						
334	XXIII 1457	Accumulationsproceß. 蓄積過程。				
		1	Wayland 1843	p.298	Dickes Heft Marx: ホジスキンを見よ、との書き込み。	

	XXIII 1457-8	Accumulationsproceß und Nachfrage nach Arbeit. 蓄積過程と労働に対する需要。			
		Marxの叙述。			
		Le Trosne: De l'intérêt Social etc Physiocrates. Edit. Daire. Paris. 1846 ル・トロース『…社会的利益について』、『重農学派』デール編。パリ、1846年。			
335	XXIII 1458-9	# 1	Le Trosne 1846	p.885	Beiheft D > Kap.1, 3), B, b) Der Umlauf des Geldes (S.76 n.59)
		# 2	ibid.	p.889	ibid. > Kap.1, 1) Die Waare (S.3, n.6)
		# 3	ibid.	p.893	Beiheft E > Kap.1, 1) Die Waare (S.5, n.10)
		4	ibid.	p.899	ibid. > Kap.2, 2) Widersprüche der allgemeinen Formel (S.126, n.31)
		5	ibid.	pp.903[-4]	ibid. > Kap.2, 2) Widersprüche der allgemeinen Formel (S.120-1, n.20)
		6	ibid.	p.909	ibid.
		# 7	ibid.	p.906	ibid. > Kap.2, 2) Widersprüche der allgemeinen Formel (S.119, n.17)
		8	ibid.	p.908	ibid.
		9	ibid.	pp.908-9	ibid.
		10	ibid.	p.909	ibid. > Kap.1, 3), B, a) Die Metamorphose der Waaren (S.71, n.56)
		11	ibid.	p.910	ibid. > Kap.1, 2) Der Austauschprozess der Waaren (S.52 n.42)
		12	ibid.	p.910	ibid.
	XXIII 1458-9	Accumulation au delà de la Réproduction annuelle. 年々の再生産を超える蓄積。			
336		# 1	Le Trosne 1846	pp.928-9	Beiheft E
		Mercier de la Rivière: L'ordre naturel et essentiel des sociétés politiques. (1767) Physiocrates. Edit. Daire.メルシエ・ド・ラ・リヴィエール『政治社会の自然のおよび本質的秩序』(1767年)『重農学派』デール編。			
337	XXIII 1459-60	# 1	Mercier de la Rivière 1846	p.486	Beiheft E > Kap.2, 1) Die allgemeine Formel des Kapitals (S.111, n.4)
		# 2	ibid.	p.486	ibid. > Kap.1, 3), C, a) Schatzbildung (S.91, n.69)
		# 3	ibid.	p.540	ibid.
		4	ibid.	p.541	ibid.
		# 5	ibid.	p.543	ibid. > Kap.2, 1) Die allgemeine Formel des Kapitals (S.108, n.2) > Kap.2, 2) Widersprüche der allgemeinen Formel (S.119, n.16)
		# 6	ibid.	p.555	ibid. > Kap.2, 2) Widersprüche der allgemeinen Formel (S.123, n.26)
		# 7	ibid.	p.586	ibid. > Kap.1, 3), B, b) Der Umlauf des Geldes (S.70, n.55)
	XXIII 1460	Verwertungsproceß. 価値増殖過程。			
338		# 1	Mercier de la Rivière 1846	p.599	Beiheft E > Kap.3, 1) Arbeitsprozess und Verwertungsprozess (S.156, n.13)
		2	ibid.	p.599	ibid.
	XXIII 1460	The advantages of the East-India Trade to England. Considered. London. 1720 『イギリスにとっての東インド貿易の利益』、ロンドン、1720年。			
339			[Martyn] 1720		Beiheft D

資料 5

引用関係

1. 表中の●は、『資本論』初版の当該章に引用があることを示す。
2. 表中の「見出整理番号」および「抜粋整理番号」については、資料 4 を見よ。
3. 「抜粋整理番号」に付された✓は、マルクスによって「使用じるし」が付けられていることを示す。
4. 「抜粋整理番号」に付された✕は、マルクスによって「欄外じるし」が付けられていることを示す。

見出整理番号	抜粋整理番号	原典略記号 ページ	HefXX-XXIII	Das Kapital 1st Aufg.	引用文分布状況						
			見出タイトル	章・節タイトル	第 1 章	第 2 章	第 3 章	第 4 章	第 5 章	第 6 章	
3	1 ✕	Hobbes 1839 p.76	Arbeitsvermögen 労働能力	Kap.2, 3) Kauf und Verkauf der Arbeitskraft 労働力の売買		●					
8	14 ✓	[Massie] 1750 p.59	(J.Massie) An Essay on the Governing Causes of the Natural Rate of Interest, wherein the sentiments of Sir W. Petty and Mr. Locke, on that head, are considered. London. 1750 (J.マッシー)『自然的利子率を支配する諸原因に関する一論。この問題に関するサー・W・ペティとロック氏の意見の検討を含む』、ロンドン、1750 年。	Kap.5, 1) Absoluter und relativer Mehrwerth 絶対的および相対的剰余価値							●
10	1	Senior 1830 p.14 sq.	Zu dem Oben bemerkten uber price of labour und value of labouring power: 労働の価格および労働力の価値にかんする上記の点について。	Kap.5, 4), b) Die beiden Grundformen des Arbeitslohns : Zeitlohn und Stücklohn 労賃の2つの基本形態: 時間賃金と出来高賃金							●
13	1	[Arbutnot] 1773 p.128	Einfache Cooperation; 単純協業。	Kap.6, 2) Die s.g. ursprüngliche Accumulation いわゆる本源的蓄積							●
	2 ✓	ibid. pp.7-8		Kap.4, 2) Cooperation 協業						●	
14	1 ✓	[Foster] 1767 p.10	Natürliche Productivität des Landes. 土地の自然生産性	Kap.5, 1) Absoluter und relativer Mehrwerth 絶対的および相対的剰余価値							●
17	5 ✕	[Malthus] 1815a p.48 note	Arbeitslohn. Durchschnitt und movement. 労賃。平均および運動。	Kap.4, 1) Begriff des relativen Mehrwerth 相対的剰余価値の概念							●
	6 ✓	ibid. p.48 note		Kap.5, 2), D. Gleichzeitige Variationen in Lange des Arbeitstags, Produktivkraft und Intensivität der Arbeit 労働日、生産力および労働強度における同時的变化							●
	11 ✓	Remarks 1815 p.48		Kap.5, 4), b) Die beiden Grundformen des Arbeitslohns : Zeitlohn und Stücklohn 労賃の2つの基本形態: 時間賃金と出来高賃金							●
				Kap.5, 4), b) Die beiden Grundformen des Arbeitslohns : Zeitlohn und Stücklohn 労賃の2つの基本形態: 時間賃金と出来高賃金							●

21	1	Smith (A.) 1814 v. 1 p.417 Buchananの注	Steigen des Salairs durch Verwohfeilerung der Waaren. 諸商品の低廉化による賃金の上昇。	Kap.5, 4), b) Die beiden Grundformen des Arbeitslohns : Zeitlohn und Stücklohn 労賃の2つの基本形態: 時間賃金と出来高賃金						●	●
				Kap.6, 2) Die s.g. ursprüngliche Accumulation いわゆる本源的蓄積							●
22	1	Beckmann 1786 v.1 p.127	Abkürzung der Arbeitszeit durch Maschine. 機械による労働時間の短縮。	Kap.4, 4) Maschinerie und grosse Industrie 機械と大工業						●	
25	1 ✓	Berkley 1750 Q.521	Cooperation. 協業。	Kap.4, 2) Cooperation 協業						●	
	2 ✓	ibid. Q.521		Kap.4, 3) Theilung der Arbeit und Manufaktur 分業とマニファアクチャ						●	
26	1 ✕	An essay 1834 p.27	Maschinerie und average Wages. 機械装置および平均賃金。	Kap.4, 1) Begriff des relativen Mehrwerth 相対的剰余価値の概念						●	
	2	ibid. p.29		Kap.4, 4) Maschinerie und grosse Industrie 機械と大工業						●	
28	1 ✕	An essay 1821 pp.13-4	Uterschied von der blosen Erhaltung des constanten und der Reproduction des variablen capitals. 不変資本のたんなる維持と可変資本の再生産との相違。	Kap.3, 2) Constantes Kapital und variables Kapital 不変資本と可変資本					●		
31	1 ✕	An essay 1821 p.47	Absolute Surplusarbeit. Relative Supluswerth. 絶対的剰余労働。相対的剰余価値。	Kap.3, 5) Rate und Masse des Mehrwerths 剰余価値の率と大きさ						●	
	2	ibid. p.49								●	
33	1 ✓	Dunning 1860 p.17	Task-Work, Day-Work, Minimum. 出来高仕事、日給仕事、最低限。	Kap.5, 4), b) Die beiden Grundformen des Arbeitslohns : Zeitlohn und Stücklohn 労賃の2つの基本形態: 時間賃金と出来高賃金							●
	2 ✓	ibid. p.17-8									
34	1 ✕	Dunning 1860 p.22	Work by day and work by piece. 日給仕事と出来高仕事。	Kap.5, 4), b) Die beiden Grundformen des Arbeitslohns : Zeitlohn und Stücklohn 労賃の2つの基本形態: 時間賃金と出来高賃金						●	
45	1	Petty 1667 p.57	ab a) oben Parsons. a)にあげた牧師について。	Kap.6, 1), c) Das allgemeine Gesetz der kapitalistischen Accumulation 資本主義的蓄積の一般的法則							●
	2	ibid. p.57									
47	1	Petty 1667 p.31	Ursprung und Schätzung des surplusvalue. 剰余価値の源泉と評価。 α)	Kap.1, 2) Der Austauschprozeß der Waaren 商品の交換過程	●						
67	1	Petty 1691 p.64	Political Anatomy of Ireland. (und Sapient; Sat.) 1672 (Ausgabe London 1691) 『アイルランドの政治的解剖』(および『賢者には… 足る』) 1672年(ロンドン版、1691年)	Kap.4, 1) Begriff des relativen Mehrwerth 相対的剰余価値の概念						●	
81	1 ✕	Burke 1800 p.[2-]3	Mehrwerth. Constantes und variables Capital. 剰余価値。不変資本と可変資本。	Kap.3, 4) Der Arbeitstag 労働日						●	
	2	ibid. p.10		Kap.3, 2) Constantes Kapital und variables Kapital 不変資本と可変資本						●	







169	4	Barbon 1696 pp.59-60	Weltgeld, Bullion, Waare (55) 世界貨幣、地金、商品(55 ページ)	Kap.1, 3), C. c) Weltgeld 世界貨幣	●					
195	1 ✓	Reasons for 1777 p.31	Capitalist und Arbeiter. 資本家と労働者。	Kap.6, 1), a) Einfache Reproduktion. 単純再生産						●
199	1	Storch 1815 t. I p.204	Nachteile der Theilung der Arbeit. 分業の短所。	Kap.4, 3) Theilung der Arbeit und Manufaktur 分業とマニファアクチャ				●		
211	1 キ	Storch 1815 t. II p.36	Unterschied in der Circulationszeit. 通時間の相違。	Kap.2, 3) Kauf und Verkauf der Arbeitskraft 労働力の売買		●				
	2 キ	ibid. p.37			●					
	4	ibid. pp.140[-1] note		Kap.6, 1), b) Verwandlung von Mehrwerth in Kapital 剰余価値の資本への転化						●
218	1	Quesnay 1846 d p.170	ケネー経済表に関するマルクスの叙述	Kap.1, 3), B. a) Die Metamorphose der Waaren 商品の変態	●					
223	3 キ	[Cunningham] 1770 p.48	Die working class muss das Gefühl der Abhängigkeit von their superiors haben: 労働者階級は、彼らの上位者たちへの依存の念を もたなければならぬ。	Kap.5, 4), b) Die beiden Grundformen des Arbeitslohns : Zeitlohn und Stücklohn 労賃の2つの基本形態: 時間賃金 と出来高賃金					●	
224	1 キ	[Cunningham] 1770 p.61	master-manufacturers know, that there are various ways of rising and falling the price of labour, besides that of altering its nominal value. 製造業企業者たちは、労働の名目的価値を変更 すること以外にも、労働の価格を騰落させるさまざま な方法があることを知っている。	Kap.5, 4), b) Die beiden Grundformen des Arbeitslohns : Zeitlohn und Stück- lohn 労賃の2つの基本形態: 時間賃金 と出来高賃金					●	
	4 キ	ibid. p.73		Kap.3, 4) Der Arbeitstag 労働日			●			
225	2	[Cunningham] 1770 p.260	Wenn workhouse wirken sollen, so müssen sie houses of terror werden: 労役場が機能しなければならぬとすれば、それは 恐怖の家にならなければならぬ。	Kap.3, 4) Der Arbeitstag 労働日			●			
	3	ibid. p.153					●			
	4	ibid. p.54		Kap.6, 1), c) Das allgemeine Gesetz der kapitalistischen Accumulation 資本主義的蓄積の一般的法則						●
230	2 キ	[Cunningham] 1770 p.27,28	Vermehrung der Bevölkerung durch Heranziehen von fremden Arbeitern, so vermehrung der Concurrenz unter den Arbeitern: 外国の労働者を呼び寄せることによって人口を増大 させること、またそれにより労働者間の競争を増大さ せること。	Kap.6, 1), c) Das allgemeine Gesetz der kapitalistischen Accumulation 資本主義的蓄積の一般的法則					●	
231	7	[Cunningham] 1770 p.[70]-71	Ausser dem natürlichen rise im price of necessaries und a general naturalisation, Mittel die Taxes upon Necessaries. 必需品の価格の自然的な騰貴や一般的な帰化のほ かに、必需品に対する課税が「手段」となる。	Kap.6, 1), b) Verwandlung von Mehrwerth in Kapital 剰余価値の資本への転化					●	
236	1 ✓	[Cantillon] 1756 p.185	Stückarbeit. Cantillon "Essai sur la Nature de com- merce en General." (Amsterdamer Ausgabe, 1756, bildet den t. III in den Discours Politiques. Amsterdam 1754-1757.) 出来高賃金労働。カンティヨン『商業一般の性質に関する小 論』。(アムステルダム版、1756年、『政治論集』、アムステル ダム、1754-1757年、の第3巻をなしている。)	Kap.5, 4), b) Die beiden Grundformen des Arbeitslohns : Zeitlohn und Stück- lohn 労賃の2つの基本形態: 時間賃金 と出来高賃金					●	
	2 ✓	ibid. p.202							●	

259	3 #	Condillac 1847 p.267	Mehrwerth. Austausch von gleichen Werthen. 剰余価値。同等な諸価値の交換。	Kap.2, 2) Widersprüche der allgemeinen Formel 一般的定式の諸矛盾	●				
	4 #	ibid. p.267			●				
	5 #	ibid.			●				
	5 #	p.267							
261	2 #	Considerations [1753] p.3	[Considerations concerning taking off the Bounty on Corn exported. In some letters to a friend. To which is added a Postscript, shewing, "That the Price of Corn is no rule to judge of the Value of Land; which will be increased in proportion to the Cheapness of its several Products." London,1753. [[穀物輸出奨励金の廃止に関する考察。一友人あての複数の手紙。「穀物価格は土地の価値を判断するためのなんらの標準でもないこと、土地の価値は土地のいろいろな生産物が低廉になるのに比例して騰貴するであろうこと」を示す追伸を付す]、ロンドン、1753年。	Kap.4, 1) Begriff des relativen Mehrwerth 相対的剰余価値の概念			●		
262	2	Considerations [1753] p.4	Senkung des Arbeitslohn. Arbeitszeitmasse in der ersten Hälfte des 18.Jh. in England. Besaütigung der Restraints, Zunftgesetze, Apprenticeship, Monopole etc. Freie Bewegung des Capitals Mittel den Arbeitslohn zu senken im Verhältniss zum Oreiss der Provisions. 労賃の引下げ。18世紀前半のイギリスにおける労働時間の長さ。産業規制、ギルド諸法、徒弟制、独占、等々の廃棄。資本の自由な運動は、食糧品価格に比例して労賃を低下させる手段となる。	Kap.4, 1) Begriff des relativen Mehrwerth 相対的剰余価値の概念			●		
265	1	Considerations [1753] p.3	Sinken des Werths de Arbeitsvermögens. 労働能力の価値の低下。	Kap.4, 1) Begriff des relativen Mehrwerth 相対的剰余価値の概念			●		
276	1 # ✓	Wakefield 1833 v.1 pp.17-8	Concentration des Capitals (oder grosser Hauffen von Capital) in few hands ist 少数の者たちへの資本の集積(あるいは資本の膨大な堆積)は	Kap.6, 3) Die moderne Kolonisationstheorie 近代植民理論					●
	2 #	ibid. pp.42-4							●
279	1 #	Wakefield 1833 v. 2 p.110	Accumulationsproceß. Labour creates capital before capital employs labour. 資蓄積過程。労働は、資本が労働を雇用する前に、資本を創出する。	Kap.6, 1), b) Verwandlung von Mehrwerth in Kapital 剰余価値の資本への転化					●
281	1	Wakefield 1833 v.1 p.55	Rasche Aufeinanderfolge der Arbeitergenerationen. 労働者世代の急速な交代。	Kap.3, 4) Der Arbeitstag 労働日			●		
283	2	Wakefield 1833 v. 1 p.47	Grosser Profit während des Antjakobinerkriegs. 反ジャコバン戦争期における高利潤。	Kap.6, 3) Die moderne Kolonisationstheorie 近代植民理論					●
288	1	Wakefield 1833 v. 1 p.246	Minimum des Arbeitslohns. 賃金の最低限。	Kap.6, 3) Die moderne Kolonisationstheorie 近代植民理論					●
	2	ibid. p.246							●
289	2	Wakefield 1833 v.2 pp.21-2	Einfache Arbeit (Citirt von Wakefield) 単純労働。(ウエイクフィールドによって引用されている。)	Kap.6, 3) Die moderne Kolonisations theorie 近代植民理論					●
298	1 #	[Gray] 1797 p.66	Aus nominalen Erhöhen des Preisses auf Seiten des Verkaufes kann der Mehrwerth nicht abgeleitet werden. 販売の側での価格の名目的な引き上げからは、剰余価値を導き出すことはできない。	Kap.2, 2) Widersprüche der allgemeinen Formel 一般的定式の諸矛盾			●		
316	2	Newnham 1815 p.20 note	(欄外書き込み) Wages 賃金	Kap.6, 1), b) Verwandlung von Mehrwerth in Kapital 剰余価値の資本への転化					●

327	2	Locke 1777 p.28	John Locke. Works, edit. 1777. London. Vol. II. Some Considerations on the consequences of the Lowering of interest etc (1691) ジョン・ロック『著作集』、1777 年版、ロンドン。第 2 巻、『利子の引下げ…の諸結果に関する若干の考察』(1691 年)。	Kap.1, 1) Die Waare 商品	●					
329	1	Verri 1804a p.16	"Il danaro e la merce univasale" 「貨幣は普遍的商品である。」	Kap.1, 2) Der Austauschprozeß der Waaren 商品の交換過程	●					
330	1	Verri 1804a pp.52-3	Monetarisch und Mercantilisch. 重金主義的かつ重商主義的。	Kap.1, 3), C, a) Schatzbildung 蓄蔵貨幣の形成	●					
332	2	Genovessi 1803 p.139	Antonio Genovesi. Lezioni di Economia Civile. (1765) T.VIII アントニオ・ジェノヴェーシ『市民経済学講義』(1765 年)、第 8 巻。	Kap.2, 1) Die allgemeine Formel des Kapitals 資本の一般的定式	●					
335	1 キ	Le Trosne 1846 p.885	Le Trosne: De l'Intérêt Social etc Physiocrates. Edit. Daire. Paris. 1846 ル・トロースヌ『…社会的利益について』、『重農学派』デール編、パリ、1846 年。	Kap.1, 3), B, b) Der Umlauf des Geldes 貨幣の流通	●					
	2 キ	ibid. p.889		Kap.1, 1) Die Waare 商品	●					
	3 キ	ibid. p.893		●						
	4 キ	ibid. p.899		Kap.2, 2) Widerspruche der allgemeinen Formel 一般的定式の諸矛盾	●					
	5 キ	ibid. pp.903[-4]		●						
	7 キ	ibid. p.906		●						
	10	ibid. p.909		Kap.1, 3), B, a) Die Metamorphose der Waaren 商品の変態	●					
11	ibid. p.910	Kap.1, 2) Der Austauschprozeß der Waaren 商品の交換過程	●							
337	1 キ	Mercier de la Riviere 1846 p.486	Mercier de la Rivière: L'ordre naturel et essentiel des sociétés politiques. (1767) Physiocrates. Edit. Daire.メルシェ・ド・ラ・リヴィエール『政治社会の自然のおよび本質的秩序』(1767 年)『重農学派』デール編。	Kap.2, 1) Die allgemeine Formel des Kapitals 資本の一般的定式	●					
	2 キ	ibid. p.486		Kap.1, 3), C, a) Schatzbildung 蓄蔵貨幣の形成	●					
	5 キ	ibid. p.543		Kap.2, 1) Die allgemeine Formel des Kapitals 資本の一般的定式	●					
	6	ibid. p.555		Kap.2, 2) Widerspruche der allgemeinen Formel 一般的定式の諸矛盾	●					
	7	ibid. p.586		Kap.2, 2) Widerspruche der allgemeinen Formel 一般的定式の諸矛盾	●					
338	1 キ	Mercier de la Riviere 1846 p.599	Verwertungsproceß. 価値増殖過程。	Kap.3, 1) Arbeitsprozeß und Verwerthungsprozeß 労働過程と価値増殖過程		●				

資料6

引用比較

1. 表中の「見出-抜粋整理番号」および「見出タイトル」については、資料4を見よ。
2. 「見出-抜粋整理番号」に付された✓は、マルクスによって「使用される」が付けられていることを示す。
3. 「見出-抜粋整理番号」に付された半は、マルクスによって「欄外される」が付けられていることを示す。
4. 表中において太字体で表されているのは、原著において隔字体で書かれている部分である。

見出-抜粋整理番号	原典	原典頁	( > サブノート > )	1861-63年草稿ノート番号 見出タイトル	>	資本論初版 章節タイトル
8-14 ✓	[Massie] 1750	p.59	( > Beiheft A > )	HeftXXI (Unproductive Arbeit)	>	DK 1st Ausg. Kap.5, 1) Absoluter und relativer Mehrwert
[Massie] 1750	... there are no two Countries which furnish an equal Number of the Necessaries of Life in equal Plenty, and with the same Quantity of Labour, and that Mens Wants increase or diminish with the Severity or Temperateness of the Climate they live in: And consequently, the Proportion of Trade which the Inhabitants of defferent Countries are oblig'd to carry on through Necessity, cannot be the same, nor is it practicable to ascertain the Degree of Variation further than by the Degrees of Heat and Cold, from whence one may make this general Conclusion, that the Quantity of Labour required for the Maintenance of a certain Number of People is greatest in cold Climates, and least in hot ones, for in the former, Men not only want more Cloaths, but the Earth more cultivating, than in the latter, where they have little Occasion for Cloaths, and may often be said to wear them more for Decency and Fashion, than through Necessity: And where the voluntary Productions of Nature are as great, that the Cultivation of Land is much less necessary.					
HeftXXI	“There are no two countries which furnish an equal number of the necessaries of life in equal plenty, and with the same quantity of labour. Men’s wants increase or diminish with the severity or temperateness of the climate they live in; consequently the proportion of trade which the inhabitants of different countries are obliged to carry on through necessity, cannot be the same, nor is it practicable to ascertain the degree of variation further than by the degrees of Heat and Cold; from whence one may make this general conclusion, that quantity of labour required for a certain number of people is greatest in cold climates, and least in hot ones; for in the former men not only want more clothes, but the earth more cultivating than in the latter. ( 59 ) [Heft XXI S.1301][MEGA <sup>2</sup> II/3-6, S.2126]					
Das Kapital. 1st Ausg.	“There are no two countries which furnish an equal number of the necessaries of life in equal plenty, and with the same quantity of labour man’s wants increase or diminish with the severity or temperateness of the climate they live in; consequently the proportion of trade which the inhabitants of different countries are obliged to carry on through necessity, cannot be the same, nor is it practicable to ascertain the degree of variation farther than by the Degrees of Heat and Cold; from whence one may make this general conclusion, that quantity of labour required for a certain number of people is greatest in cold climates, and least in hot ones; for in the former men not only want more clothes, but the earth more cultivating, than in the latter.” (“An Essay on the Governing Causes of the Natural Rate of Interest. Lond. 1750”, p.60.) [DK 1 Ausg. S.503] [MEGA <sup>2</sup> II/5, S.419]					
25-1 ✓	Berkley 1750	p.56	( > Beiheft A > )	HeftXXI Cooperation.	>	DK 1st Ausg. Kap.4 2) Cooperation
Berkley 1750	521. Whether the united Skill, Industry and Emulation of many together on the same Work, be not the Way to advance it? And whether it had been otherwise possible for <i>England</i> , to have carried on her Woolen-Manufacture to so great Perfection?					
HeftXXI	“Whether the united skill, industry and emulation of many together on the same work be not the way to advance it? And whether it had been otherwise possible for England, to have carried on her Woolen Manufacture to so great a perfection?” (Q.521. <i>The Querist</i> etc Lond. 1750) [Heft XXI S.1342][MEGA <sup>2</sup> II/3-6, S.2203]					
Das Kapital. 1st Ausg.	“Whether the united skill, industry and emulation of many together on the same work be not the way to advance it? And whether it had been otherwise possible for England, to have carried on her Woolen Manufacture to so great a perfection?” (Berkeley: “ <i>The Querist</i> .” Lond. 1750, p.521) [DK 1 Ausg. S.318][MEGA <sup>2</sup> II/5, S.272]					
25-2 ✓	Berkley 1750	p.56	( > Beiheft A > )	HeftXXI Cooperation.	>	DK 1st Ausg. Kap.4 3) Theilung der Arbeit und Manufaktur
Berkley 1750	520. Whether the Woolen-Manufacture of <i>England</i> is not divided into several Parts or Branches, appropriated to particular Places, where they are only, or principally manufactured; fine Cloths in <i>Somersetshire</i> , coarse in <i>Yorkshire</i> , long Ells at <i>Exeter</i> , Saies at <i>Sudbury</i> , Crapes at <i>Norwich</i> , Linseys at <i>Kendal</i> , Blankets at <i>Whitney</i> , and so forth?					
HeftXXI	“Whether the Woolen Manufacture of England is not divided into several parts or branches, appropriated to particular places, where they are only, or principally manufactured; fine cloths in Somersetshire, coarse in Yorkshire, long Ells at Exeter, Saies at Sandbury, Crapes at Norwich, Linseys at Kendal, Blankets at Whitney, and so forth?” (Q.520 l.c.) [XXI 1342][MEGA <sup>2</sup> II/3-6, S.2203]					

Das Kapital. 1st. Ausg.	“Whether the Woolen Manufacture of England is not <b>divided</b> into several parts or branches appropriated to particular places, where they are only or principally manufactured; fine clothes in Somersetshire, coarse in Yorkshire, long ells at Exeter, soies at Sandbury, crapes at Norwich, linseys at Kendal, blankets at Whitney, and so forth!” (Berkeley: “The Querist” 1750, p.520) [DK 1 Ausg. S.338] [MEGA <sup>®</sup> II/5, S.288]				
26-1 †	An essay 1834	p.27	( > Beiheft A > )	HefXXXI Maschinerie und average Wages.	DK 1st. Ausg. Kap.4.1) Begriff des relativen Mehrwerth.
An essay 1834	Thus, by competition, their wages are decreased in the same proportion as the powers of production increase. Machinery, it is true, cheapens the necessaries of life, but it also cheapens the labourer, that the alteration of price becomes merely nominal; his wages never remain permanently above the level of mere existence.				
HefXXXI	“Wages are decreased in the same proportion as the powers of production increase. Machinery, it is true, <u>cheapens</u> the <u>necessaries of life</u> , but it also <u>cheapens the labourer</u> .” (27. A Prize Essay on the comparative merits of Competition, and Cooperation etc Lond. 1834) [HefXXXI S. 1342-3] [MEGA <sup>®</sup> II/3-6, S.2203]				
Das Kapital. 1st. Ausg.	“Wages are <b>decreased</b> in the same proportion as the <b>powers of production increase</b> . Machinery, it is true, cheapens the necessaries of life, but it also <b>cheapens the labourer</b> too.” (“A Prize Essay on the comparative merits of Competition and Cooperation. Lond. 1834” p.27) [DK 1 Ausg. S.300] [MEGA <sup>®</sup> II/5, S.258]				
26-2	An essay 1834	p.29	( > Beiheft A > )	HefXXXI Maschinerie und average Wages.	DK 1st. Ausg. Kap.4.4) Maschinerie und grosse Industrie.
An essay 1834	<p>The moment the machine comes into competition with human labour, the wages of that labour begin to adjust themselves to the lesser cost of production by the machine. The Rev. Mr. Turner, was in 1827, rector of Wilmstowe, in Cheshire, a manufacturing district. The questions of the Committee of Emigration, and Mr. Turner’s answers shew how the competition of human labour is maintained against machinery.</p> <p><i>Question.</i> “Has not the use of the power-loom superseded the use of the hand-loom?”</p> <p><i>Answer.</i> “Undoubtedly; it would have superseded them much more rapidly than it has done, if the hand-loom weavers were not enabled to submit to a reduction of wages.”</p> <p><i>Question.</i> “But in so submitting he has accepted wages which are insufficient to support him, and he looks to parochial contribution for the remainder of his support?”</p> <p><i>Answer.</i> “Yes, and in fact the competition between the hand-loom and the power-loom is maintained out of the poor rates.”</p> <p>Thus, by the author’s own confession, degrading pauperism* or expatriation, is the benefit which the industrious receive from the introduction of machinery, to be reduced from the respectable and in some degree independent mechanic, to the cringing wretch who lives on the debasing bread of charity. This he calls a “temporary inconvenience.”</p>				
HefXXXI	<p>“The moment the machine comes into competition with human labour, the wages of that labour begin to adjust themselves to the lesser cost of production by machine. The Rev. Mr. Turner, was in 1827, rector of Wilmstowe, in Cheshire, a manufacturing district. The questions of the <u>Committee of Emigration</u>, and Mr. Turner’s answers shew how the competition of human labour is maintained against machinery. <u>Question.</u> “Has not the use of the power-loom superseded the use of the handloom?” <u>Answer:</u> Undoubtedly; it would have superseded them much more rapidly than it has done, if the handloom weavers were not enabled to submit to a reduction of wages.” <u>Question.</u> “But in so submitting he has accepted wages which are insufficient to support him ...” <u>Answer</u> “... in fact the competition between the hand-loom and the power-loom is maintained out of the poor-rates.” “Thus ... degrading pauperism or expatriation, is the benefit which the industrious receive from the introduction of machinery, to be reduced from the respectable and in some degree independent mechanic, to the cringing wretch who lives on the debasing bread of charity. This they call a ‘temporary inconvenience’.” (29. 1.c.) [HefXXXI S. 1342-3] [MEGA<sup>®</sup>II/3-6, S.2203]</p>				
Das Kapital. 1st. Ausg.	<p>“The Rev. Mr. Turner, was in 1827 rector of Wilmstone, in Cheshire, a manufacturing district. The questions of the Committee of Emigration, and Mr. Turner’s answers show how the competition of human labour is maintained against machinery. <b>Question:</b> ‘Has not the use of the power-loom superseded the use of the hand-loom?’ <b>Answer:</b> ‘Undoubtedly; it would have superseded them much more than it has done, if the hand-loom weavers were not enabled to submit to a reduction of wages.’ <b>Question:</b> ‘But in submitting he has accepted wages which are insufficient to support him, and he looks to parochial contribution as the remainder of his support?’ <b>Answer:</b> ‘Yes, and in fact the competition between the hand-loom and the power-loom is maintained out of the poor-rates.’ Thus degrading pauperism or expatriation, is the benefit which the industrious receive from the introduction of machinery, to be reduced from the respectable and in some degree independent mechanic, to the cringing wretch who lives on the debasing bread of charity. This they call a <b>temporary inconvenience</b>” (“A Prize Essay on the comparative merits of Competition and Cooperation. Lond. 1834” p.29) [DK 1 Ausg. S.423] [MEGA<sup>®</sup>II/5, S.354]</p>				

28-1 †	An essay 1821 p.13-4	( > Beiheft A > )	HeftXXI Unterschied von der bloßen Erhaltung des konstanten und der Reproduction des variablen capitals.	DK 1st Ausg. Kap.3 2) Constantes Kapital und variables Kapital
An essay 1821	The only proper reproductive consumption is the final one, that which labour gives against a commodity, a new creation for one extinguished. The whole of production seems comprised in the mind in passing by all intermediate exchanges and processes, and going at once with the commodity to the labour which returns, agricultural or manufacturing, a new value, either in entire creation or addition of improvement to one begun.			
HeftXXI	“The only proper <u>reproductive consumption</u> is the final one, that which <u>labour gives against a commodity</u> , a <u>new creation</u> for one <u>extinguished</u> . The <u>whole of production</u> seems comprised in the mind in passing by all intermediate exchanges and processes, and going at once with the commodity to the labour which <u>returns</u> , agricultural or manufacturing, a <u>new value</u> , either in entire creation or addition of improvement to one begun.” (13, 14) [HeftXXI S. 1344] [MEGA <sup>2</sup> /II/3-6, S.2204]			
Das Kapital. 1st Ausg.	“Labour gives a new creation for one extinguished.” (An Essay on the Polit. Econ. of Nations. London 1821, p.13.) [DK 1 Ausg. S.166][MEGA <sup>2</sup> /II/5, S.148]			
31-1,2 †	An essay 1821 p.47,48	( > Beiheft A > )	HeftXXI Absolute Surplus- arbeit. Relative Sur- pluswerth.	DK 1st Ausg. Kap.3 5) Rate und Masse des Mehrwerts.
An essay 1821	The labour, that is, the economic time of a society, is a given portion, say ten hours a day of a million of people, or ten million hours. ... Thus capital has its boundary of increase. This boundary may, at a given period, be attained in the actual extent of economic time employed, although the productive powers of the community might be still susceptible of improvement. A society can increase by extending the quantity of labour, or making it more effective in other terms, augmenting population, division of labour, machinery, scientific knowledge.			
HeftXXI	“The labour, that is the <u>economic time of a society</u> , is a given portion, say ten hours a day of a million of people, or ten million hours.” (47) “Capital has its boundary of increase. This boundary may, at a given period, be attained in the actual extent, of economic time <u>employed</u> , although the <u>productive powers</u> of the community might be still susceptible of improvement. A society can increase by <u>extending the quantity of labour</u> , or <u>making it more effective</u> in other terms, <u>augmenting population</u> , division of labour, machinery, scientific knowledge.” (49) [HeftXXI S. 1344] [MEGA <sup>2</sup> /II/3-6, S.2205]			
Das Kapital. 1st Ausg.	“The labour, that is, the <u>economic time of a society</u> , is a given portion, say ten hours a day of a million of people, or ten millions hours ... Capital has its boundary of increase. The boundary may, at any given period, be attained in the actual extent of economic time employed.” (“An Essay on the Political Economy of Nations. London 1821”, p. 48, 49) [DK 1 Ausg. S.286][MEGA <sup>2</sup> /II/5, S.245]			
33-1-2 ✓	Dunning 1860 pp.17-8	( > Beiheft A > )	HeftXXI Task-Work, Day-Work, Minimum.	DK 1st Ausg. Kap.5, 4) b) Die beiden Grundformen des Arbeitslohns : Zeitlohn und Stücklohn
Dunning 1860	... where the work in any trade is paid for by the “piece” at so much per job — as, for example, among the compositors, the type, in London, is for the most part composed at so much per 1,000 letters — there is no uniform rate <u>received</u> by the workmen. There is generally an uniform rate, or nearly so, of the price of the various jobs; but, as workmen of different quickness and skill will do more or less work at the same price per job, their wages may vary materially differ in amount. But in work by the day there is generally an uniform rate, which is adjusted in the first instance by the principle of demand and supply, which operates like the circulation of the blood without anyone scarcely being aware of it, and the result is a settled rate of wages, which becomes recognised by both employer and employed as the standard of wages for the general run of workmen in the trade. ... It is quite true that some men are able to earn, and do earn, more than others. As the uniform rate is generally made for the general run of men, some men will be worth more and some worth less than its amount. ... where the uniformity, as a general practice, is kept up, the reason usually is — that the employer likes to reap the benefit arising from the man being worth more, and is also afraid that if he increased this man’s wages, he would probably be called upon to raise the others; and the men, on the other hand, would be against the man who was not worth the regular rate taking less, lest the others might be reduced to it.			
HeftXXI	“Where the work in any trade is paid for by the “piece” at so much per job — as, f. i. among the compositors, the type, in London, is for the most part comprised at so much per 1000 letters — there is no uniform rate <u>received</u> by the workmen. There is generally an <u>uniform rate</u> , or nearly so, <u>of the price of the various jobs</u> ; but, as workmen of different quickness and skill will do more or less work at the same price per job, their wages may vary materially differ in amount. (17) But in work by the day there is generally an uniform rate ... recognised by both employer and employed as the <u>standard of wages</u> for the general run of workmen in the trade ... some men will be worth more and some worth less than its amount ... the employer likes to reap the benefit arising from the man being worth more, and is also afraid that if he increased this man’s wages, he would probably be called upon to raise the others; and the men, on the other hand, would be against the man who was not worth the regular rate taking less, lest the others might be reduced to it.” (17, 18) [HeftXXI S. 1345] [MEGA <sup>2</sup> /II/3-6, S.2206]			

Das Kapital. 1st. Ausg.	53) "Where the work in any trade is paid for by the <b>piece</b> at so much per job ... <b>wages</b> may very materially differ in <b>amount</b> ... But in <b>work by the day</b> there is generally an <b>uniform rate</b> ... recognized by both employer and employed as the standard of wages for the general run of workmen in the trade." (Dunning Lc. p.17) [DK 1 Ausg. S.543][MEGA <sup>®</sup> II/5, S.450]				
34-1 †	Dunning 1860	p.22	( > Beiheft A > )	HeftXXII Work by day and work by piece.	DK 1st. Ausg. Kap.5. 4) b) Die beiden Grundformen des Arbeitslohns: Zeitlohn und Stücklohn.
Dunning 1860	The compositors of London, as a general rule, work by the piece, time-work being the exception; while those in the country work by the day, the exception being work by the piece. The shipwrights of the Port of London work by the job or piece, while those of all other ports work by the day. Indeed, the main objection in different trades to working by the piece is in the complaint that, when the men are found to earn good wages at it, the employer wishes to reduce the price of the work, and that it is so often made use of, as a means of reducing wages. There are, as we are informed, in the engineering trades three modes: ...				
HeftXXII	"The compositors of London, as a general rule, work by the piece, timework being the exception; while those in the country work by the day, the exception being work by the piece. The shipwrights of the Port of London work by job or piece, while those of all other ports work by the day. Indeed, <u>the main objection</u> in different trades to <u>working by the piece</u> is the complaint that, when the men are found to earn good wages at it, the employer wishes to reduce the price of the work, and that it is so often made use of as a means of reducing wages." (22) [HeftXXI S. 1346] [MEGA <sup>®</sup> II/3-6, S.2207]				
Das Kapital. 1st. Ausg.	Z.B. "Die Setzer von London arbeiten in der Regel nach Stücklohn, während Zeitlohn bei ihnen die Ausnahme bildet. Umgekehrt bei den Setzern in den Provinzen, wo der Zeitlohn die Regel und der Stücklohn die Ausnahme. Die Schiffszimmerleute im Hafen von London werden nach Stücklohn bezahlt, in allen andern englischen Häfen nach Zeitlohn" <sup>46)</sup> . 46) T. J. Dunning: "Trade's Unions and strikes. Lond. 1860", p.22. [DK 1 Ausg. S.538-9][MEGA <sup>®</sup> II/5, S.447]				
45- 2	Petty 1667	p.57	( > Beiheft A > )	HeftXXII ab a) oben Parsons.	DK 1st. Ausg. Kap.6. 1). c) Das allgemeine Gesetz der kapitalistischen Accumulation.
Petty 1667	8. ... ; or that Religion best flourisheth when the Priests are most mortified, as was before said of the Law, which best flourisheth when Lawyers have least to do. 9. But what ever the increase of the Churches Goods are, I grudge it them not; onely wish that they should take a course to enjoy it with safety and peace to themselves; whereof one is, not to breed more Churchmen then the Benefices as they now stand shared out, will receive; that is to say, if there be places but for about twelve thousand in <i>England and Wales</i> , it will not be safe to breed up 24000. Ministers, upon a view or conceipt that the Church Means otherwise distributed might suffice them all, for then the twelve thousand which are unprovided for, will seek ways how to get themselves a livelihood; which they cannot do more easily then by perswading the people, that the twelve thousand Incumbents do poison or starve their souls, and misguide them in their way to Heaven:				
HeftXXII	"Religion best flourishes when the priests are most mortified, as... the law ... best flourishes when lawyers have least to do. (57) Unter allen Umständen rät er den Parsons „not to breed more Churchmen than the benefices, as they now stand shared out, will receive". Z. B. 12000 benefices in England und Wales. Dann „it will not be safe to breed up 24000 ministers". Denn sonst machen die 12000 Unversorgten Konkurrenz "which they cannot do more easily than by persuading the people, that the 12000 incumbents do poison or starve their souls, (dieß mit Anspielung auf den englischen Religionstag) and misguide them in their way to heaven". (57) [HeftXXI S. 1347] [MEGA <sup>®</sup> II/3-6, S.2208]				
Das Kapital. 1st. Ausg.	76)..... Als ob er diese Geschäftsverpfuschung geahnt, sagt Petty, der die Population als Basis des Reichthums behandelt, und, gleich Adam Smith, abgesagter Pfaffenfeind: „Die Religion blüht am besten, wenn die Priester am meisten kasteit werden, wie das Gesetz am besten, wo die Advokaten hungerten.“ Er rät daher den protestantischen Pfaffen, wenn sie einmal dem Apostel Paulus nicht folgen und sich nicht durch das Cölibat "mortificiren" wollen, "doch ja nicht mehr Pfaffen zu hecken („not to breed more Churchmen") als die vorhandenen Pfründen (benefices) absorbieren können; d. h. wenn es nur 12,000 Pfründen in England und Wales gibt, ist es unweis 24,000 Pfaffen zu hecken („it will not be safe to breed up 24,000 ministers"), denn die 12,000 Unversorgten werden stets einen Lebensunterhalt zu gewinnen suchen, und wie könnten sie das leichter thun, als indem sie das Volk gehn und es überreden, die 12,000 Pfründner vergifeten die Seelen, und hungerten selbige Seelen aus, und zeigten ihnen den Holzweg zum Himmel?" (Petty: „A Treatise of Taxes and Contributions. Lond. 1667"; p.57.) [DK 1 Ausg. S.604][MEGA <sup>®</sup> II/5, S.497-8]				
47-1	Petty 1667	p.31	( > Beiheft A > )	HeftXXII α)	DK 1st. Ausg. Kap.1. 2) Der Austauschprozeß der Waaren.
Petty 1667	If a man can bring to <i>London</i> an ounce of Silver out of the Earth in <i>Pernu</i> , in the same time that he can produce a bushel of Corn, then one is the natural price of the other; now if by reason of new and more easie Mines a man can get two ounces of Silver as easily as formerly he did one, then Corn will be as cheap at ten shillings the bushel, as it was before at five shillings <i>caeteris paribus</i> .				

HeftXXII	<p>Zuerst fragt es sich, was ist der Werth (in Geld oder einer Waare?, näher von Korn?)                  α) "If a man can bring to London an ounce of silver out of the earth in Peru, <u>in the same time</u> that he can produce a bushel of corn, then one is the natural price of the other; now if by reason of new and more easier mines a man can get two ounces of silver as easily as formerly he did one, then Corn will be as cheap at ten shillings the bushel, as it was before at 5 sh., caeteris paribus." (31) 【HeftXXI S. 1348】 [MEGA<sup>2</sup>/II/3-6, S.2209]</p>			
Das Kapital. 1st Ausg.	<p>43) "If a man can bring to London an ounce of silver out of the earth in Peru, <u>in the same time</u> that he can produce a bushel of corn, then one is the natural price of the other; now if by reason of new and more easier mines a man can procure two ounces of silver as easily as he formerly did one, the corn will be as cheap at 10 shillings the bushel, as it was before at 5 shillings., caeteris paribus." <b>William Petty: "A Treatise of Taxes and Contributions. Lond. 1667" p.31</b> [DK 1 Ausg. S.53] [MEGA<sup>2</sup>/II/5, S.58]</p>			
67-1	Petty 1691 p.64	( > Beiheft A > )	HeftXXII 2)	DK 1st Ausg. Kap.4 1) Begriff des relativen Mehrwerth
Petty 1691	<p>That some Men will eat more than others, is not material, since by a days food we understand 1/100 part of what 100 of all Sorts and Sizes will eat, so as to Live, Labour, and Generate. And ...</p>			
HeftXXII	<p>"That some men will eat more than others is not material, since by a days food we understand what 1/100 part of all sorts and sizes will eat, so as to live, labour, and generate." (64) 【HeftXXI S. 1399】 [MEGA<sup>2</sup>/II/3-6, S.2292]</p>			
Das Kapital. 1st Ausg.	<p>1) Der Werth des täglichen Durchschnittslohns ist bestimmt durch das, was der Arbeiter braucht „, so as to live, labour, and generate.“ (<b>William Pety: „Political Anatomy of ireland“</b> 1672, p.64) [DK 1 Ausg. S.292] [MEGA<sup>2</sup>/II/5, S.252]</p>			